熊本県文化財調査報告第２７９集

The kawasiritojyoumachi Site

川尻外城町遺跡

－　九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　－

2013

熊 本 県 教 育 委 員 会

川尻外城町遺跡

－　九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　－

２０１３
熊 本 県 教 育 委 員 会

緑川左岸より金峰山を臨む

1. 溝 SD008 出土遺物
2. 調査区内出土遺物

序　文

本書は、九州新幹線建設工事に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施した、熊本市南区川尻地区に所在する「川尻外城町遺跡」の発掘調査報告書です。

川尻外城町遺跡は、緑川水系の加勢川下流域に位置し、中世から物資の流通や対外的に重要な貿易港として、中国明代の『図書篇』に為牙子世六（八代）、為阿麻国撤（天草）、為昏陀（宇土）、為一国撤介烏刺（軍浦）、為達加什（高瀬）とともに「開懐世利（川尻）」と記され中国にも知られた有名な港町として繁栄した川尻にあり、調査区上流部には天正 16（1588）年に肥後半国の大名として入国した加藤清正によって河港として整備が進められた川尻船着場跡が所在しています。

今回の調査で中・近世の土杭や溝が検出され、多くの陶磁器類が出土するなど往時の繁栄の様子の一端を伺い知ることができました。

本書が学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として学校教育や生涯学習など、幅広く活用され、さらにそれが県土の発展へと繋がることを切に希望します。

最後になりましたが、本事業において埋蔵文化財発掘調査にご理解、ご協力をいただきました独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、熊本市教育委員会をはじめ、関係各位に対し心より感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月 31 日

熊本県教育長　田　崎　龍　一

川尻外城町遺跡発掘調査報告

－　九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査　－

目　次

第１章　序言

１　調査に至る経緯（事業計画の概要）・・・・・・・・・・・ 1

２　事業への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

３　調査組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

４　整理組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第２章　調査

１調査地域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

（1）遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

（2）歴史的背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

（3）既往の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

（4）測量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

（5）その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

２調査日誌抄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

第３章　遺構

１ 調査第１区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

２ 調査第２区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

３ まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

第４章　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

写真図版

報告書抄録

奥付

挿図目次（Fig）

Fig. 1　熊本県域における地形表記と九州新幹線建設工事により発掘調査を実施した遺跡
Fig. 2　川尻外城遺跡周辺位置図 1/5000
Fig. 3　周辺遺跡地図　1/20000
Fig. 4　1 区遺構配置図 1/400 及び土層断面図 1/300
Fig. 5　1 区　土坑 SK001 遺構実測図
Fig. 6　1 区　土坑 SK002 遺構実測図
Fig. 7　1 区　土坑 SK003 遺構実測図
Fig. 8　1 区　墓 ST001 遺構実測図
Fig. 9　2 区　遺構配置図 1/400 及び土層断面図 1/200
Fig.10　2 区　土坑 SK057 遺構実測図
Fig.11　2 区　墓 ST002 遺構実測図
Fig.12　溝 SD001・SD003・SD008 出土遺物実測図
Fig.13　溝 SD008 出土遺物実測図
Fig.14　溝 SD010・SD013、土坑 SK001 出土遺物実測図
Fig.15　土坑 SK002 出土遺物実測図
Fig.16　土坑 SK003・SK029・SK032・SK034・SK055 出土遺物実測図
Fig.17　土坑 SK105・SK106・SK111 出土遺物実測図
Fig.18　墓 ST001・ST002 出土遺物実測図
Fig.19　調査区内出土遺物実測図ー①
Fig.20　調査区内出土遺物実測図ー②
Fig.21　出土遺物（鞴の羽口、木簡、刀子）実測図
Fig.22　溝 SD002・SD003・SD010、土坑 SK001 ～ 003、調査区内出土遺物実測図
Fig.23　出土遺物（瓦）実測図
Fig.24　出土遺物（五輪塔）実測図ー①
Fig.25　出土遺物（五輪塔）実測図ー②
Fig.26　出土遺物（五輪塔）実測図ー③
Fig.27　出土遺物（古銭）実測図
Fig.28　座標測地点

写真目次（PL）

PL. 1　遺跡の鳥瞰　緑川左岸より金峰山を臨む
PL. 2　1. 溝 SD008 出土遺物　2. 調査区内出土遺物
PL. 3　1. 1 区 4 層完掘状況　北より　2. 1 区 6 層完掘状況　北より
PL. 4　1. 1 区土坑 SK001 遺物出土状況　2. 1 区土坑 SK002 遺物出土状況
PL. 5　1. 1 区土坑 SK003 遺物出土状況　2. 1 区墓 ST001 遺物出土状況
PL. 6　1. 2 区 4 層完掘状況　2. 2 区 5 層完掘状況
PL. 7　1. 溝 SD001 出土遺物　2. 溝 SD003 出土遺物　3 . 溝 SD008・（写真のみ）出土遺物
4. 溝 SD008 出土遺物（写真のみ）　5. 溝 SD008 出土遺物
PL. 8　1. 溝 SD008・（写真のみ）出土遺物　2. 溝 SD008 出土遺物（写真のみ）
PL. 9　1. 溝 SD008 出土遺物　2. 溝 SD008 出土遺物（写真のみ）
PL.10　1. 溝 SD008・（写真のみ）出土遺物　2. 溝 SD008・（写真のみ）出土遺物
PL.11　1. 溝 SD009 出土遺物（写真のみ）　2. 溝 SD010・（写真のみ）出土遺物
3. 土坑 SK001 出土遺物
PL.12　1. 土坑 SK001 出土遺物（写真のみ）　2．土坑 SK001・（写真のみ）出土遺物
PL.13　1. 土坑 SK001 出土遺物（写真のみ）　2．土坑 SK001 出土遺物
PL.14　1. 土坑 SK001・（写真のみ）出土遺物　2 .3.4. 土坑 SK002 出土遺物

写真目次（PL）

PL.15　1. 土坑 SK002 出土遺物（写真のみ）　2 .3. 土坑 SK002 出土遺物
PL.16　1.2. 土坑 SK002 出土遺物（写真のみ）
PL.17　1. 土坑 SK003 出土遺物　2 .3. 土坑 SK003 出土遺物（写真のみ）
PL.18　1. 土坑 SK004 出土遺物（写真のみ）　2 . 土坑 SK029 出土遺物（写真のみ）
3 . 土坑 SK029 出土遺物　4 . 土坑 SK031 出土遺物（写真のみ）
PL.19　1. 土坑 SK032 出土遺物　2. 土坑 SK034 出土遺物　3. 土坑 SK055 出土遺物（写真のみ）
PL.20　1. 土坑 SK055 出土遺物　2.3.4. 調査区内出土遺物　5. 調査区内出土遺物（写真のみ）
PL.21　1.2. 調査区内出土遺物
PL.22　1. 調査区内出土遺物　2. 調査区内・（写真のみ）出土遺物
3 . 溝 SD008 出土遺物　4. 坩堝
PL.23　1. 輸入陶磁器 白磁・青白磁 出土遺物（写真のみ）　2. 輸入陶磁器 青磁 出土遺物（写真のみ）
PL.24　1.2. 輸入陶磁器 染付 出土遺物（写真のみ）　3 . 輸入陶器出土遺物（写真のみ）
PL.25　1. 調査区内 染付 出土遺物（写真のみ）　2 . 瑠璃釉・翡翠釉 出土遺物（写真のみ）
3 . 中国白磁 出土遺物（写真のみ）　4. 染付（吉祥文字）出土遺物（写真のみ）
PL.26　1. 土人形（写真のみ）　2. 古銭
PL.27　1. 溝 SD008 出土遺物（写真のみ）2. 溝 SD008 出土遺物　3 . 溝 SD013 出土遺物
4.5. 土坑 SK001 出土遺物（写真のみ）
PL.28　1. 土坑 SK055 出土遺物　2 . 土坑 SK111 出土遺物　3 . 土坑 SK106 出土遺物
4 . 土坑 SK105 出土遺物
PL.29　1. 墓 ST001 出土遺物　2. 墓 ST002 出土遺物　3. 調査区内出土遺物
4. 調査区内出土遺物（写真のみ）　5.6. 調査区内出土遺物
PL.30　1. 溝 SD016 出土遺物　2. 土坑 SK110 出土遺物　3. 銅製品　4. 石製品
PL.31　1 ～ 4. 軒丸瓦　5. 軒目板（桟瓦）　6.7. 滴水瓦
PL.32　1 ～ 3 . 軒平瓦　4. 平瓦　5. 鬼瓦
PL.33　五輪塔

表目次 (Tab)

Tab.1　九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧－①
Tab.2　九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧－②
Tab.3　調査区内基準点測量成果
Tab.4　遺跡地名表
Tab.5　出土遺物観察表－①
Tab.6　出土遺物観察表－②
Tab.7　出土遺物（木製品）観察表－③
Tab.8　出土遺物（鉄製品）観察表－④
Tab.9　出土遺物（土製品）観察表－⑤
Tab.10　出土遺物（石製品）観察表－⑥
Tab.11　出土遺物（瓦）観察表－⑦
Tab.12　出土遺物（五輪塔）観察表－⑧
Tab.13　出土遺物（古銭）観察表－⑨
Tab.14　出土遺物観察表（写真のみ）－①
Tab.15　出土遺物観察表（写真のみ）－②
Tab.16　出土遺物観察表（写真のみ）－③
Tab.17　出土遺物観察表（輸入陶磁器 写真のみ）－④
Tab.18　出土遺物観察表（輸入陶磁器 写真のみ）－⑤
Tab.19　出土遺物観察表（写真のみ）－⑥
Tab.20　出土遺物観察表（坩堝　写真のみ）－⑦
Tab.21　出土遺物観察表（銅製品　写真のみ）－⑧
Tab.22　出土遺物観察表（土製品　写真のみ）－⑨

川尻外城遺跡　発掘調査報告

－九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

第１章　序言

１　調査に至る経緯（事業計画の概要）

川尻外城遺跡埋蔵文化財発掘調査は、九州新幹線建設工事（熊本総合車輛基地建設工事）に伴い、当該遺跡の地下に埋蔵されている文化財が建設工事により影響を受けると判断されたことからそれらを記録保存し、後世に伝えていくことを目的に平成 18 年 12 月 4 日から平成 19 年 5 月 31 日まで事業の施工主である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 九州新幹線建設局（以下、「鉄道・運輸機構」という。）から委託を受け、熊本県教育委員会が実施したものである。

調査の起因となった九州新幹線鹿児島ルートは、国民経済の発展及び国民生活領域の拡大並びに地域の振興を図る目的で「全国新幹線鉄道整備法」に基づき建設されるもので、福岡市から熊本市、鹿児島県川内市付近を経由し鹿児島市に至るまでの総延長約 249 ㎞の九州縦軸の大動脈である。完成により、移動時間の短縮、県内総生産にもたらす経済波及効果及び地域間交流の拡大等多くのメリットがもたらされることから、各界から早期の開業が望まれている。

当該ルートは、昭和 48 年 11 月 13 日に整備計画の決定及び建設の指示がなされた後、昭和 61 年 8 月 29 日に工事実施計画認可申請がなされたが、その後の経済状況や社会情勢の変化に伴い、平成 3 年 8 月 22 日先行して八代－西鹿児島間について工事実施計画が認可され、同年 9 月 7 日に起工した。その後、平成 10 年 3 月 12 日に船小屋－新八代間の工事実施計画が認可され、同年 3 月 21 日に起工、さらに平成 13 年 4 月 25 日に博多－新八代間の工事実施計画が追加認可され、同年 6 月 2 日に博多－船小屋間が起工している。

2004 年（平成 16 年）3 月 13 日には新八代駅－鹿児島中央駅（旧 . 西鹿児島駅）間がフル規格で部分開業し、続いて 2011 年（平成 23 年）3 月 12 日には博多駅－新八代駅間が開業し、整備計画の決定から 38 年を経て全線で営業運転を開始した。

（吉田徹也）

２　事業への取り組み

熊本県内における九州新幹線建設事業への取り組みは、平成４年（1992 年）に日本鉄道建設公団九州新幹線建設局により八代－水俣間の事業計画が示された事により始まった。平成８年（1996 年）には水俣市において「長野遺跡」を確認し、平成９年（1997 年）12 月より発掘調査に着手した。その後引き続き、芦北郡津奈木町内における試掘調査を皮切りに、八代市域を含む先行着手区間において同事業における取り組みが本格化した。平成 12 年（2000 年）８月には熊本県内で起点となる八代市において「西片百田遺跡」「中片小路遺跡」の調査が始まり、平成 15 年８月の「宮地小畑遺跡（側道部）」の調査をもって、新八代－鹿児島中央間の調査は終了した。

その後、工事計画の中心は博多－新八代間へと移り、用地買収の進捗とともに当該地区を含む県央、同じく熊本駅周辺、県北部域となる玉名市域へと発掘調査の範囲は拡大していった。

３　調査組織

【発掘調査】平成 18 年度

調査責任者　文化課長　梶野英二
調査総括　課長補佐　倉岡　博
調査指導　課長補佐（文化財調査第一係担当）
高木正文
調査担当者　参事　坂口圭太郎
主任主事　松森由美
非常勤職員　吉留　広

平成 19 年度

調査責任者　文化課長　梶野英二
調査総括　課長補佐　倉岡　博
調査指導　課長補佐（文化財調査第一係担当）
高木正文
調査担当者　主任主事　松森由美
非常勤職員　吉留　広、多賀晴司、横田光智

４　整理組織

【整理報告書作業】

平成 24 年２月１日～平成 25 年３月 31 日

整理責任者	文化課長	小田信也
整理総括	文化財調査第一係長	村崎孝宏
整理担当者	参事	長谷部善一（岩手県教育委員会派遣）
	文化財保護主事	佐藤哲郎
	非常勤職員	唐木ひとみ、稲葉貴子
	整理作業員	福島典子（班長）　藤井美智子（副班長）塩田喜美子　小早川隆春 石田敦子　今崎光成　溜淵俊子　本田頼子　（以上、一次整理） 土田みどり　岩下恵美子　田中裕子　井上真優（以上、二次整理）

専門調査員　　近世陶器・磁器に関する遺物実見・指導
佐賀県立九州陶磁文化館　家田淳一

調査指導機関及び調査助言・協力者
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部 九州新幹線建設局
九州旅客鉄道株式会社熊本鉄道事業部
佐賀県立九州陶磁文化館　熊本市教育委員会
牛嶋茂

調査（整理）業務に伴う委託事業一覧

測量業務	長田測量設計株式会社（１区） 十八測量設計株式会社（２区）
遺構実測業務	株式会社　埋蔵文化財サポートシステム
空中写真撮影業務	写測エンジニアリング株式会社
遺物一次整理業務	株式会社　埋蔵文化財サポートシステム
遺構・遺物デジタルトレース業務	株式会社　埋蔵文化財サポートシステム
遺物撮影及び図版版下作成業務	写測エンジニアリング株式会社

地域	No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	調査担当者	遺跡の年代	調査種別	報告書
熊本県南部（水俣・八代市域）	1	長野遺跡	水俣市長野町	1,500 ㎡（×２面）	H9.12.8～H10.3.31	村崎孝宏　中川裕二	縄文晩期 弥生後期　古代	本線	第 189 集
	2	古麓城跡遺跡	八代市古麓町	3,800 ㎡	H12.12.5～H13.5.31	出田久斉　米村大	中世	本線	第 227 集
	3			2,200 ㎡	H13.10.9～H14.4.30	古城史雄　水野哲郎 青柳博晃　松尾茂 宮崎拓	古代　中世 近世	本線	
	4	古麓能寺遺跡	八代市古麓町字能寺	4,528 ㎡（×３面）	H13.4.28～H14.3.20	青木勝士　松尾繁	古代　中世	本、電施	第 216 集
	5	古麓城下遺跡	八代市古麓町字砥崎	505 ㎡（×２面）	H14.1.18～H14.4.20	青木勝士　米村大 松尾繁　本田麻紀	古代　中世	本線	
	6	宮地観行寺遺跡	八代市宮地町字観行寺	1802.7 ㎡（×４面）	H13.10.9～H14.6.30	山城敏明　角田賢二 池田朋生　宇田員将 豊原加奈子　濱田教靖	古墳　古代 中世	本線	第 235 集
	7			352.4 ㎡（×３面）	H15.5.6～H15.9.30	高田英樹　長谷部善一 宇田員将	古墳　古代 中世	迂道	第 254 集
	8	宮地小畑遺跡	八代市宮地町字小畑	1,072.1 ㎡（×４面）	H14.2.1～H14.6.3	坂田和弘　坂口圭太郎 長谷部善一　中村幸宏 上高原 聡　宇田員将 内田成香　洲崎明子 村中智絵	古代　中世	本線	第 235 集
	9			1,530.4 ㎡（×３面）	H14.4.1～H15.10.12	長谷部善一　高田英樹 和田敏郎　三宅一生	古代　中世	迂道	第 254 集
	10	中片小路遺跡	八代市中片町字小路	3,800 ㎡（×２面）	H12.8.1～H13.3.31	出田久斉　米村大	古代　中世	本線	第 228 集
	11				H13.10.1～H14.2.28	坂口圭太郎　森貴史	古墳　古代 近世	本線	第 228 集
	12			1,200 ㎡（×３面）	H14.12.4～H15.3.12	長谷部善一　村中智絵	古代　近世	迂道	第 224 集
	13	西片稲村遺跡	八代市西片町字稲村	2,800 ㎡	H13.4.15～H13.9.28	坂口圭太郎　森貴史	弥生後期　古代 中世	本線	第 228 集
	14	西片百田遺跡	八代市西片町字百田	6,282 ㎡（×２面）	H12.7.1～H14.4.19	長谷部善一　緒方智子 上高原 聡　荒木隆宏 洲崎明子	弥生中期～後期 古墳初頭	本、新八駅	第 242 集 第 236 集に一部記載あり
	15	上日置女夫木遺跡	八代市上日置町字女夫木	2.800 ㎡	H13.10.1～H14.3.29	中村幸宏　高谷和生 後藤貴美子　古閑敬士 濱田教靖	弥生前期・後期 古墳初頭	八駅	本書 第 236 集に一部記載あり
	16	島田遺跡	八代市島田町	1,530.4 ㎡（×２面）	H13.8.6～H14.3.29	野田英治 内田成香　西山由美子	弥生前期・後期	本線	第 241 集 第 236 集に一部記載あり
	17	高田手永旧堤防	八代市千丁町新牟田	240 ㎡	H15.1.14～H15.3.31	坂口圭太郎	近世（文政２年） 1819 年～	本線	第 254 集
	18	四百町開旧堤防	八代市鏡町両出	60 ㎡	H16.11.5～H16.12.24	坂口圭太郎	近世（寛政 11 年） 1799 年～	本線	
宇城市域	19	古曽部遺跡	宇城市不知火町小曽部 字中請 1083-6、1984-3	360 ㎡	H16.11.1～H16.12.10	坂口圭太郎	中世	本線	第 265 集
	20	南請遺跡	宇城市不知火町小曽部 字南請 1499-1、1499-2	980.37 ㎡	H18.9.20～H18.12.28	坂口圭太郎　尾方圭子 坂本亜矢子	古代	本線	
	21	高良柳迫遺跡	宇城市不知火町 大字高良字柳迫	286 ㎡	H14.9.17～H14.12.27	坂口圭太郎 宇田員将　和田敏郎	古墳	本線	
熊本市域	22	下江中島遺跡	熊本市南区富合町古閑 1287-1 ほか５筆	7,107.49 ㎡	H18.12.4～H19.5.31	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　手柴智晴 園田恭子	古墳時代初頭 古代（平安）	本線 整施	本書
	23	川尻外城遺跡	熊本市南区川尻３丁目 831 他６筆	1,756.91 ㎡	H18.9.20～H10.3.30	坂口圭太郎 松森由美　多賀晴司	中世　近世	本線	第 279 集
	24	上ノ郷遺跡	熊本市南区島町１丁目 304-1 他５筆	2,000 ㎡	H15.5.21～H16.1.31	今村和徳　和田敏郎 宇田員将　横田光智	弥生中期～後期 古代	本線	第 239 集
	25	八島町遺跡	熊本市西区蓮台寺４丁目 132-3 他 11 筆	3,800 ㎡	H15.6.5～H15.10.31	坂口圭太郎 坂本亜矢子	弥生後期 古代	電施	第 281 集
	26		熊本市西区蓮台寺４丁目 578-8	250 ㎡	H16.2.17～H16.3.31				
	27	二本木遺跡群	熊本市西区田崎１丁目 117 番の１	700 ㎡	H8.1.29～H8.3.25	帆足俊文	縄文晩期 弥生後期　古代	連立	第 174 集
	28	二本木遺跡群 （田崎地区）	熊本市西区田崎１丁目	3,138.42 ㎡	H15.11.27～H16.3.31	宮崎敬士　福永雅美	古代	連立	第 280 集
				2,300 ㎡	H17.11.11～H18.8.31	坂口圭太郎　尾方圭子 多賀晴司	弥生後期 古墳　古代	本線	
	29	二本木遺跡群 （田崎市道切替）	熊本市西区田崎１丁目	48 ㎡	H19.5.7～H19.6.6	松森由美　水上正孝	弥生後期 古代　中世	市替	
	30	二本木遺跡群 （田崎陸橋）	熊本市西区田崎１丁目	78.6 ㎡	H19.10.1～H19.11.1	壇桂克　横田光智	古代　近世	迂道	

Tab. 1　九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧－①

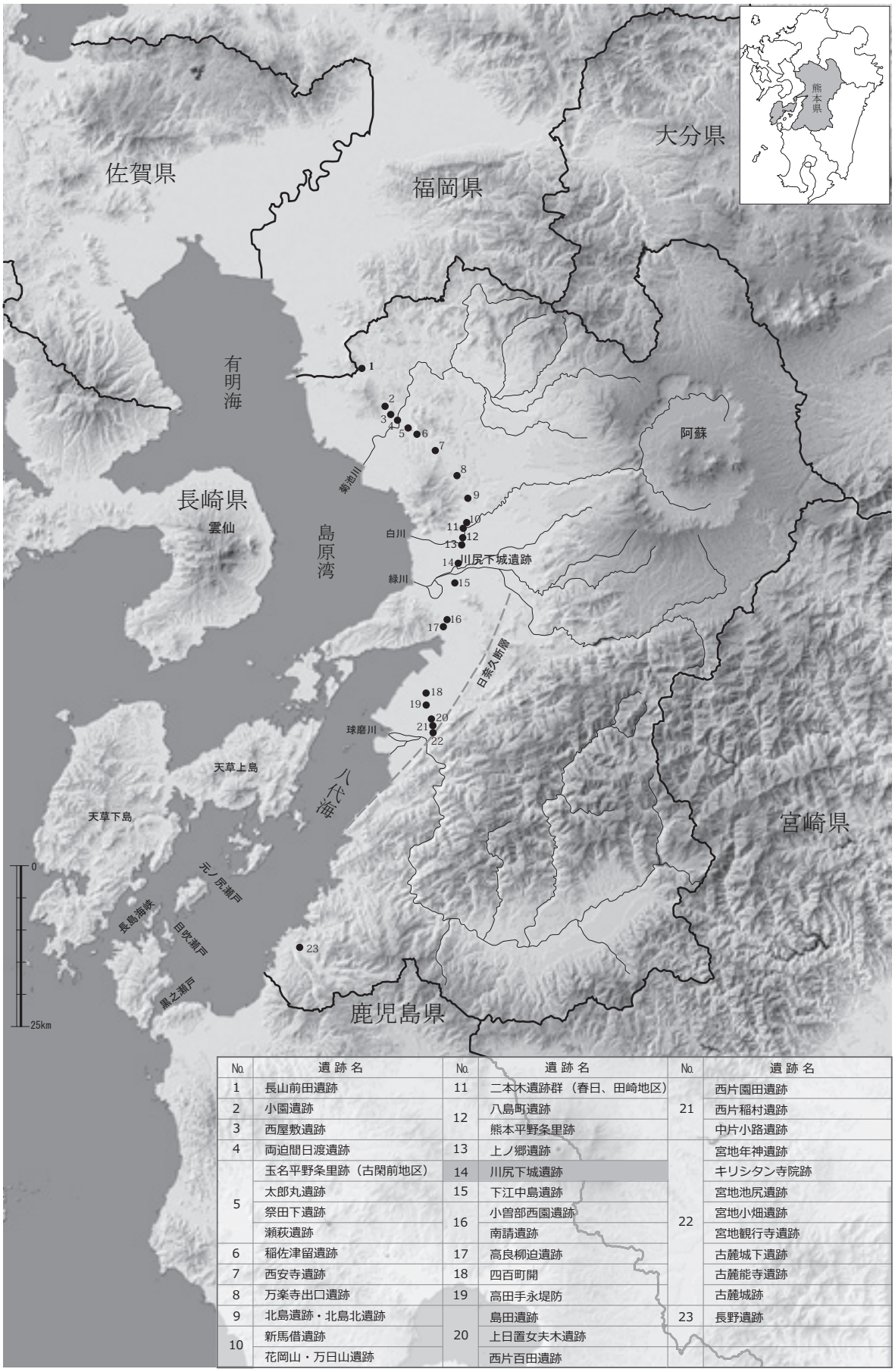
地域	No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	調査担当者	遺跡の年代	調査種別	報告書
熊本市域	31	二本木遺跡群（春日地区）第６次調査	熊本市西区春日３丁目1015 番地	12,700 ㎡	H17.11.7 ～ H18.12.26	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　吉井英志	古代　中世 近世	熊駅	第 271 集
	32	二本木遺跡群（春日地区）第 14 次調査	熊本市西区春日３丁目	20 ㎡	H22.7.20 ～ H22.8.2	長谷部善一	古代		
	33	花岡山・万日山遺跡群	熊本市西区横手２丁目1183-21 ほか８筆	3,133.54 ㎡	H17.1.21 ～ H18.12.18	坂口圭太郎　遠山宏	古代	本線	第 266 集
	34	新馬借遺跡	熊本市西区横手１丁目1142 番地ほか６筆	550 ㎡	H18.5.30 ～ H18.6.30 H20.1.4 ～ H20.1.31	坂口圭太郎 遠山宏　檀佳克	中世　古代	本線	
	35	北島遺跡群	熊本市西区池田４丁目519 ほか 11 筆	3,450 ㎡	H18.6.15 ～ H19.2.28	今村和徳 横田光智　遠山宏	弥生後期 古代　中世	本線	
	36	万楽寺出口遺跡	熊本市北区太郎迫町474-2 ほか２筆	984.52 ㎡	H19.5.1 ～ H19.10.30	坂口圭太郎 檀佳克	縄文晩期 古代	本線	
熊本県北部（玉名市域）	37	長山前田遺跡	玉名郡南関町長山字前田	600 ㎡	H16.4.27 ～ H18.5.21	坂口圭太郎	弥生後期 中世	本線	第 268 集
	38	稲佐津留遺跡	玉名郡玉東町稲佐	2,273.54 ㎡	H16.5.27 ～ H17.12.28	尾方圭子　今村和徳 遠山宏	弥生後期 古墳　古代	本線	第 263 集
	39	祭田下遺跡	玉名市津留字祭田下 223-2 ほか９筆	5762 ㎡（×２面）	H16.6.1 ～ H16.10.27	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　園田恭子	中世　近世	本線	第 247 集
	40	小園遺跡	玉名市石貫字小園 345-2 ほか 13 筆	2,406 ㎡	H16.6.14 ～ H16.10.31	坂口圭太郎 松森由美 坂本亜矢子　遠山宏	弥生後期 中世　近世	本線	第 256 集
	41	太郎丸遺跡	玉名市大字津留字白拍子373-2 ほか 13 筆	14,148 ㎡	H16.11.1 ～ H17.10.31	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　園田恭子	古代　中世	本線	第 250 集
	42	西屋敷遺跡	玉名市大坊字西屋敷 2660-3 ほか４筆	325 ㎡	H17.4.9 ～ H17.5.13	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　園田恭子	近世	本線	第 250 集
	43	瀬萩遺跡	玉名市津留字川面 103-3 ほか３筆	4,344 ㎡	H17.4.19 ～ H17.9.30	吉田徹也　早田利宏	古墳　古代 中世	本線	第 250 集
	44	両迫間日渡遺跡	玉名市両迫間	742.92 ㎡	H18.8.23 ～ H18.10.10	坂口圭太郎　亀田学	弥生　古墳	玉駅	第 268 集
	45	玉名平野条里跡（古閑前地区）	玉名市両迫間字古閑前 158-2 ほか９筆	2,537.85 ㎡	H19.6.1 ～ H20.1.31	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　園田恭子	弥生後期 古墳（初・後） 古代　中世	本線	第 261 集
	46	西安寺遺跡	玉名郡玉東町西安寺 1018	518 ㎡	H18.11.26 ～ H19.12.26	坂口圭太郎	中世　近世	工道	第 263 集

Tab. 2　九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧－②

凡例	
工道	工事用道路
玉駅	新玉名駅
熊駅	新熊本駅
連立	JR 連立事業
市替	市道切り替え
迂道	迂回道路
整施	新幹線整備施設
八駅	新八代駅
電施	電源施設

九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　一覧

『二本木遺跡群』熊本県文化財調査第 174 集　熊本県教育委員会編　1999
『長野遺跡』熊本県文化財調査報告 第 189 集　熊本県教育委員会編　2000
『古麓能寺遺跡 古麓城下遺跡』熊本県文化財調査報告 第 216 集　熊本県教育委員会編　2003
『古麓城跡』熊本県文化財調査報告第 227 集　熊本県教育委員会編　2005
『中片小路遺跡』熊本県文化財調査報告 第 224 集　熊本県教育委員会編　2005
『西片稲村遺跡　中片小路遺跡』熊本県文化財調査報告 第 228 集　熊本県教育委員会編　2005
『宮地小畑遺跡 宮地観行寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 235 集　熊本県教育委員会編　2006
『島田遺跡，上日置女夫木遺跡，西片百田遺跡』熊本県文化財調査報告第 236 集　熊本県教育委員会編　2006
『西片百田遺跡』熊本県文化財調査報告第 242 集　熊本県教育委員会編　2007
『上ノ郷遺跡』熊本県文化財調査報告 第 239 集　熊本県教育委員会編集　2007
『島田遺跡』熊本県文化財調査報告 第 241 集　熊本県教育委員会編　2007
『祭田下遺跡』熊本県文化財調査報告第 247 集　熊本県教育委員会編　2009
『太郎丸遺跡、西屋敷遺跡、瀬萩遺跡』熊本県文化財調査報告第 250 集　熊本県教育委員会編　2010
『八代平野干拓遺跡群（高田手永旧堤防・四百町開旧堤防)』熊本県文化財調査報告第 254 集熊本県教育委員会編　2010
『小園遺跡』熊本県文化財調査報告第 256 集　熊本県教育委員会編　2010
『古曽部遺跡、南請遺跡、高良柳迫遺跡』熊本県文化財調査報告第 261 集　熊本県教育委員会編　2011
『花岡山・万日山遺跡、新馬借遺跡、北島遺跡群、万楽寺出口遺跡』熊本県文化財調査第 266 集　熊本県教育委員会編　2011
『稲佐津留遺跡、西安寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 263 集　熊本県教育委員会編　2011
『玉名平野条里跡（古閑前地区)』熊本県文化財調査報告第 261 集　熊本県教育委員会編　2011
『長山前田遺跡、両迫間日渡遺跡１』熊本県文化財調査報告第 268 集　熊本県教育委員会編　2012
『二本木遺跡群（春日地区）５』熊本県文化財調査第 271 集　熊本県教育委員会編　2012
『下江中島遺跡（上日置女夫木遺跡)』熊本県文化財調査第 278 集　熊本県教育委員会　2013
『川尻外城跡』熊本県文化財調査第 279 集　熊本県教育委員会　2013
『二本木遺跡群（田崎地区)、市道切り替え、連立区間』熊本県文化財調査報告第 280 集　熊本県教育委員会　2013
『八島町遺跡』熊本県文化財調査第 281 集　熊本県文化財調査第 281 集　熊本県教育委員会　2013



No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	長山前田遺跡	11	二本木遺跡群（春日、田崎地区）	21	西片園田遺跡
2	小園遺跡	12	八島町遺跡		西片稲村遺跡
3	西屋敷遺跡		熊本平野条里跡		中片小路遺跡
4	両迫間日渡遺跡	13	上ノ郷遺跡	22	宮地年神遺跡
5	玉名平野条里跡（古閑前地区）	14	川尻下城遺跡		キリシタン寺院跡
	太郎丸遺跡	15	下江中島遺跡		宮地池尻遺跡
	祭田下遺跡	16	小曽部西園遺跡		宮地小畑遺跡
	瀬萩遺跡		南請遺跡		宮地観行寺遺跡
6	稲佐津留遺跡	17	高良柳迫遺跡		古麓城下遺跡
7	西安寺遺跡	18	四百町開		古麓能寺遺跡
8	万楽寺出口遺跡	19	高田手永堤防		古麓城跡
9	北島遺跡・北島北遺跡	20	島田遺跡	23	長野遺跡
10	新馬借遺跡		上日置女夫木遺跡		
	花岡山・万日山遺跡		西片百田遺跡		

Fig.1　熊本県域における地形表記と九州新幹線建設工事により発掘調査を実施した遺跡

第２章　調査

１　調査地域

(1) 遺跡の位置

熊本市川尻地区は現在、熊本四大河川の一つ緑川の支流、加勢川の河口近くに位置する。水系は緑川水系緑川、流域面積は　1,100㎢（九州第７位）、幹川流路延長　76km（九州第７位）を誇る。緑川水系は、その源を山都町の三方山に発し、御船川等の支川を合わせて熊本平野を貫流し、下流部において加勢川、浜戸川、天明新川を合わせ、有明海に注いでいる。近世までは本来、緑川と加勢川の区別はなく、現在の加勢川の流路にまで緑川が広がっていたのであるが、近世過渡期に緑川の下流部の河道付け替えがあった際に、新たに掘削され分離され加勢川が誕生することとなった。熊本県熊本市中央区にある、水前寺成趣園の湧水より南へ流れ出て、東から合流する加勢川支流（木山川と矢形川が合流し名を変えたもの）と合流する辺りで西に流れを変える。主に熊本市南区を流域としており江津湖も通っている。熊本市と嘉島町の境付近にはいくつかの三日月湖が見られる。

緑川流域は、山地、森林、湖沼、干潟など様々な環境が存在し、そこには多様な生物が生息している。海浜に接しない三方（御幸・富合・天明方面など）は熊本平野の一角を担う田園地帯であり、クリークなども目立つ低湿地となっている。地区の北側～中心域を天明新川が、南側を加勢川や緑川が東西に流れている。

(2) 歴史的背景

緑川流域下流に位置する川尻地区は、中世には菊池系一族の拠点として開かれており鎌倉時代には「川尻郷」と呼ばれていたことが、源姓川尻氏とし「新撰事蹟通考」『肥後文献叢書第三巻』所収の川尻系図に見える。これには建久元年（1190）川尻実明が同荘の地頭職を得たと記録に残る。これ以後も、同荘の開発に伴う記録が随時出てきており継続した荘園管理がなされていたと見られる。

川尻は近世まで肥後細川藩の主要港であるとともに軍港としても整備されてきた歴史を持つ。港として貿易に使用されるに至った時期は、室町から戦国期に肥後国内の貿易港として「八代」「天草」「宇土」「軍浦」「高瀬」、そして「河懐世利（川尻）」（かわせり）が明の記録に記載されている。肥後藩主の加藤清正が入国した際には、川尻は港町として基盤ができており、文禄・慶長の役の際には川尻の津は朝鮮へ向けての軍事港の役割も果たしている。その後、寛永九年には加藤家に代わり入国した細川家の領地となり、寛永 10 年には川尻町奉行がおかれ町奉行により町の支配が始まっている。その後も江戸期を通じて川尻は港として発展し、緑川水運を利用して運ばれてくる材木の積み出し港ともなり繁栄を極めた。

明治 10 年には国内最大の士族により反乱として知られている西南戦争が勃発し、同年２月には鹿児島を出発した西郷隆盛をはじめとする将兵が川尻に入り当時の回船問屋に本営を構えている。

1889 年 4 月 1 日　町村制が施行。一町単独町制により発足。　1892 年　飽田郡と託麻郡が合併し飽託郡となり、1940 年 12 月 1 日 熊本市に編入され現在に至る

(3) 既往の調査

現在の川尻地区から加勢川下流方向に位置する西側には弥生時代後期の遺跡として、埋蔵文化財包蔵地「中牟田遺跡」が立地する。遺跡の詳細は調査事例がないことから詳細は不明であるが、弥生時代後期の土器が採集されていることから、河口付近に位置する微高地上に広がる集落であると考えられる。

今回、調査を行った川尻外城遺跡は緑川の支流である加勢川に接する。その加勢川対岸で発掘調査を実施した「下江中島遺跡」が存在する。遺跡は低湿地遺跡であり、古墳時代後期の木製品を始め、宇城産の須恵器を多く出土するとともに、天草諸島産の製塩土器も大量に出土していることから、古墳時代後期の交易港であった可能性もある遺跡である。

また、隣接する加勢川の河川改修が国土交通省により実施され、その際に川尻船着場で石材の積み直しに伴いトレンチ調査が行われており、近世港として最終的に整備されたことが裏付けられている

(4) 測量

当遺跡調査に際し、事前に基準点測量と水準点測量を実施した。基準点は調査の契機となった九州新幹線建設工事に伴い鉄道・運輸機構が設置した日本測地系に基づき国土座標Ⅱ系により設置している。

2002 年（平成 14 年）4 月 1 日から施行された改正測量法に伴い、日本測地系から世界測地系へ移行することとなったが、本事業における基準点がすべて日本測地系に基づいていることから、県内における同事業に伴う埋蔵文化財発掘調査で設置した基準点はすべて日本測地系に基づき設置している。なお、世界測地系との整合をとるために設置した基準杭の数値を日本測地、世界測地でそれぞれ示す。

点名	日本測地		世界測地	
	X 座標	Y 座標	X 座標	Y 座標
座標測点 No.1	-29245	-29860	-28872.8968	-30081.0263
座標測点 No.2	-29315	-29865	-28942.8973	-30086.0264

Tab. 3　調査区内基準点測量成果

(5) その他

発掘調査は遺構の種別を示す以下の記号と、一連の遺構番号（三桁の数字）の組み合わせにより表記した。

SA（塀・柵列）・SB（掘立柱建物）・SC（廊）・SD（溝）・SE（井戸）・SF（道路）SG（池）SH（広場）・SI（竪穴建物）・SJ（土器埋納遺構）・SK（土坑）SL（炉・竈）・SN（水田・畑）・SM（土手）・SP（柱穴）・SS（礎石・葺石・配石）・ST（墓）SU（遺物集積）・SW（石垣・防護壁）・　SX（その他）・NR（自然流路）

＊上記には当遺跡で使用していない記号も含んでいる。

＊下線付きで表記している遺構は当報告で使用している記号である。

□　遺物観察表に使用している色調については「新版基準土色帳」1999、DIC カラーガイド「中国の伝統色（2 版）」、「標準色 230© 日本色研 1998」を使用した。

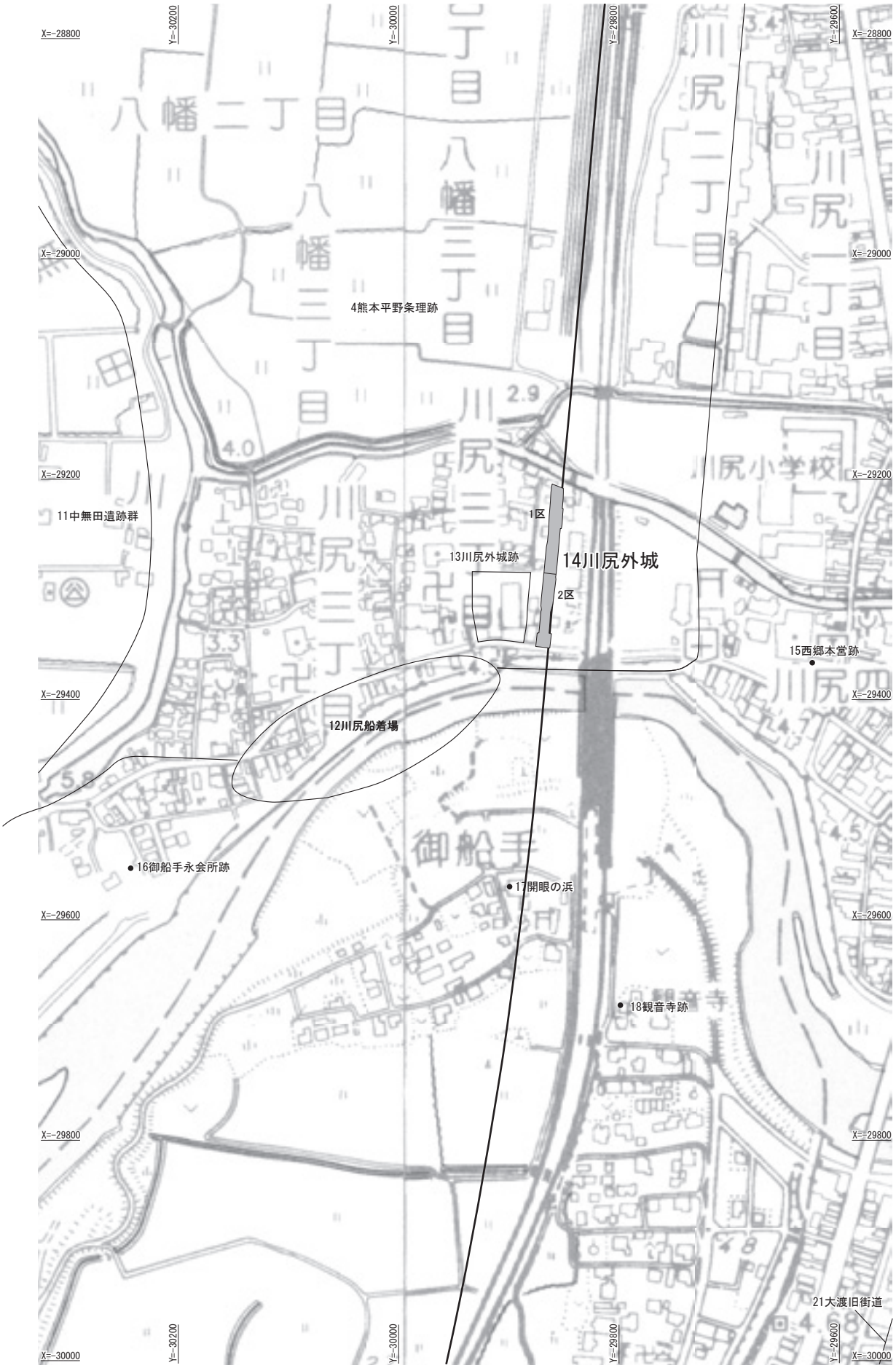


Fig. 2　川尻外城遺跡周辺位置図1/5000

Fig. 3　周辺遺跡地図　1/20000

遺跡番号	遺跡名	遺跡の時代
1	保徳寺	古墳～平安
2	明神社古墳	古墳
3	八ノ坪	古墳～中世
4	熊本平野条里跡	古代　中世
5	本田の板碑	中世
6	福城寺跡	古代　中世
7	無量寿寺跡	古代　中世
8	古護藤	弥生～中世
9	白藤遺跡群	弥生～中世
10	護藤遺跡群	古墳～中世
11	中無田遺跡群	弥生　中世
12	川尻船着場跡	近世
13	川尻外城跡	中世
14	**川尻外城町跡**	**中世～近世**
15	西郷本営跡	明治
16	御船手永会所跡	江戸
17	開眼の浜	中世
18	観音寺跡	古代　中世
19	円通寺跡	中世
20	学承院跡	平安
21	大渡旧街道	江戸
22	福勝寺跡	古代　中世
23	薬善寺跡	中世
24	普門寺跡	中世
25	国町	古墳　古代
26	南高江六地蔵塔	中世
27	明治天皇御幸御野立所	明治
28	熊本平野条里跡	古代　中世
29	南高江西馬出	弥生～中世
30	西椎田	古墳～中世
31	マツヒサ屋敷	古墳～中世
32	御幸木部遺跡群	弥生～中世
33	大正寺跡	中世
34	野田町旧寺跡	近世
35	大慈寺の層塔	鎌倉
35	大慈寺の宝篋印塔	鎌倉
35	大慈寺の宝塔	鎌倉
35	大慈寺境内	鎌倉
36	極楽寺跡	古代　中世
37	条里跡	古代　中世
38	金福寺	中世

Tab.4 遺跡地名表

２　調査日誌抄

2006 年（平成 18 年）

9.28　東側の断面を削り土層断面線引き

9.29　昨日の作業を引き続き行う

10.2　資材搬入。北側土層断面精査

10.3　午前中に北側の雨水を大堀に流すために溝を掘削。午後からベルトコンベア設置。

10.4　北側トレンチ掘りで出た排土をトラックで運び出す。南側は攪乱掘り。坂口が大堀に排水升を掘削。

10.5　調査区北側の精査。柱穴、溝を検出。午後からは断面の清掃、攪乱掘りその後、精査を実施。

10.6　昨日に引き続き断面、攪乱、平面を精査。台風が近づいているため対策を施す調査。

10.10　北側の清掃及び精査を実施。調査区南側で遺構検出作業。

10.11　調査区南側、５㎝掘り下げ、精査を実施。

10.12　調査区南側、精査・遺構検出・写真撮影。攪乱を優先して掘る。北側は残していた土層断面観察用ベルトを 2/3 の大きさに削り、断面をフレッシュにし観察する。検出した柱穴を半裁。

10.13　調査区南側柱穴半裁作業を継続。

10.16　午前中、４級基準点測量並びにメッシュ杭設置業務（委託）を実施。午後からは表土剥ぎで残っていた表土の一部を除去。

10.17　調査区を全体的に掘り下げ、遺構検出に努める。

10.18　調査区北側掘り下げ、清掃、遺構検出を実施。

遺構配置図（1/200）作成。

10.19　調査区北側２層調査が終了したため完掘状況撮影。

10.20　調査区北側大溝掘り、南側・東側断面観察。北側柱穴断面実測。

10.23　調査区北側柱穴完掘。南側トレンチ掘り。

10.24　SD001 大溝、その他周辺の攪乱掘り。４層掘り下げ SK014 遺物出土実測、北側遺構検出作業。

10.25　調査区南側掘り下げは継続し、北側の４層完掘状況写真撮影。

10.26　現在調査中の範囲を１区、今後、表土剥ぎを実施する範囲をⅡ区と以後、呼称する。１区南側掘り下げ及び清掃、遺構検出を継続。

10.27　１区北側、精査・検出、北側Ⅴ層上面遺構検出状況写真撮影。

10.30　１区調査区北側半裁された遺構を完掘する作業を実施。南側は３層掘り下げ。午後からは月末のため作業員が少ないことから遺構実測（委託）を実施。

10.31　１区南側、掘り下げ、北側、完掘している遺構のベルト外し。北側、西壁断面図作成（1/20）

11.1　１区北側、写真撮影のため清掃。南側、３層掘り下げ。大堀の断面を撮影し、北側の完掘写真も同時に撮影する。南側３層の掘り下げを継続。

11.2　１区南側掘り下げ作業及び遺構検出。

11.6　１区南側４層掘り下げ。西側断面撮影。

11.7　１区南側、４層掘り下げ。SK001 ～ SK003 まで検出及び調査。

11.8　本日は掘削作業を止め、測量を実施。１区北側は平面実測､南側は３層上面で検出した柱穴の断面を実測。５層で検出した土坑は完掘していないため明日以降継続する。

11.9　１区南側４層掘り下げ及び精査。

11.10　１区南側遺構調査、５層掘り下げ。北側はサブトレンチ掘り。

11.13　１区北側はサブトレンチの深さに合わせ全面掘り下げ。南側は遺構調査を実施。しかし、本遺構では各層でプラスティック等のゴミを確認した。

11.14　降雨のため終日調査は中止。現場事務所で図面整理を行う。

11.15　１区北側掘り下げ、SK001・SD003 遺構実測。

11.16　調査員が協議のため現場ができないため、終日測量等を実施。

11.17　１区北側掘り下げ､南側 SK001 ～ 003､SD003 の調査。

11.20　１区北側、５層掘り下げ。南側でも５層を掘り下げたのちに土坑を２基検出した。木材、瓦等を含む廃棄土坑である。

11.21　大堀の埋戻し作業。60 ㎝程度掘り下げ湧水しないことを確認。１区北側で出土した人骨が土坑墓である可能性がでてきた。頭蓋骨が出土したことから判明。

11.22　南側は SD005 を掘削し完掘する。１区北側は遺構掘削及び土層観察用ベルト外しを実施。

11.24　１区北側ベルト外し、SK001 遺物取り上げ作業。午前中は昨夜降った雨水の排水作業を実施。

11.27　降雨のため調査は中止。

11.28　昨夜からの雨で現場では排水作業を実施。午後からは１区北側の完掘写真を撮影した。

11.29　１区南側土層断面観察用ベルト外し。その後、完掘状況の写真撮影。

11.30　１区北側、柱穴群完掘。南側は重機を導入し掘削。
12.1　１区調査終了。
12.2　１区埋戻し。
12.4　埋戻し中は現場で重機が動いているため調査は中止。図面整理を実施。
12.5 ～ 12.15　１区埋戻し。
12.18 ～ 12.21　２区調査準備
12.22　矢板設置作業
12.25 ～ 12.28　２区表土剥ぎ

●2007 年（平成 19 年）
1.4　２区攪乱掘り
1.5　攪乱部、重機により掘削
1.9　２区掘り下げ
1.10　北側遺構検出作業。３層下面遺構検出
1.11　溝を検出するも新しいと判断
1.12　主に遺構調査。ベルトコンベア不調のため要調整。
1.15　溝遺構掘削、遺構部分トレンチ掘削。
1.16　４級基準点測量並びにメッシュ杭設置。
1.17　溝等遺構掘削。１/100 平面図作成。
1.18　４層遺構調査、1/100 平面図作成
1.19　昨日に引き続き、調査を継続
1.22　未着手だった熊谷 JV 工事個所の表土剥ぎを開始。
1.23　重機搬出後、清掃・遺構検出。
1.24　メッシュ杭設置（委託）攪乱掘り。
1.25　SK029 遺構実測
1.26　攪乱、上層掘削。SK029 遺物取り上げ。高く残した部分下部に４層相当の土が残る。
1.29　攪乱、上部遺構掘削、３層下面遺構検出状況撮影。
1.30　遺構掘削、トレンチ設置。遺構配置図（1/100）
1.31　遺構掘削、遺構検出。南側遺構配置図作成。３～４層検出状況写真撮影。
2.1　遺構掘削。午後から降雨がひどくなったため現場作業は中止。
2.2　トレンチ、遺構掘削。３層～４層遺構実測（1/20）
2.5　遺構掘削、昨日に引き続き遺構実測。
2.6　遺構掘削、３層完掘（全景）写真撮影。
2.7　本日は職員研修のため調査は中止。午後から遺構実測。
2.8　朝から写真撮影のため精査及び遺構検出。実測図図面確認作業。４層下面遺構検出及び遺構断面写真撮影
2.9　降雨のため調査中止
2.13　上層の遺構ベルトを外し完掘する。
2.14　降雨のため調査中止
2.15　遺構掘削
2.16　遺構掘削、1/100 遺構配置図作成
2.19　遺構掘削
2.20 ～ 2.28　南側遺構掘削
3.1　５層を掘り下げ、遺構検出作業実施。
3.2　南側掘り下げ、遺構掘削
3.5　遺構掘削、南側（1/100）遺構配置図作成、午前中降雨のため一時待機。
3.6 ～ 3.8　遺構掘削
3.9　係会議のため調査は中止
3.12　遺構掘削、５層～６層遺構完掘状況写真撮影
3.13　南側掘り下げ
3.14　掘り下げ、精査、検出。
3.15　降雨のため作業中止
3.16　現場は中止
3.19　重機を搬入し掘り下げ
3.20　重機による作業を継続
3.22　昨日と同様の作業
3.23　北側、重機による掘り下げ
3.26　最終面まで重機で掘り下げ
3.27　降雨のため作業中止
3.28　遺構掘削、南側遺構検出写真撮影
3.29 ～ 3.30　遺構掘削

第３章　遺構

発掘調査に際して調査第１区は微高地上であったことから、地表面から素掘りによる掘削を実施したが、調査第２区は加勢川に近く湧水し調査壁面が崩落する危険性があったため、本線工事を担当するJVにより調査前に矢板を設置し調査に着手した。検出した遺構の多くは近代の攪乱が多く、本遺跡で調査対象とした近世遺構の検出に努めた。
調査時点で近世遺構と判断したものもあったが、整理時点で埋土の状況から近現代と判断し報告から外したものも多く含んでいる。

１　調査第１区

本調査区では表土とそれに続く遺物包含層以外の堆積土（１～３層）を重機により除去し４層上面から遺構の検出を行った。この時点での遺構の多くは、近世の遺物を含みながらも近現代の品も含むという状態で調査対象とした確実な近世の遺構は限られていた。

４層も遺跡の形成過程の関係からきれいな堆積土ではなくややシルト気味の土であり、おそらくは加勢川が氾濫した際の流れ込んだ土である可能性もあった。よって、調査区全面に位置用には見られないこと、下層のにぶい黄褐色土と類似していることから層位による掘り分けはできていない。このことから、４・５層上面よりの掘り込み遺構として遺構配置図を作成した。(Fig. ４)

溝 SD001（Fig. ４）遺構の規模が大きいことから各個に抜き出した図は作成していない。平成 18 年 11 月 13 日の調査日誌によると、大溝とする本遺構を埋める各層からプラスティックゴミが出土するなど良好な調査状態は残っていなっかったようである。しかし、これをもって新しい遺構とは思えず近世以来、町屋として栄えてきた川尻地区内において、このような大規模な溝が新たに掘削できたとは思えないことから、埋め戻されたのが近現代として当初は古いクリーク状の流路であったことが想像される。現在も、川尻外城市内の至るところには小規模な河川が走っており、この遺構もその名残かと考えられる。最大幅 25 mを測る。

土坑 SK001（Fig. ５）４・５層上面で検出した遺構。長径 3.11 m、短径 1.5 mを測る。遺構内には多くの礫や遺物が底面からやや浮いた状態で出土している。主な出土遺物は、18 世紀末から 19 世紀初頭の染付陶磁器である。出土状況から廃棄された際に投げ込まれた姿が想像される。

土坑 SK002（Fig. ６）同じく４・５層上面で検出された遺構。長径 4.15 m、短径 1.46 mを測る。遺構平面形は不定形であり、西側においてやや遺構ラインが乱れる。本遺構も SK001 同様に礫、染付磁器・陶器が混在した状態で出土している。遺物の出土レベルは遺構底面からやや浮いた状態であった。遺構は下端が浅く外側に広がった状態であり、掘削された当初は現状より広かった可能性がある。遺構の性格としては遺物廃棄土坑である可能性が高い。

土坑 SK003（Fig. ７）同じく４・５層上面で検出した遺構。平面形はＬ字状を呈する。長径は 1.5 mを測る。本遺構においても遺物の出土状態は、礫と染付磁器が混在した状態で出土している。出土層位も先述している遺構同様に底面から浮いている。遺物の出土はやや北に偏よる。

墓 ST001（Fig. ８）同じく４・５層上面で検出した遺構。平面形は一部に隅丸方形を残しながらも南辺では楕円形気味となる。遺構下面は上部からの素掘り後に中央部の円形にわずかに下がる。調査の過程で当初は、土坑と認識し調査を実施したが、人骨が出土するに至り土壙墓と判断した。人骨は頭蓋骨、大腿骨、上腕骨が残っていたが脆弱であったことで取り上げる時点で崩壊してしまっている。また、その状態で専門家の意見を求めることもできたが、調査の契機となった事業の早期終了が求められていたためその計画はかなわなかった。同時に土師器皿が５枚副葬品として出土している。

Fig.4　1 区遺構配置図 1/400 及び土層断面図 1/300

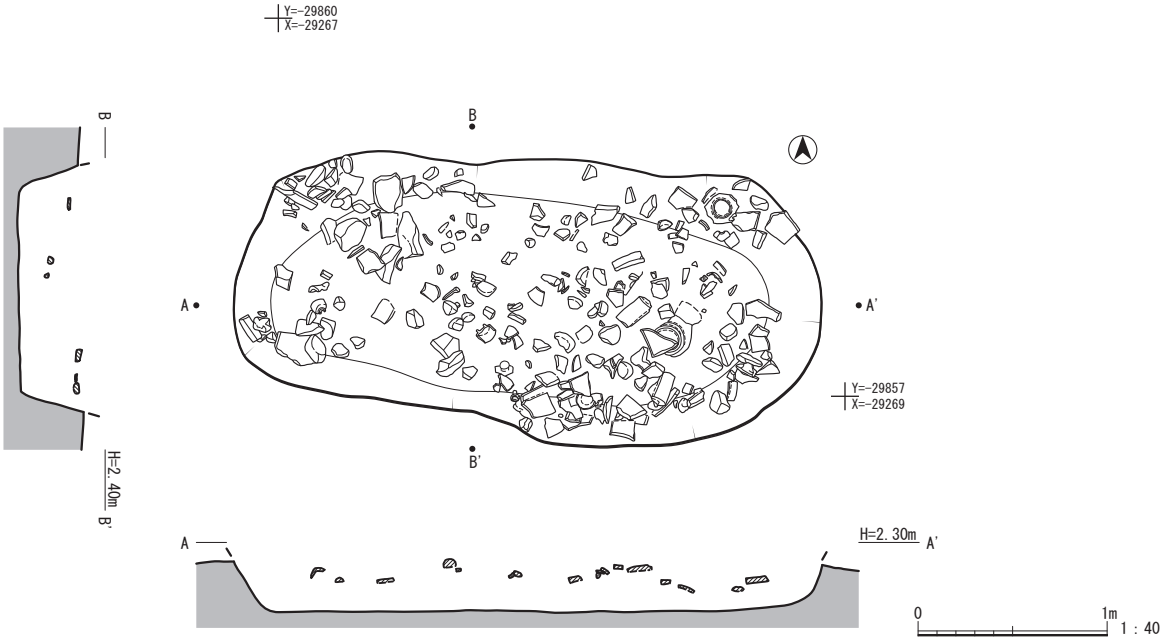


Fig.5　土坑 SK001 遺構実測図

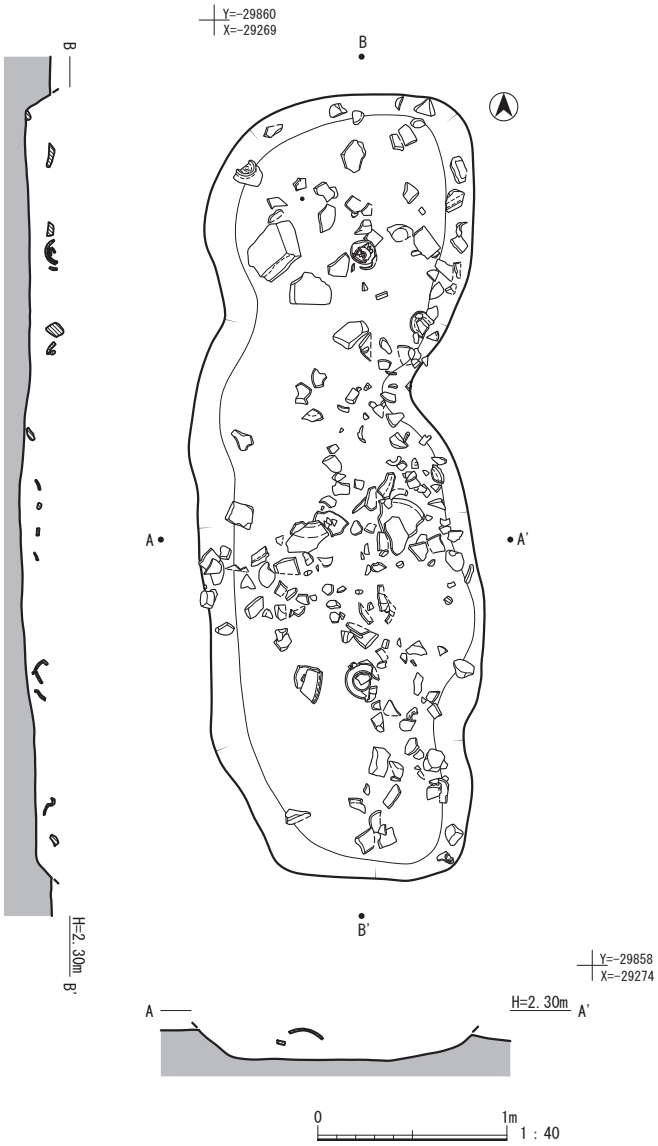


Fig.6　土坑 SK002 遺構実測図

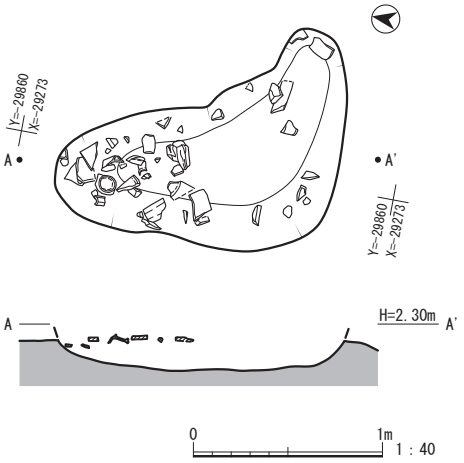


Fig.7　土坑 SK003 遺構実測図

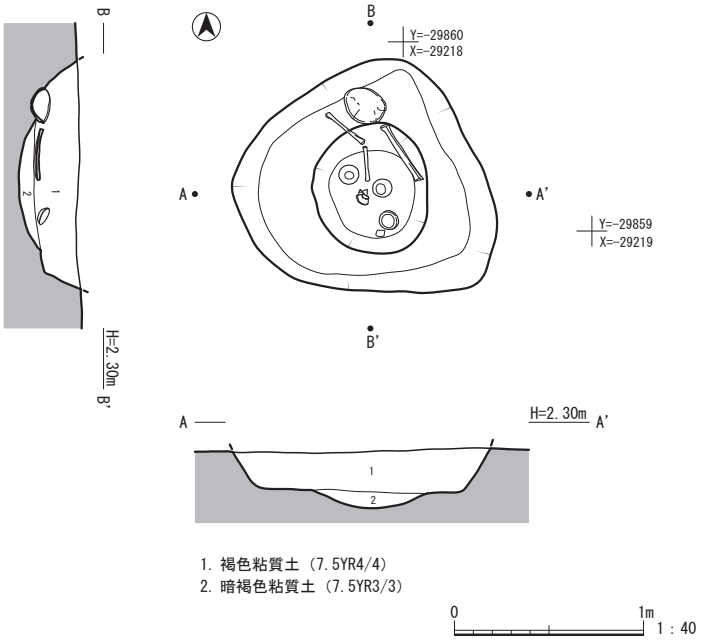


Fig.8　墓 ST001 遺構実測図

２　調査第２区

本調査区においては１区に比べ多くの遺構を検出している。特に調査区の南側においては、近世の掘立柱建物と想定される柱穴群が多数検出されているが、その後の攪乱による掘り方により全容を把握するには至っていない。本調査区でも調査対象となった層は４・５層とする層の上面である。しかし、１区における４・５層と層位的に合致しているとは言えない。以、報告する遺構は遺物の出土している遺構についてのみ記す。
出土している遺物は 18 世紀末から 19 世紀初頭であることから、遺跡としては同時期の広がりであったことは確認されている。

土坑 SK057（Fig.10）４層上面で検出した遺構。方形掘り込みを意識しているが削平が激しいことから形を乱している。長径 1.1 m、短径 1.03 mを測る。遺構内には五輪塔空輪、地輪が同じレベルで入っていることから、遺物廃棄遺構と判断される。組み合わせは出土遺物の実測値からほぼ同一個体である可能性は高い。

墓 ST002（Fig.11）６層上面で検出した遺構。掘り方は不定形であるが南北にやや長い。長径 0.72 m、短径 0.54 mを測る。掘り込み深度は約 60 ㎝と本遺跡に置行ける遺構の中では深い深度を有する。遺構底面からは黒色土器(土師器）が３枚出土している。遺物の出土状況から土坑墓である可能性があることから本報告では墓として報告している。
黒色土器は中世にまで遡るもので、本遺跡のなかでは最も古い遺構である可能性がある。周辺にも遺物は出土していないが同様の遺構が数基みられることから当初は墓域であったことも考えられる。

３　まとめ

本遺跡で最も多く検出した遺構は近現代のゴミ穴による攪乱であった。しかし、遺構の報告として記述した遺構も 18 世紀末から 19 世紀初頭期のゴミ穴であったことから当該地周辺は、その当時から住宅街にあたり時代が変わる毎に生活廃材が敷地内に埋められたものと考えられ、遺跡の形成となってきたものと想定される。もちろん、生活に伴う建物等の遺構もあるが、本調査区ではこれを明確に検出することができていない。事業の性格上やむを得なかったことと思われる。

両調査区のなかで大溝とする堀状の遺構を検出したのは、この地の歴史を物語る上で重要な遺構であった。遺構からは近現代に至る遺物が入ることから、埋め戻された時期は比較的新しいが、歴史的には中世もしくは近世初頭にまで遡る時期の大堀である可能性もある。この大堀の縁辺部また、本遺構に向かって伸びる溝（２区 SD008・SD009・SD012）は、緑川、近世では加勢川の水流による湿地上に対する措置から、幾筋ものクリーク状の掘割が掘削され、その周辺に町屋が形成されていた姿が浮かぶ。これを証するかのように２区に南側には多くの遺構が検出されている。

遺跡の周辺には現在も多くの民家が建て込んでおり、周辺に広がる遺構も調査地と同様の状態を呈していることと思われる。周辺の調査事例が増え、本調査区で検出した遺構の情報が今後に生かされると幸いである。

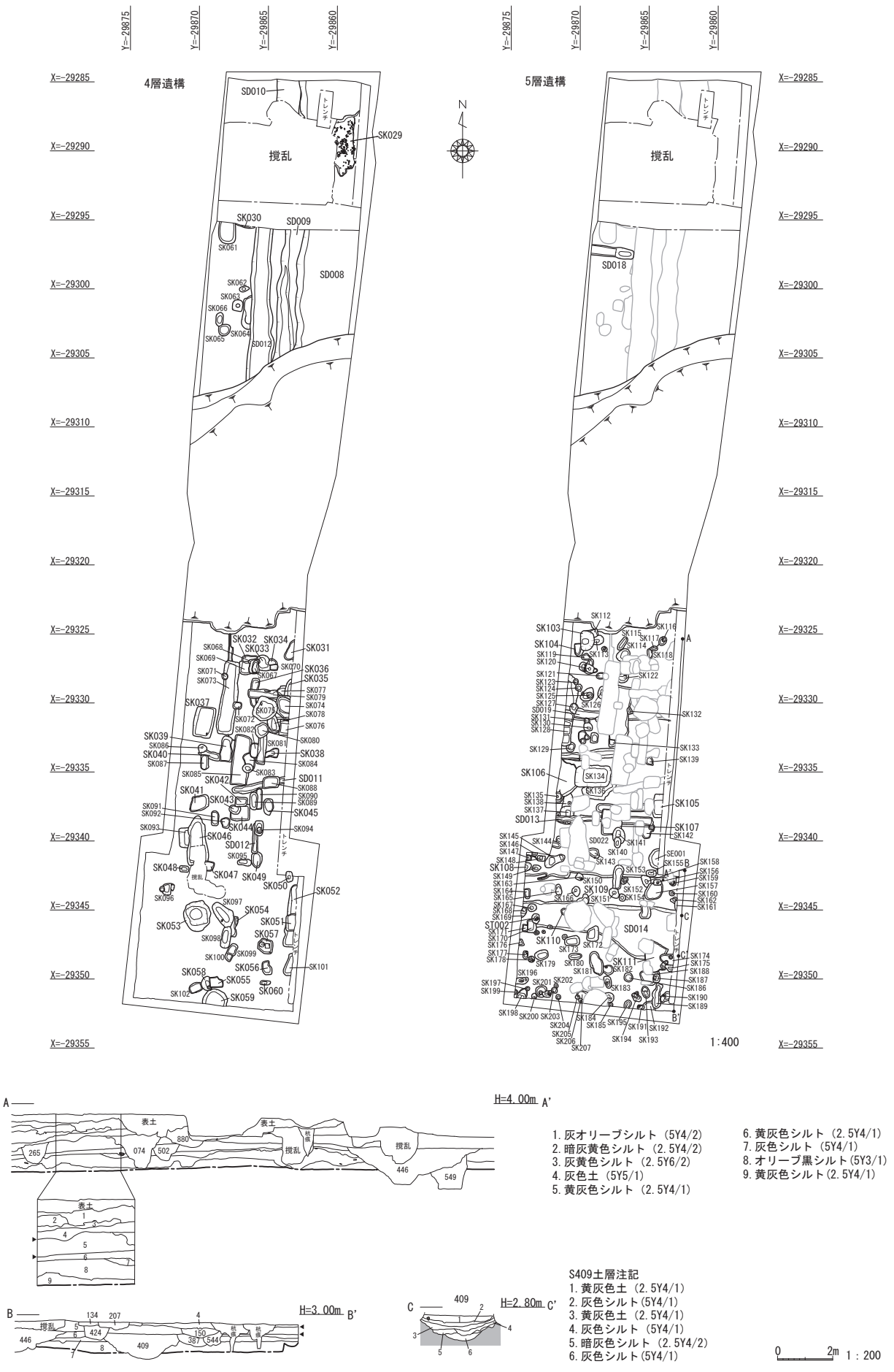


Fig.9　2 区遺構配置図 1/400 及び土層断面図 1/200

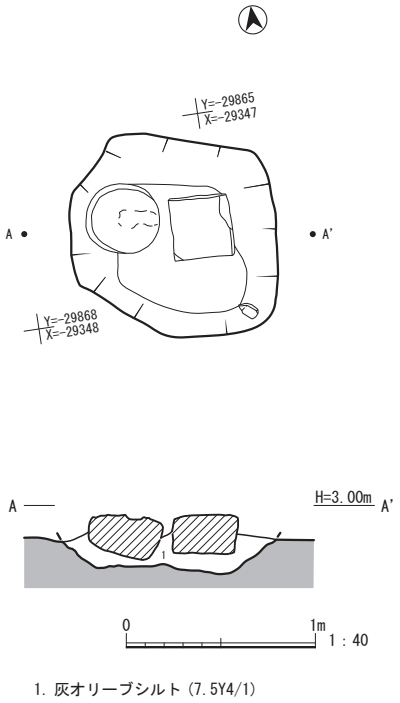


Fig. 10　土坑 SK057 遺構実測図

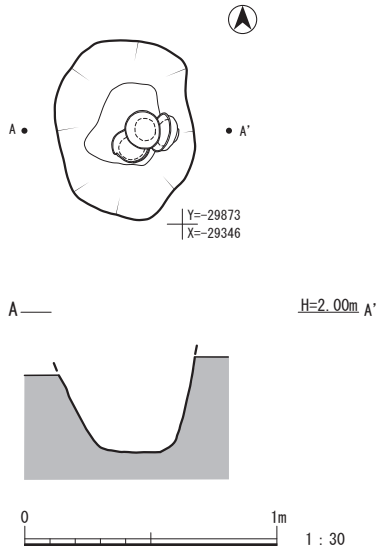


Fig.11　墓 ST002 遺構実測図

第４章

遺　物

遺物実測図凡例

・掲載縮尺は基本 1/3 に統一し掲載している。一部の土器、特殊遺物に於いてはその限りではない。
・土器の断面について土器の幅を明確に示すため須恵器・土師器等を問わず断面を黒に統一している。
種別の違いは図中に器面調整等で、明示している。

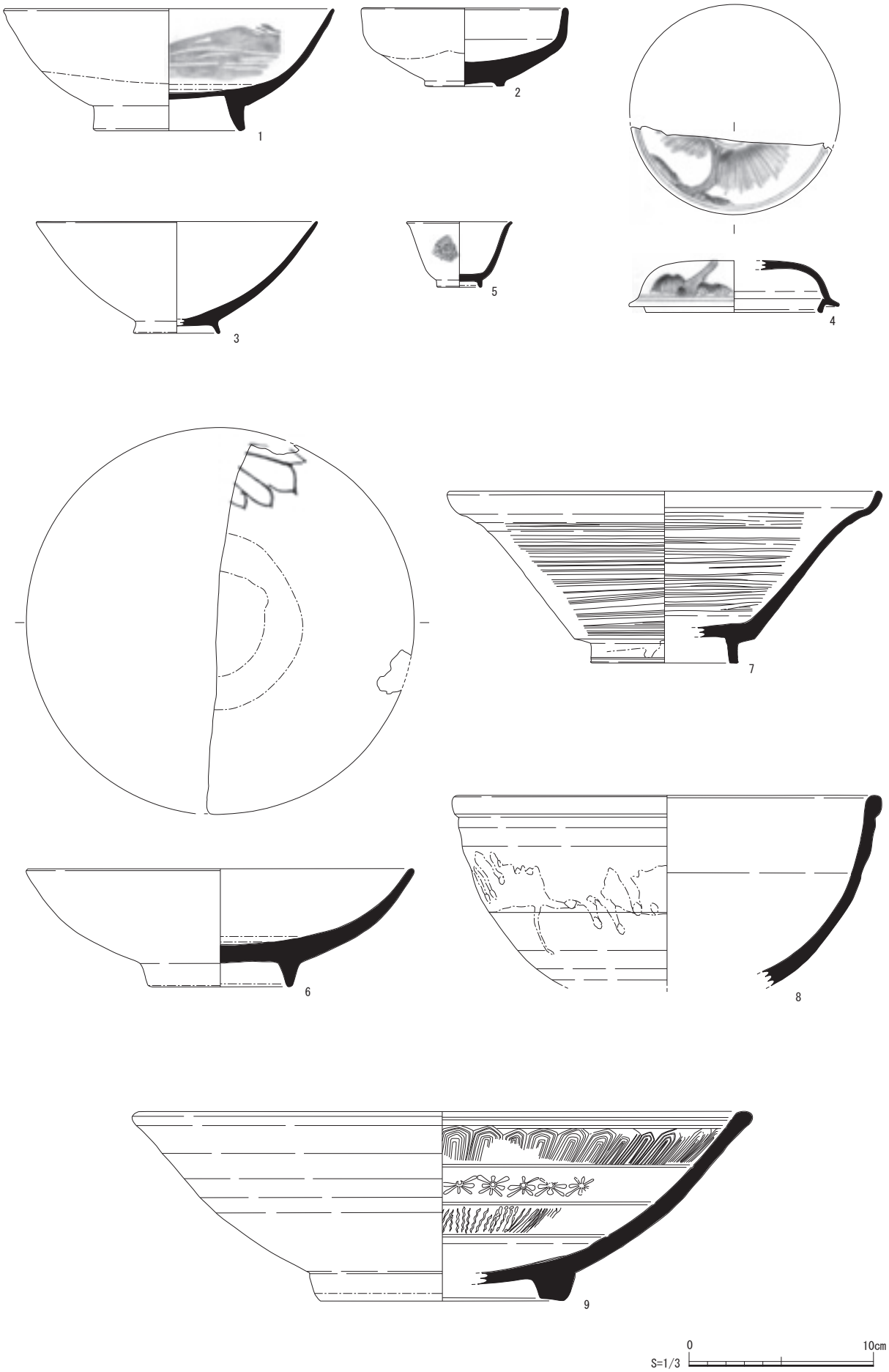


Fig.12 溝 SD001・SD003・SD008 出土遺物実測図

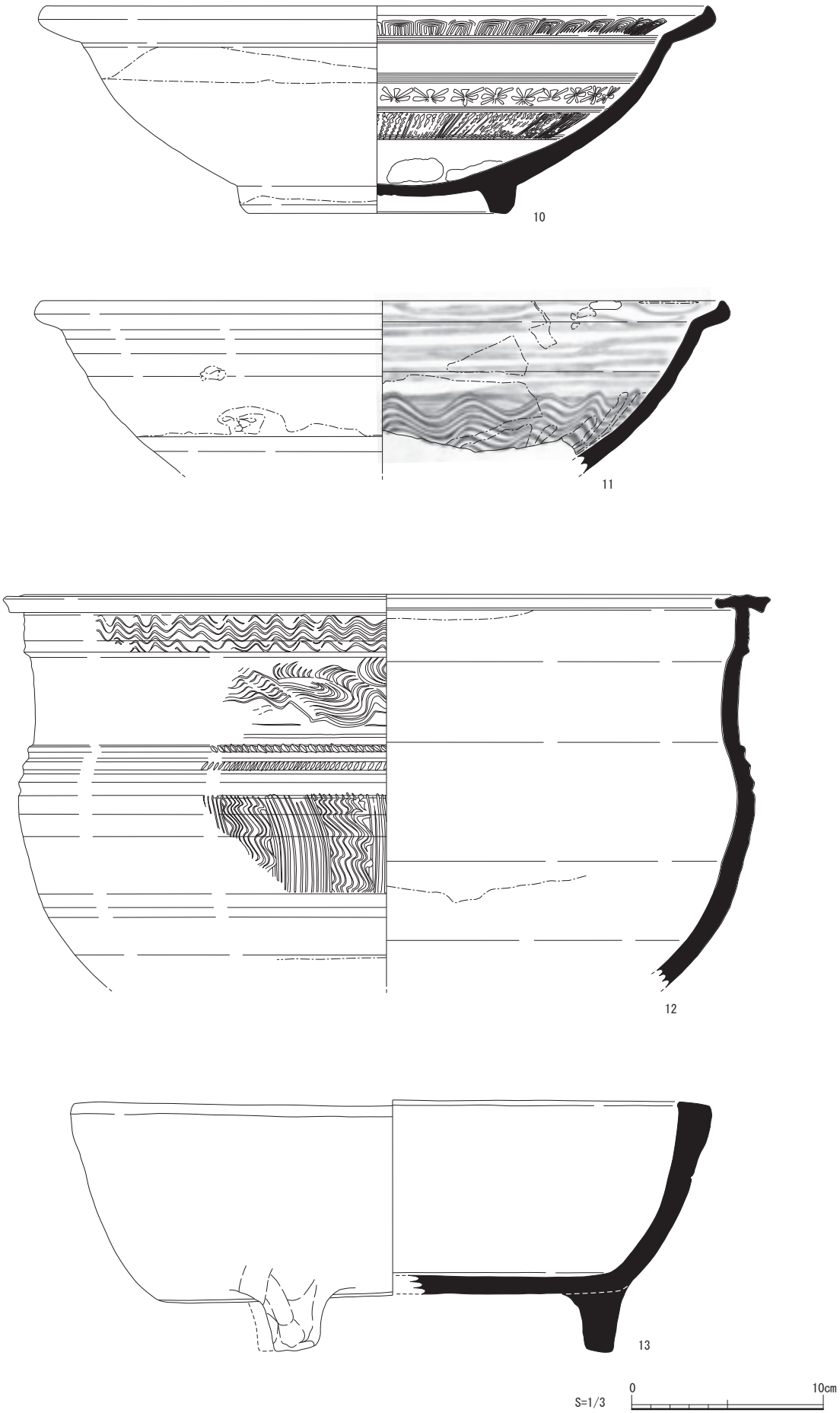


Fig.13　溝 SD008 出土遺物実測図

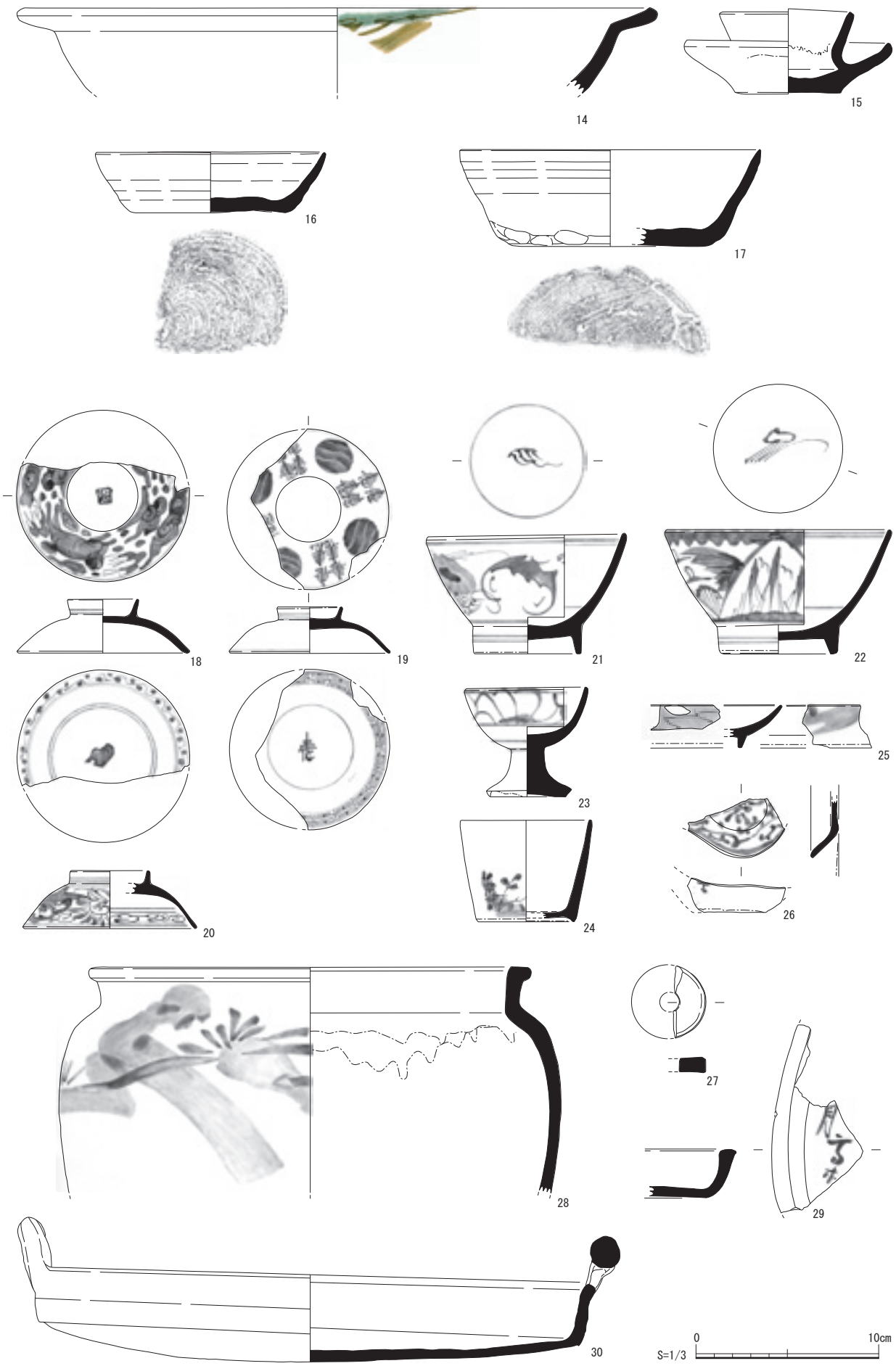


Fig.14　溝 SD010・SD013、土坑 SK001 出土遺物実測図

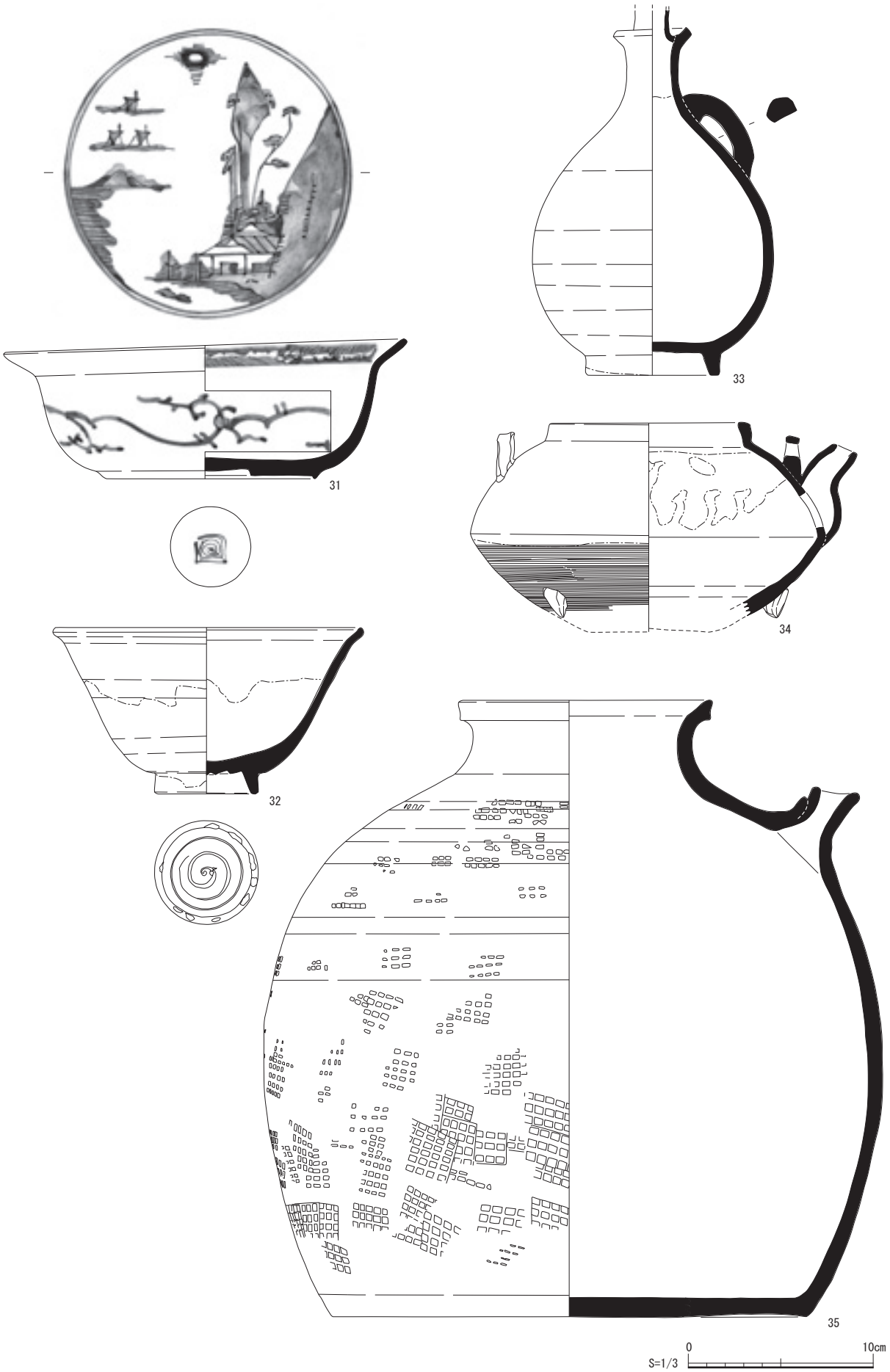


Fig.15 土坑 SK002 出土遺物実測図

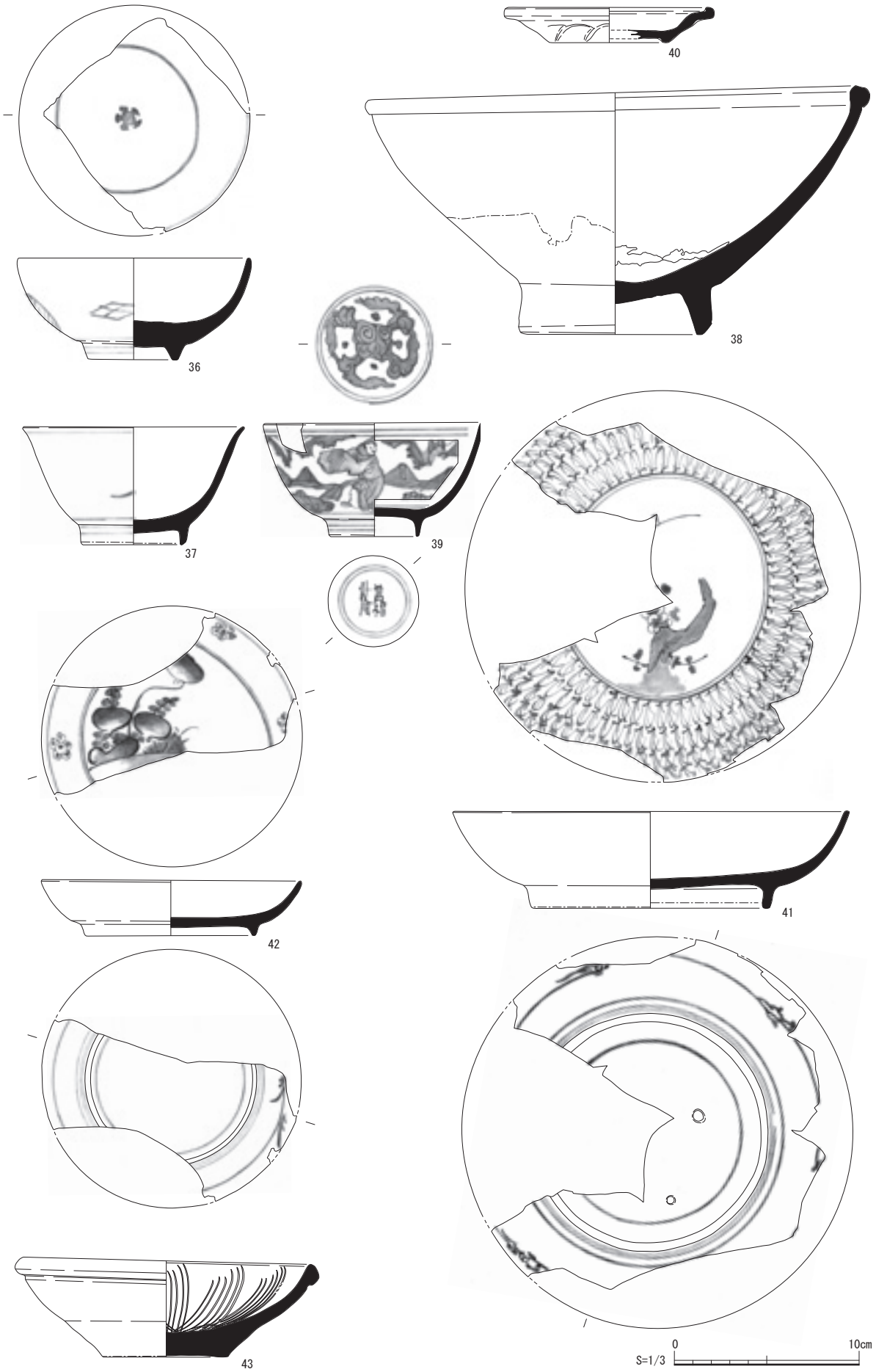


Fig.16 土坑 SK003・SK029・SK032・SK034・SK055 出土遺物実測図

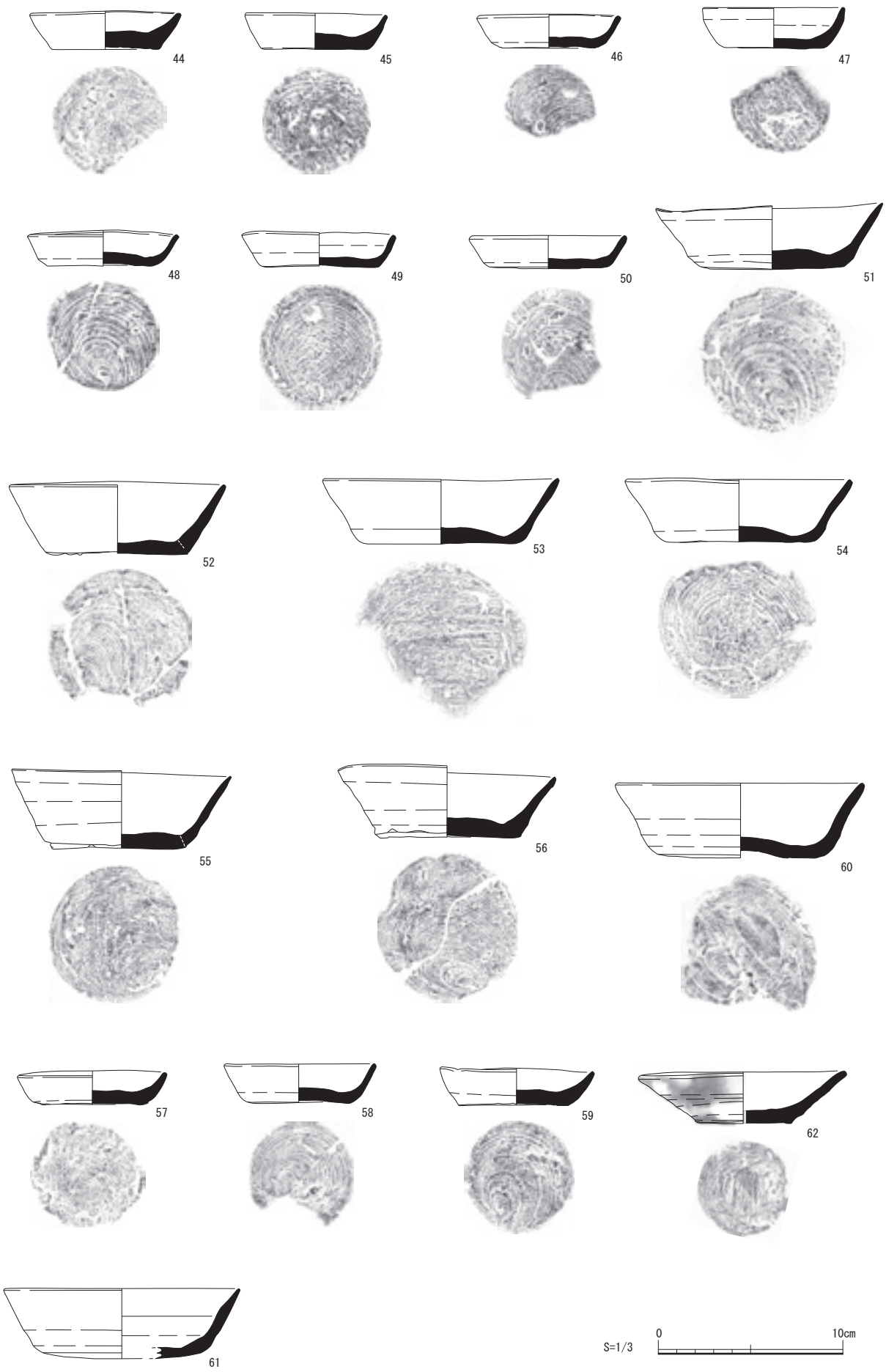


Fig.17 土坑 SK105・SK106・SK111 出土遺物実測図

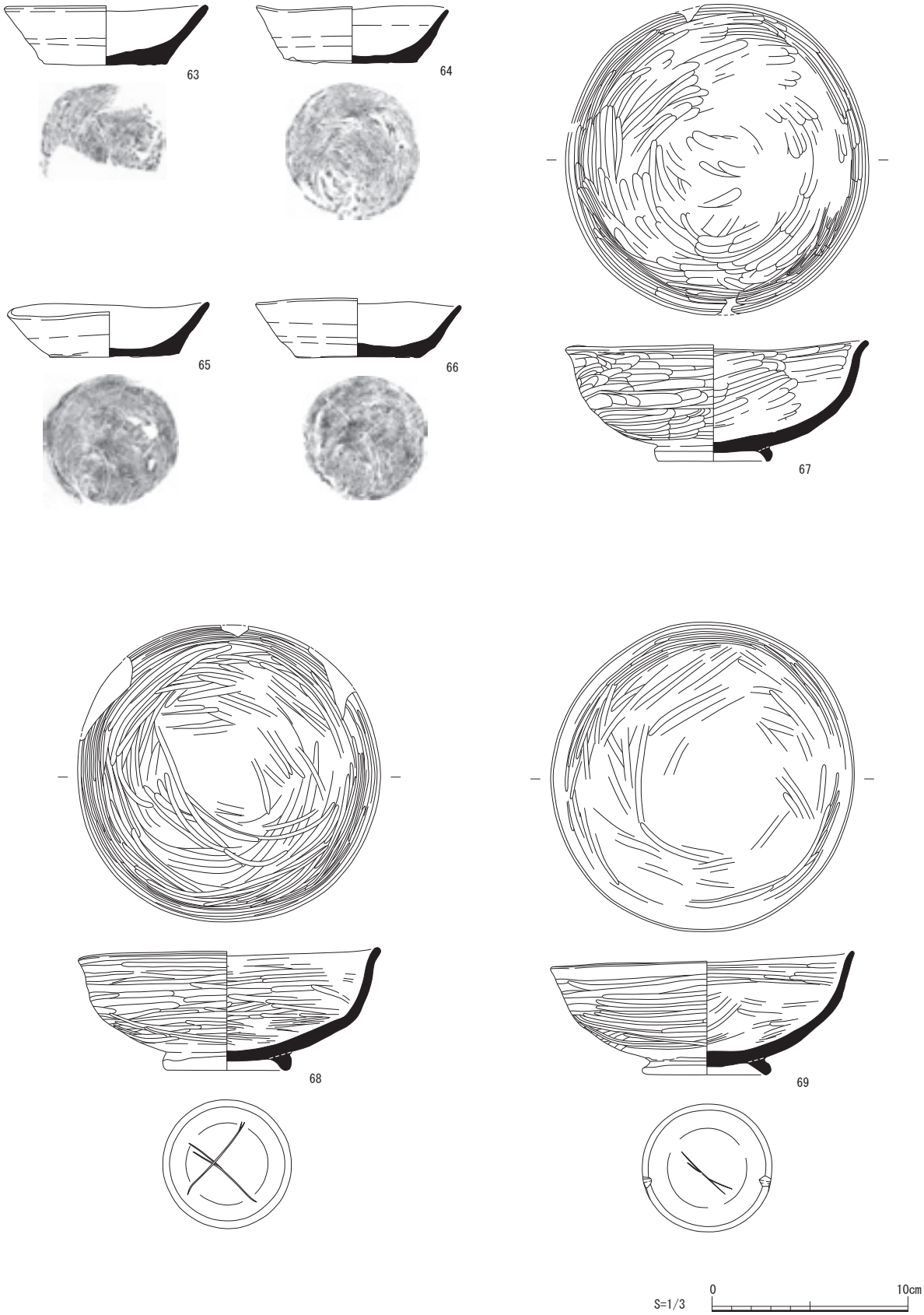


Fig.18　墓 ST001・ST002 出土遺物実測図

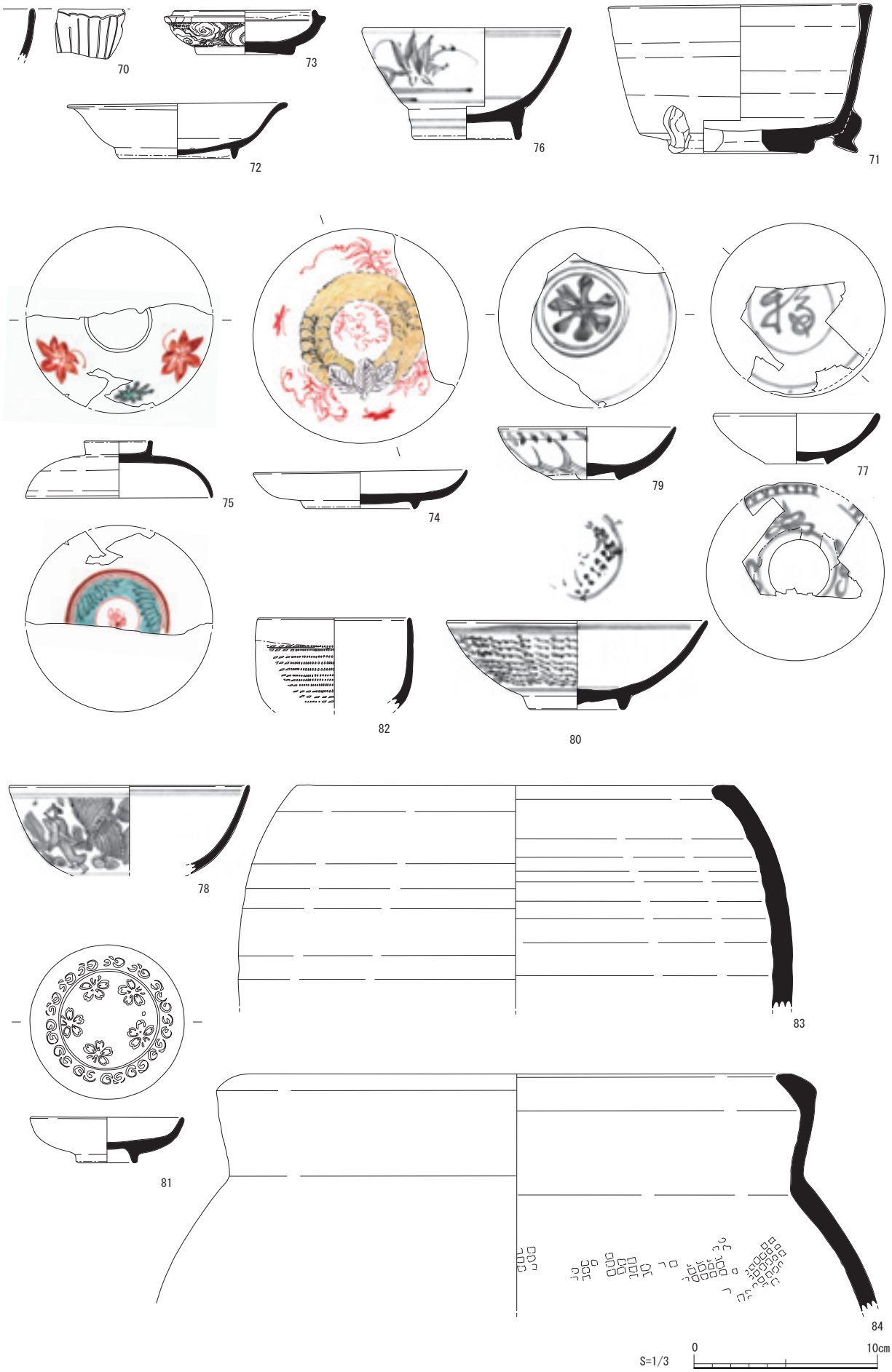


Fig.19　調査区内出土遺物実測図－①

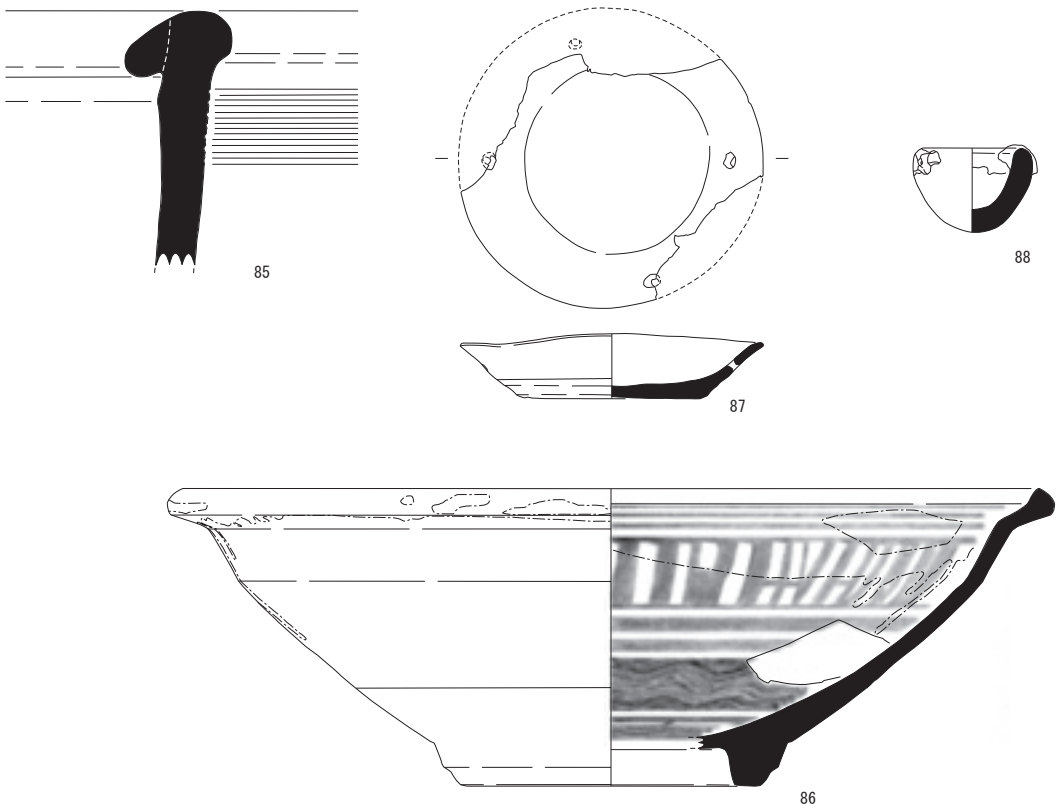


Fig.20　調査区内出土遺物実測図－②

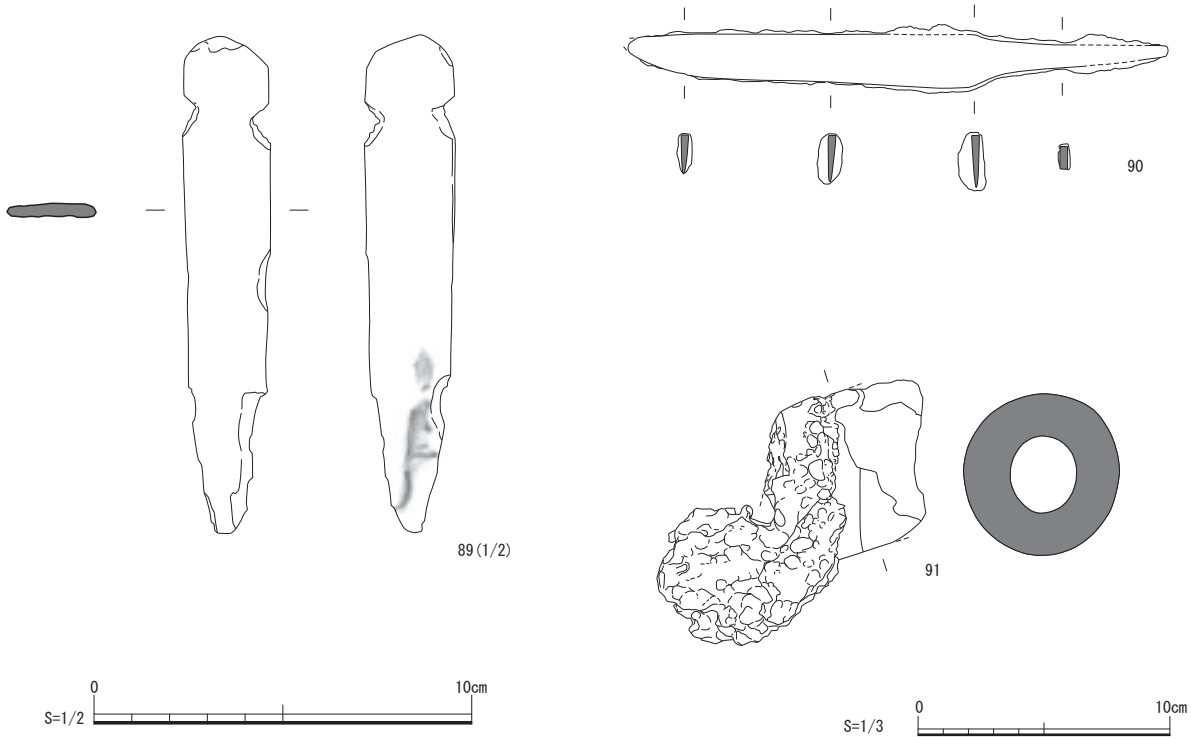


Fig.21　出土遺物（鞴の羽口、木簡、刀子）実測図

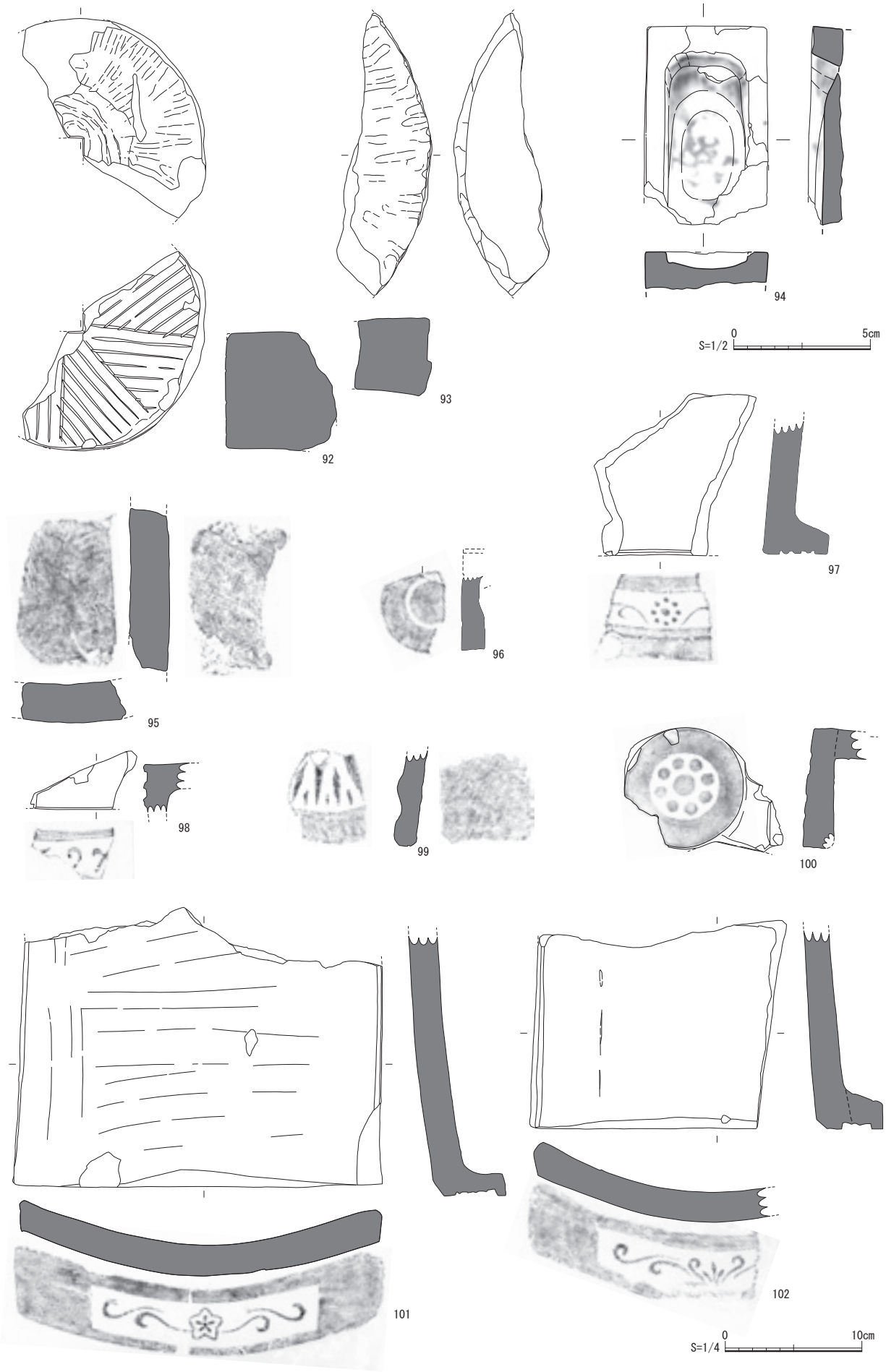


Fig.22　溝 SD002・SD003・SD010、土坑 SK001 ～ 003、調査区内出土遺物実測図

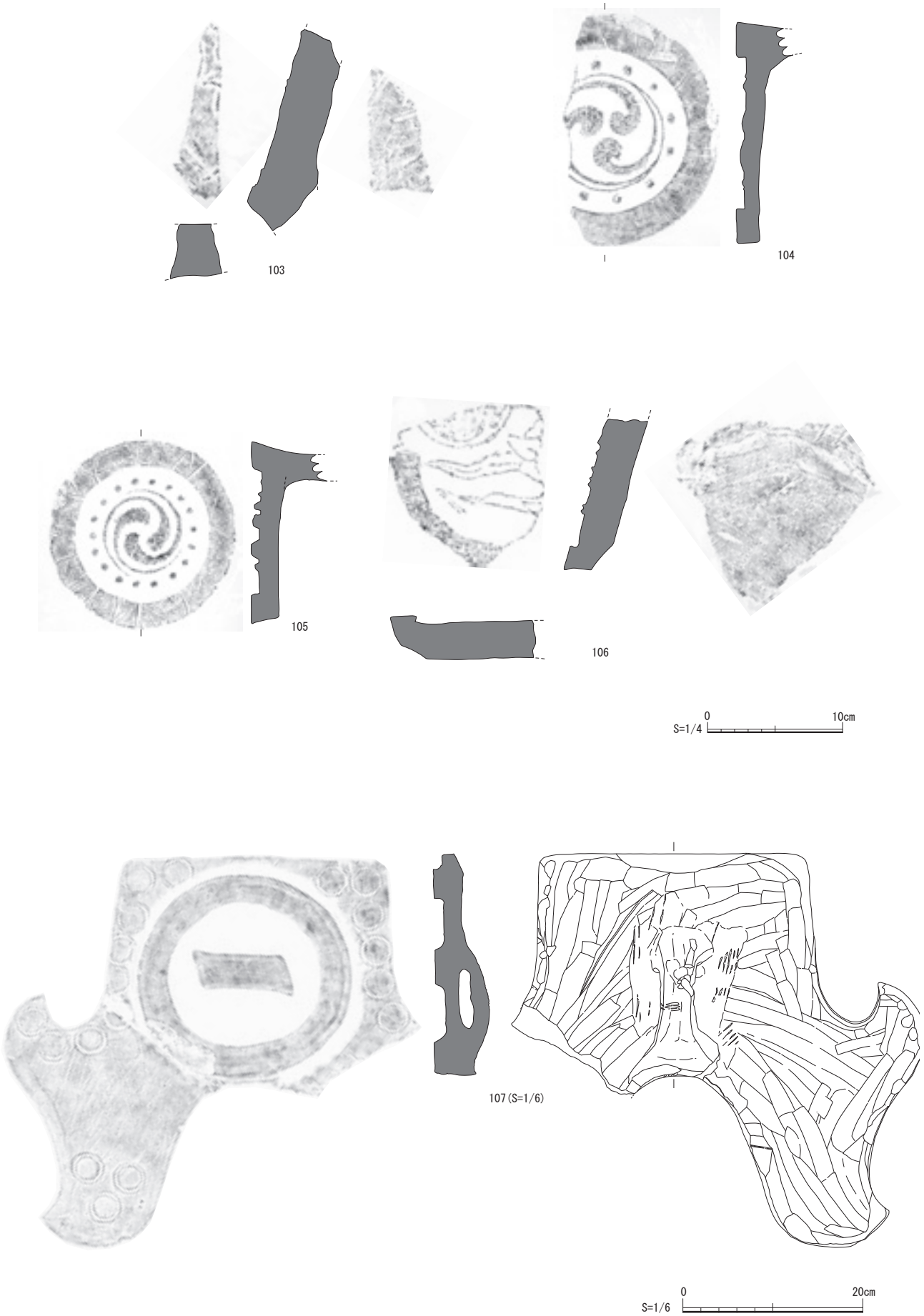
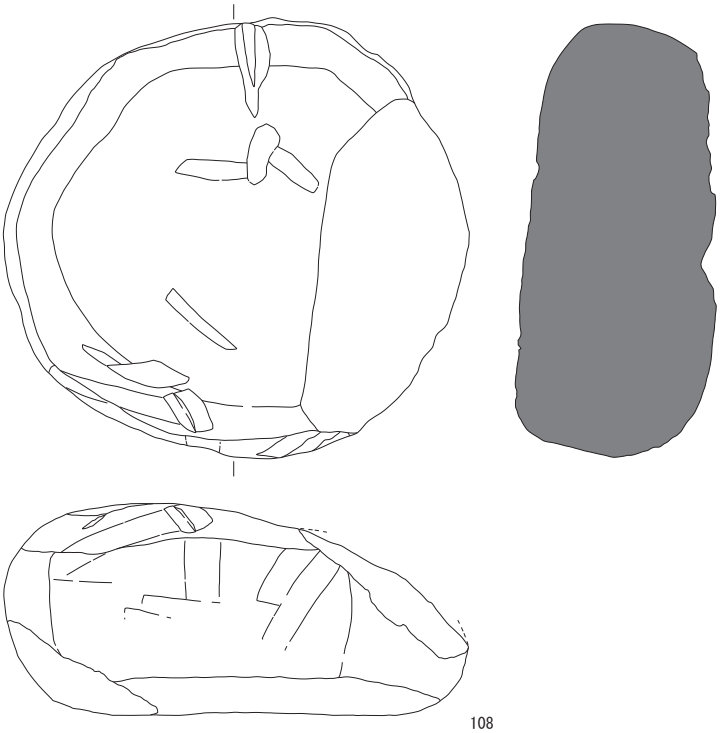


Fig.23　出土遺物（瓦）実測図

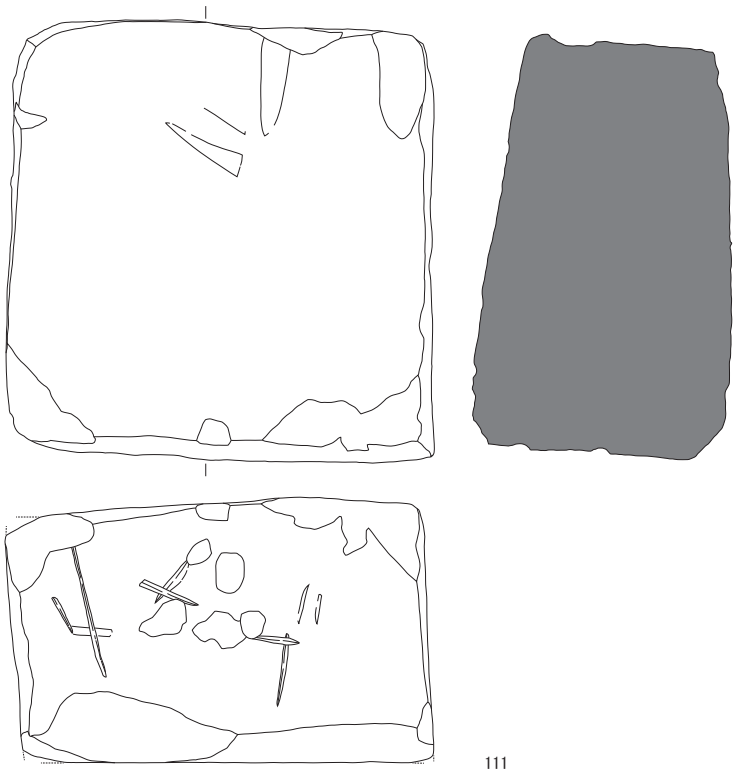


108

109

S=1/5 0 10cm

Fig.24　出土遺物（五輪塔）実測図－①



S=1/6 0 10cm

Fig.25　出土遺物（五輪塔）実測図－②

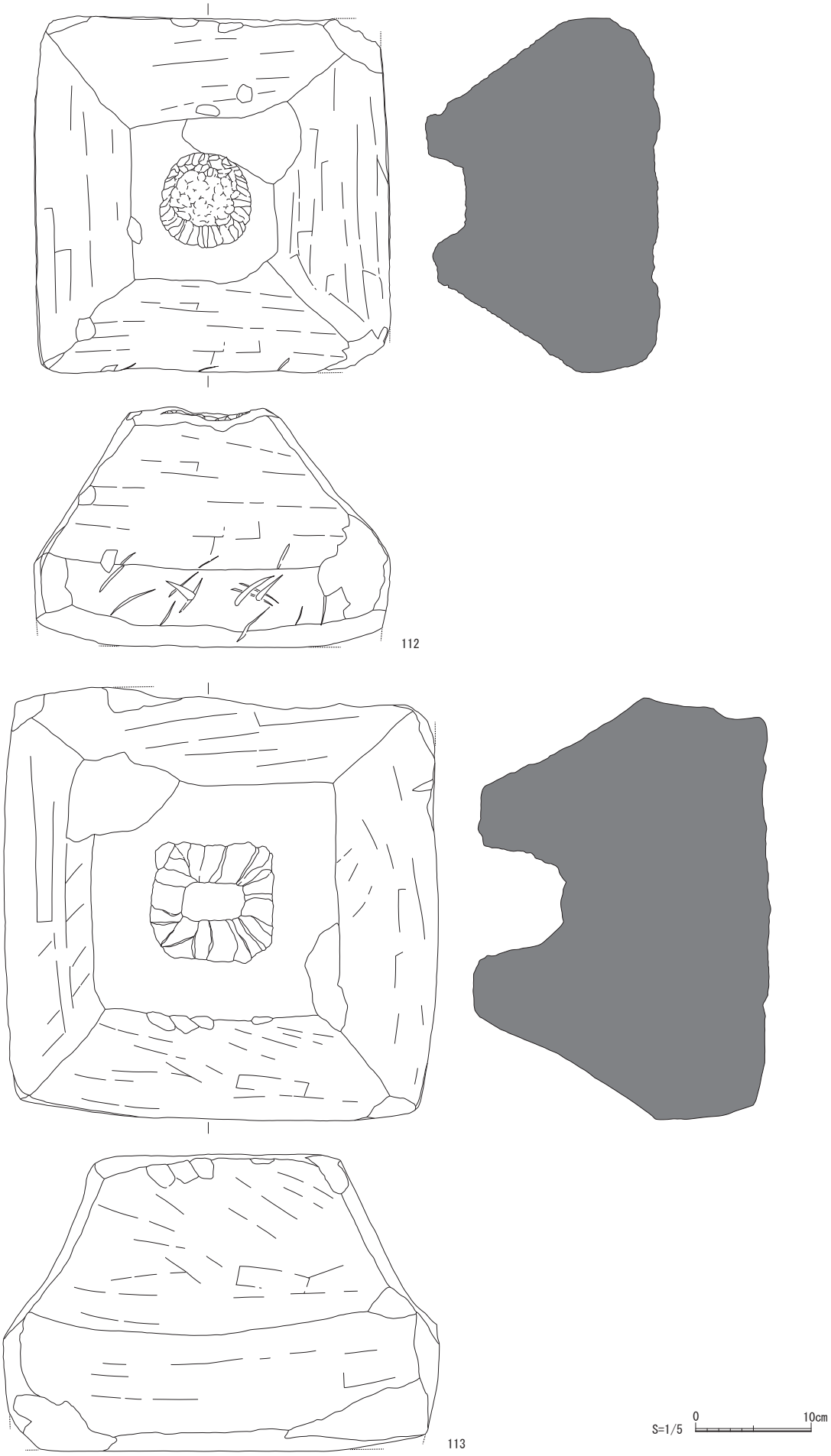


Fig.26 出土遺物（五輪塔）実測図－③

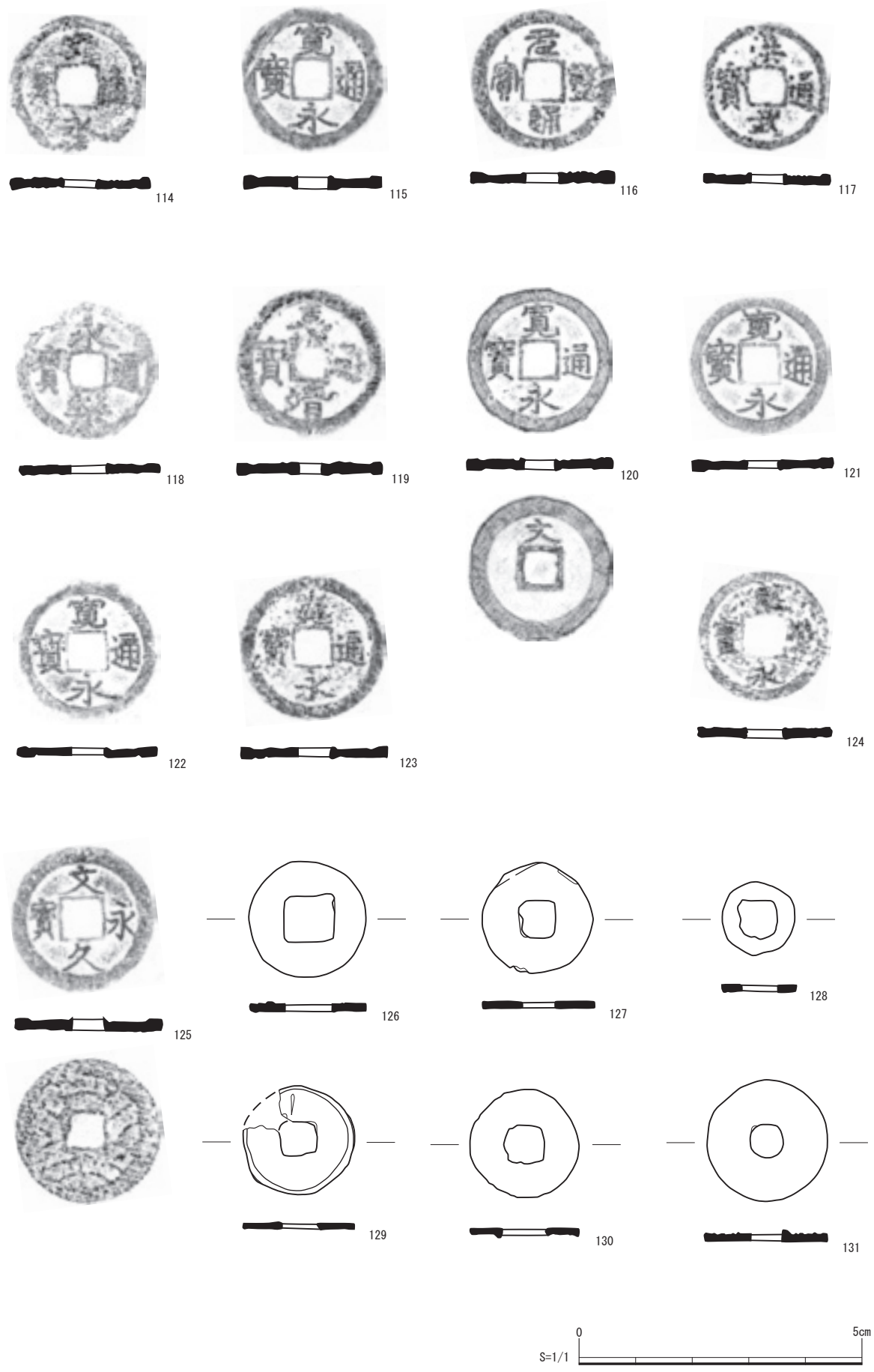


Fig.27 出土遺物（古銭）実測図

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量			色調	
						口径	底径	器高	胎土	釉
1	12	7	SD001	陶器	鉢	(17.9)	(8.2)	6.6	栗皮色 C133	焦茶色 C129
2			SD003	陶器	皿	(11.2)	4.3	4.2	煙草色 C112	ねずみ色 C292
3		8	SD008	白磁	碗	(15.2)	(4.7)	6.0	灰青 C243	灰青 C243
4			SD008	染付	蓋	(11.4)	–	2.8	雪の灰白 C282	月白色 C209
5			SD008	染付	小杯	(5.7)	(2.4)	3.5	亜鉛華の白 C164	月白色 C209
6			SD008	染付	皿	(21.0)	(7.8)	6.4	灰白 C144	銀灰色C 143
7		10	SD008	陶器	鉢	(23.6)	(16.0)	9.3	棕櫚色 C120	カーキー色 C221
8			SD008	陶器	鉢	(23.3)	–	(10.3)	棕櫚色 C120	焦茶色 C129
9		9	SD008	陶器	鉢	(33.6)	(13.2)	10.2	薄香色 C104	カーキー色 C221
10	13		SD008	陶器	鉢	35.4	(13.6)	10.8	赤香色 C108	焦茶色 C134
11		7	SD008	陶器	鉢	(36.3)	–	(9.0)	棕櫚色 C120	鉄の緑 C230
12			SD008	陶器	甕	(40.0)	–	(20.5)	赤香色 C108	灰緑 C176
14	14	11	SD010	陶器	鉢	(35.0)	–	4.6	松皮色 C80	白蠟色 C212
15			SD010	陶器	ひょう燭	7.3	5.8	4.5	松皮色 C80	–
18			SK001	染付	蓋	9.4	–	2.9	亜鉛華の白 C164	雲の灰色C 241
19			SK001	染付	蓋	8.8	–	2.5	亜鉛華の白 C164	月白色 C209
20			SK001	染付	蓋	(9.5)	–	3.1	亜鉛華の白 C164	雲の灰色C 241
21			SK001	染付	碗	10.9	5.8	6.6	雪の灰白 C282	月白色 C209
22			SK001	染付	碗	(12.4)	(6.5)	6.8	雪の灰白 C282	鉛の灰色C 211
23			SK001	染付	仏飯器	6.7	4.6	6.0	薄桜色 C101	トルコ石の灰緑C 219
24			SK001	染付	そば猪口	(7.2)	(5.2)	5.5	亜鉛華の白 C164	月白色 C209
25			SK001	染付	皿	–	–	(2.3)	亜鉛華の白 C164	雪の灰白 C282
26			SK001	染付	レンゲ	–	残存幅 5.3	1.9	灰白 C144	雪の灰白 C282
27		11	SK001	磁器	戸車	長 (3.9)	幅 (1.8)	厚 0.8	亜鉛華の白 C164	鉛の灰色C 211
28		12	SK001	陶器	甕	(24.2)	–	(12.3)	えび茶色 C117	銀灰色C 143
31	15	15	SK002	染付	鉢	21.8	11.4	7.6	亜鉛華の白 C164	薄青磁色 C206
32			SK002	陶器	鉢	16.8	5.6	9.0	コーヒー色 C110	漆黒 C303
33		14	SK002	陶器	油さし	–	7.4	(19.7)	えび茶色 C121	焦茶色 C228
34			SK002	陶器	土瓶	10.8	(6.4)	11.6	代赭色 C73	焦茶色 C129
35			SK002	陶器	注口付瓶	(13.7)	(25.6)	33.3	半色 C68	煙草色 C112
36	16	17	SK003	染付	碗	(12.5)	(4.9)	5.5	藍白 C281	鉛の灰色C 211
37			SK003	染付	碗	(12.0)	5.3	6.3	雪の灰白 C282	鉛の灰色C 211
38		18	SK029	陶器	鉢	27.3	10.4	13.4	小豆色 C125	栗色 C127
39		19	SK032	染付	碗	11.9	4.8	6.2	亜鉛華の白 C164	月白色 C209
40			SK034	陶器	皿	(11.4)	(6.4)	1.9	棕櫚色 C120	カーキー色 C221
41		20	SK055	染付	皿	(21.4)	12.9	5.2	亜鉛華の白 C164	月白色 C209
42			SK055	染付	皿	14.1	9.2	3.0	亜鉛華の白 C164	月白色 C209
43		28	SK055	陶器	擂鉢	16.4	6.8	5.4	皁色 C276	コーヒー色 C124
70	19	20	調査区	青磁	碗	(9.4)	–	(2.7)	銀灰色 C-143	薄い灰緑 C-201
71		21	調査区	青磁	植木鉢	14.4	7.9	8.1	雪の灰白 C282	ろくしょう色
72		20	調査区	白磁	皿	12.0	6.4	3.0	雪の灰白 C282	鉛の灰色C 211
73			調査区	青白磁	合子（身）	(7.8)	(10.2)	2.4	亜鉛華の白 C164	月白色 C209
74		21	調査区	染付	皿	11.7	6.2	2.1	亜鉛華の白 C164	雪の灰白 C282
75			調査区	染付	蓋	10.2	つまみ径 3.7	3.1	亜鉛華の白 C164	鉛の灰色C 211
76			調査区	染付	碗	(11.4)	5.9	6.1	雪の灰白 C282	鉛の灰色C 211
77			調査区	染付	皿	(9.1)	3.3	2.7	雪の灰白 C282	白茶 C135
78			調査区	染付	碗	(13.1)	–	(4.8)	亜鉛華の白 C164	月白色 C209
79			調査区	染付	皿	(9.7)	3.6	2.8	カーキー色 C232	枯芽色 C157
80			調査区	染付	碗	14.2	5.2	4.8	雪の灰白 C282	トルコ石の灰緑C 219
81		20	調査区	陶器	皿	8.4	3.3	2.4	棕櫚色 C120	栗色 C127
82		22	調査区	陶器	碗	(8.2)	–	(4.9)	ねずみ色 C292	褐色 C128
83			調査区	陶器	壷	(23.8)	–	(12.1)	ねずみ色 C292	ねずみ色 C292
84			調査区	陶器	甕	(32.7)	–	12.9	瓦の鼠茶 C293	栗皮色 C133
85	20		調査区	陶器	甕	–	–	10.1	うわぐすりの赤 C67	栗皮色 C133
86			調査区	陶器	鉢	(35.2)	(11.9)	11.8	辰砂 C27	枯芽色 C157

Tab. 5　出土遺物観察表－①

時期	備考	遺物番号
18c 後半～近代	嬉野　ハケによる白化粧　見込み蛇の目釉剥ぎ　腰部～高台内土見せ	1
16c 末～ 17c 初	肥前　馬たらい型　削り出し高台	2
18c 前半～ 18c 中	肥前　うがい碗　畳付釉掻き	3
17c 末～ 18c 前半	肥前　口縁部露胎	4
17c 後半	肥前　白土　七宝文　畳付釉掻き	5
－	肥前　菊花文　畳付釉掻き　内底面蛇の目釉剥ぎ	6
17c 末～ 18c 前半	肥前　白化粧による刷毛目文様　内底面一部に貫入	7
17c 末～ 18c 前半	肥前　片口鉢　釉溜り　下半分露胎	8
17c 後半	肥前　三島手　内器面象嵌　内底面に砂目跡	9
1650 ～ 1690	肥前　三島手　内器面象嵌　内底面に砂目跡	10
17c 末～ 18c 前半	肥前　二彩手　口縁部内面に砂目跡　胴部土見せ　ハケによる白化粧	11
17c 後半	肥前　緑釉	12
1690 ～ 1780	肥前　鉄絵　灰釉　白化粧	14
17c 後半～ 18c 前半	肥前　体部外面中位から内面にかけて自然釉　糸切り	15
19c 中	瀬戸　端反碗蓋　畳付釉剥ぎ	18
18c 末～ 19c 初	肥前　内外面に貫入　つまみ端部釉剥ぎ	19
19c	肥前　端反碗蓋　畳付釉剥ぎ	20
18c 末～ 19c 初	肥前　畳付釉剥ぎ　こうもり文様	21
1780 ～ 1810 年代	肥前　広東碗	22
18c 末～ 19c	肥前	23
18c 前半	有田　畳付釉剥ぎ	24
1670 ～ 1690 年	有田　畳付釉剥ぎ　内面型打ち	25
19c	肥前　底部釉剥ぎ	26
19c	肥前　回転ヘラケズリ	27
18c 前半	肥前　二彩唐津　鉄絵　白化粧	28
18c 後半	有田　（外山）　山水文　高台蛇の目釉剥ぎ	31
18c 末～ 19c 前半	熊本　削り出し高台　高台～高台内露胎	32
18c 後～ 19c 前半	薩摩　鉄釉　畳付砂目跡	33
18c 後～ 19c 前半	在地　下半部露胎	34
17 c 中～ 17c 後半	肥前　外面格子目叩き	35
18c 末～ 19c 前半	波佐見　見込みコンニャク版　畳付釉剥ぎ	36
18c 末～ 19c 前半	肥前　畳付釉剥ぎ	37
18c 後～ 19c 前半	肥前　高台内釉剥ぎ　体部下半部～畳付露胎　内底面砂目跡	38
16c	中国　畳付釉剥ぎ	39
16c	美濃	40
1690 ～ 1700	有田　畳付釉剥ぎ　貫入　高台内胎土目	41
17c 後半	有田　畳付釉剥ぎ	42
18c 後半	肥前　糸切り　擂り目単位 6 本	43
16c	中国　輸入陶磁器最後の青磁　外器面ヘラ彫り	70
14c ～ 15c	底部に穿孔　体部下位に三脚　内外面に貫入	71
－	中国　畳付釉釉剥ぎ　内底面に付着物	72
17c 後半	肥前　陽刻文	73
18C 前半	肥前　見込みに金色の彩色　色絵　畳付釉剥ぎ　上絵付けで加飾	74
18C 前半	肥前　つまみ端部釉掻き取り	75
18c 末～ 19c 初	肥前　畳付釉剥ぎ　畳付砂粒付着	76
15c 末～ 16c	中国　碁笥底　内底面に「福」	77
16c 後半～ 17c 初	中国　景徳鎮	78
－	波佐見　碁笥底　畳付露胎　貫入　砂粒付着	79
15c 末～ 16c 前半	中国　畳付熔着痕　畳付釉剥ぎ　畳付粗い砂粒付着　貫入	80
－	南関　畳付釉剥ぎ	81
19c	福岡　鎧茶碗　外面飛鉋	82
－	熊本	83
1630 ～ 1650	肥前　内器面に格子タタキ	84
－	肥前　口縁端部露胎	85
17c 後半～ 18c 初	肥前　三島手　内器面象嵌　内底面に砂目跡	86

遺物番号	Fig. No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				色調		胎土
						口径	底径	最大胴径	器高	外面	内面	
13	13	27	SD008	瓦質土器	捏鉢	(33.4)	－	－	13.0	黒 5Y2/1	黒 5Y2/1	角閃石 . 雲母 . 赤色酸化粒
16	14		SD013	土師器	杯	(12.6)	(8.2)	－	3.3	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	砂粒 . 赤色酸化粒
17			SD013	土師器	杯	(16.5)	(11.2)	－	5.3	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	雲母 . 赤色酸化粒
29		14	SK001	土師器	盤	(36.0)	(32.8)	－	2.6	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	0.5mm 程の砂粒
30		13	SK001	土師器	焙烙	31.0	29.5	－	7.9	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	微細砂粒
44	17	28	SK105	土師器	小皿	(8.2)	(5.8)	－	2.1	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	雲母 . 微細～ 3mm の砂粒 赤色酸化粒
45			SK105	土師器	小皿	7.7	5.8	－	2.0	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	雲母 . 赤色酸化粒
46			SK105	土師器	小皿	(7.8)	(5.1)	－	1.8	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR6/4	雲母 . 赤色酸化粒
47			SK105	土師器	小皿	(7.7)	(5.4)	－	2.2	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	雲母 . 赤色酸化粒
48			SK105	土師器	小皿	(8.2)	5.6	－	1.9	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石 . 雲母 微細～ 2 ㎜の砂粒 赤色酸化粒
49			SK105	土師器	小皿	8.3	6.3	－	2.0	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	雲母 . 赤色酸化粒
50			SK105	土師器	小皿	(8.6)	(6.4)	－	1.8	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	雲母 . 赤色酸化粒
51			SK105	土師器	杯	12.3	7.8	－	3.6	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	雲母 . 赤色酸化粒
52			SK105	土師器	杯	(11.7)	7.7	－	4.0	明褐 7.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	雲母 . 砂粒　赤色酸化粒
53			SK105	土師器	杯	(12.8)	(8.0)	－	3.5	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	雲母 . 赤色酸化粒
54			SK105	土師器	杯	12.3	7.6	－	3.5	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	雲母 . 微細砂粒
55			SK105	土師器	杯	11.9	7.2	－	4.3	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	雲母 . 砂粒 . 微細砂粒
56			SK105	土師器	杯	11.8	7.6	－	4.0	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	雲母 . 砂粒 . 赤色酸化粒
57			SK106	土師器	小皿	8.1	5.7	－	1.9	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	雲母 . 赤色酸化粒
58			SK106	土師器	小皿	(8.2)	5.6	－	2.1	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	雲母 . 赤色酸化粒
59			SK106	土師器	小皿	8.3	5.9	－	2.1	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	雲母 . 微細砂粒 赤色酸化粒
60			SK106	土師器	杯	(13.5)	(9.0)	－	4.0	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石 . 雲母 . 赤色酸化粒
61			SK106	土師器	杯	(12.8)	(8.6)	－	3.8	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石 . 雲母 . 赤色酸化粒
62			SK111	土師器	小皿	11.2	5.2	－	2.8	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	赤色酸化粒
63	18	29	ST001	土師器	小皿	10.4	6.3	－	3.0	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	雲母 . 赤色酸化粒
64			ST001	土師器	小皿	9.8	6.8	－	2.9	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	雲母 . 赤色酸化粒
65			ST001	土師器	小皿	10.3	6.6	－	2.8	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	雲母 . 赤色酸化粒
66			ST001	土師器	小皿	10.5	6.4	－	3.0	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	雲母 . 赤色酸化粒
67			ST002	黒色土器	椀	15.5	5.6	－	6.1	黒 N2/	黒 N2	角閃石 . 雲母 . 微細砂粒
68			ST002	黒色土器	椀	15.4	6.4	－	6.2	黒 N2/	黒 N2/	石英 . 角閃石 . 赤色酸化粒
69			ST002	黒色土器	椀	15.5	6.6	－	6.3	暗灰 N3/	暗灰 N3/	角閃石 . 雲母
87	20		調査区	土師器	小皿	(12.0)	6.9	－	2.6	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	角閃石 . 雲母 砂粒
88		22・29	調査区	須恵器	坩堝	(4.6)	－	－	3.3	灰 N5/	褐灰 10YR4/1	砂粒

Tab. 7　出土遺物（木製品）観察表－③

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構	器種	法量				備考
					最長(cm)	最幅	厚さ	重量	
89	21	30	SD016	木簡	13.2	2.4	0.3	6.8	柾目

遺物番号	Fig. No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				色調		胎土
						口径	底径	最大胴径	器高	外面	内面	
91	21	22	SD008	土製品	鞴の羽口	10.5	10.6	6.4	－	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	長石 . 赤色酸化粒

Tab.6　出土遺物観察表－②

調整				備考	遺物番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
横ナデ ケズリ後横ナデ．ナデ	横ナデ	ナデ．ケズリ後横ナデ	横ナデ．ナデ	外底面に板状圧痕	13
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		16
横ナデ ヘラ工具調整後 指頭によるナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		17
横ナデ．ケズリ	横ナデ	ナデ（摩耗）	横ナデ	墨書	29
横ナデ．ナデ	横ナデ．ナデ	ナデ（摩耗）	横ナデ	内外面煤付着	30
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		44
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ	内外面に付着物	45
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		46
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		47
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		48
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		49
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ．ナデ		50
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		51
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		52
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		53
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		54
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		55
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		56
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ．ナデ		57
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		58
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		59
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ．ナデ	外底面に板状圧痕	60
横ナデ	横ナデ	糸切り後ナデ	ナデ		61
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ．ナデ	（灯明皿）外底面に板状圧痕　外面に油煙	62
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		63
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		64
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		65
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		66
ヘラ磨き 回転ヘラケズリ後 ヘラ磨き	ヘラ磨き	横ナデ	ヘラ磨き	（高台付椀）黒色土器ｂ類	67
ヘラ磨き 回転ヘラケズリ後 ヘラ磨き	ヘラ磨き	横ナデ	ヘラ磨き	（高台付椀）黒色土器ｂ類　外底面ヘラ記号	68
ヘラ磨き 回転ヘラケズリ	ヘラ磨き	横ナデ	ヘラ磨き	（高台付椀）黒色土器ｂ類　外底面ヘラ記号	69
横ナデ 回転ヘラケズリ	横ナデ	糸切り	横ナデ	体部下位に穿孔４ヶ所	87
ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	口縁部内外面に付着物	88

Tab. 8　出土遺物（鉄製品）観察表－④

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構	器種	法量（cm）				備考
					長さ	幅	厚さ	重量（g）	
90	21	30	SK110	刀子	21.4	2.1	0.3	61.0	

Tab.9　出土遺物（土製品）観察表－⑤

調整				備考	遺物番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
ナデ	ナデ	－	－	先端に鉄滓付着　全体に被熱　装着角度は 17°	89

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量				
						全長（cm）	幅（cm）	孔径（cm）	厚（cm）	重（g）
92	22	30	SD002	石製品	石臼	(13.4)	(14.6)	―	8.1	1881
93			SD002	石製品	石臼	(20.6)	(5.5)	―	5.7	923
94		29	調査区	石製品	硯	(7.3)	4.5		(1.3)	55

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種類	法量			色調	
					最大長（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	外面	内面
95	22	32	SD003	平瓦	8.5	2.2	133.9	黒褐 2.5YR3/1	灰白 10YR8/2
96		31	SD010	軒丸瓦	5.5	1.7	53	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2
97		32	SK001	軒平瓦	11.9	2.0	336	灰 N5/	灰 N5/
98		―	SK001	軒平瓦	3.9	1.3	60	灰 N5/	灰 N5/
99		31	SK001	軒丸瓦	7.3	1.8	100.2	灰 N6/	灰 N6/
100			SK002	軒目板 桟瓦	8.7	2.2	327	灰 N4/	灰 N4/
101		32	SK001	軒平瓦	20.4	2.2	2027	灰 N5/	灰 N5/
102			SK003	軒平瓦	14.8	2.2	1022	灰 N5/	灰 N5/
103	23	31	SK046	滴水瓦	9.7	3.0	103.6	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5YR7/1
104			調査区	軒丸瓦	16.3	1.7	401	灰 N6/	灰 N5/
105			調査区	軒丸瓦	13.4	2.0	625	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1
106			調査区	滴水瓦	8.4	2.3	207.4	灰白 2.5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2
107		32	SK044	鬼瓦	43.7	4.5	5000	灰 N4/	灰 N4/

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量				
						全長（cm）	幅（cm）	孔径（cm）	厚（cm）	重（g）
108	24	33	SK037	五輪塔	水輪	29.1	30.8	―	高さ 14.0	8590
109			SK037	五輪塔	地輪	29.2	30.0	―	高さ 13.9	11850
110	25		SK057	五輪塔	水輪	38.2	38.3		26.5	39900
111			SK057	五輪塔	地輪	34.5	33.7	―	高さ 21.0	24500
112	26		調査区	五輪塔	火輪	30.9	30.8	軒高（中央部） 8.0	20.2	14800
113			調査区	五輪塔	火輪	37.5	37.7	軒高（中央部） 10.0	高さ 25.7	35300

Tab.13　出土遺物（古銭）観察表－⑨

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	銭貨名	時代	初鋳年	書体	直径	孔径	厚み	重量（g）	備考
114	27	26	SD008	銅銭	寛永通寶	江戸	―	―	2.4	0.5	0.1	2.5	
115			SD008	銅銭	寛永通寶	江戸	―	―	2.4	0.5	0.2	3.7	
116			調査区	銅銭	元豊通寶	北宋	1078	―	2.5	0.6	0.2	4.1	長崎貿易銭
117			調査区	銅銭	洪武通寶	明	1368~ 1398	―	2.2	0.6	0.2	2.6	
118			調査区	銅銭	永楽通寶	明	1408	―	2.5	0.6	0.1	1.4	
119			調査区	銅銭	嘉靖通寶	明	1523~ 1534	―	2.6	0.4	0.1	4.2	折二、折三、折五　、当十大銭
120			調査区	銅銭	寛永通寶	江戸	1668	―	2.6	0.5	0.2	3.4	背に「文」の字があり、寛永８年（1668）江戸亀戸村鋳。背文深字といわれている。
121			調査区	銅銭	寛永通寶	江戸	―	―	2.4	0.5	0.2	3.9	
122			調査区	銅銭	寛永通寶	江戸	―	―	2.5	0.6	0.1	2.8	
123			調査区	銅銭	寛永通寶	江戸	―	―	2.6	0.6	0.1	2.9	
124			調査区	銅銭	寛永通寶	江戸	―	―	2.3	0.6	0.1	2.9	
125			調査区	銅銭	文久永寶	江戸	1863~ 1867	楷書体	2.6	0.6	0.1	2.9	背に波紋あり
126			SK053	模造銭	―	―	―	―	2.0	0.8	0.1	1.0	
127			SK055	模造銭	―	―	―	―	2.0	0.5	0.1	1.0	
128			調査区	模造銭	―	―	―	―	1.3	0.7	0.1	0.3	
129			調査区	模造銭	―	―	―	―	1.9	0.6	0.1	0.9	
130			調査区	模造銭	―	―	―	―	1.9	0.7	0.1	0.8	
131			調査区	模造銭	―	―	―	―	2.1	0.5	0.1	2.0	

Tab.10　出土遺物（石製品）観察表－⑥

色調	石材	備考	遺物番号
灰黄 2.5Y6/2	砂岩	径は（18.6cm）　8 分画 7 溝式	92
灰黄褐 10YR6/2	砂岩	径は（29.6cm）すり合わせ部の目はない	93
明褐灰 7.5YR7/2	ー	墨付着	94

Tab.11　出土遺物（瓦）観察表－⑦

胎土	備考	遺物番号
長石、雲母、赤色酸化粒、 微砂粒～ 1 cm 小石	凹面布目痕　凸面青海波紋の叩き目	95
砂粒 . 赤色酸化粒	蛇の目文	96
雲母 . 砂粒 . 赤色酸化粒	瓦当に多量の雲母付着	97
砂粒 . 赤色酸化粒		98
砂粒	李朝系　重ね日差し文	99
砂粒	瓦当部九曜文	100
砂粒 . 赤色酸化粒	桔梗文	101
砂粒 . 赤色酸化粒	三葉文　唐草文	102
長石、角閃石、雲母　　微砂粒～	雲形文　布目痕	103
雲母 . 砂粒 . 赤色酸化粒	三巴文	104
砂粒	三巴文 側縁部面取り	105
微細粒～ 4mm 小石	円文　雲形文　布目痕	106
長石 . 雲母 . 角閃石 . 砂粒	組合せ式鬼瓦	107

Tab.12　出土遺物（五輪塔）観察表－⑧

色調	石材	備考	遺物番号
灰 N4/	凝灰岩		108
暗灰 N3/	凝灰岩		109
灰白 10YR7/1	灰白 10YR7/1		110
灰 N5/	凝灰岩		111
オリーブ灰 5GY5/1	凝灰岩		112
灰 N5/	凝灰岩		113

Tab.14 出土遺物観察表（写真のみ）－①

遺物番号	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	色調 釉	胎土	時期	備考
150	7	SD008	染付	碗	11.3	―	(4.8)	あひるの卵の薄青 C204	亜鉛華の白 C164	1670 年～1690 年	有田　赤絵　七宝
151		SD008	染付	瓶	―	4.9	(6.1)	月の白色 C209	亜鉛華の白 C164	1690 年～1730 年	有田　赤絵　畳付釉剥ぎ
152		SD008	染付	碗	(10.4)	―	(5.3)	月の白色 C209	亜鉛華の白 C164	1670 年～1680 年	有田　赤絵　菊花文　流水文
153	8	SD008	白磁	碗	14.2	7.2	6.8	雲の灰色 C241	鉛の灰色 C211	17c 末～ 18c 初頭	肥前　輪花　内面焼成時灰付着
154		SD008	白磁	小杯	(7.2)	3.4	3.1	あひるの卵の薄青 C204	貝の白 C163	17c 後半	肥前
155		SD008	青白磁	皿	13.7	5.1	13.9	ﾄﾙｺ石の青 C196	雪の灰白 C282	17c 末～ 18c 後半	肥前　高台～高台内露胎
156		SD008	白磁	仏飯器	7.6	3.9	5.2	灰白 C144	灰白 C144	17c 末～ 18c 中	肥前　脚の一部露胎
157		SD008	白磁	仏飯器	―	4.1	(3.9)	灰白 C144	灰白 C144	17c 末～ 18c 中	肥前　脚の一部露胎
158		SD008	染付	碗	(9.3)	4.4	6.2	浅葱鼠 C319	瓦の鼠茶 C293	1730 年～1740 年	波佐見　畳付釉剥ぎ
159		SD008	染付	碗	(10.8)	―	(5.4)	雪の灰白 C282	亜鉛華の白 C164	17c 後半	肥前
160		SD008	染付	碗	(11.4)	(5.8)	5.6	雲の灰色 C241	亜鉛華の白 C164	18c 後半	肥前　蓋付椀
161		SD008	染付	小杯	(5.9)	2.9	4.0	雪の灰白 C282	亜鉛華の白 C164	17c 後半	肥前　畳付釉剥ぎ
162		SD008	染付	皿	13.4	4.7	4.1	藍白 C282	雪の灰白 C282	17c 後半	肥前　見込み蛇の目釉剥ぎ　高台脇～高台内露胎
163		SD008	染付	皿	13.6	4.5	3.3	鉛の灰色 C211	雪の灰白 C282	17c 後半	肥前　腰部～高台内露胎　竹の節高台
164		SD008	染付	鉢	14.8	5.1	5.5	雲の灰色 C241	灰白 C144	19c 前半	肥前　砂目積
165		SD008	染付	鉢	15.4	6.6	8.2	薄青磁色 C206	亜鉛華の白 C164	17c 末～ 18c 前半	波佐見　見込みｺﾝﾆｬｸ版　畳付釉剥ぎ
166		SD008	染付	鉢	(14.4)	6.5	7.5	雲の灰色 C241	鉛の灰色 C211	17c 末～ 18c 前半	波佐見　見込みｺﾝﾆｬｸ版
167		SD008	染付	仏飯器	7.8	4.0	(5.0)	ベージュ C218	灰白 C144	17c 末～ 18c 中	肥前　高台内墨書　外底面釉剥ぎ
168		SD008	染付	仏飯器	―	3.9	(3.2)	ベージュ C218	灰白 C144	17c 末	肥前
169		SD008	染付	仏飯器	7.7	3.7	5.4	ベージュ C218	灰白 C144	―	肥前
170		SD008	陶胎染付	碗	(8.9)	―	(6.5)	瓦の鼠茶 C293	鼠色 C292	17c 末～ 18c 前半	肥前
171	9	SD008	陶器	碗	(10.8)	4.8	7.1	鹿皮色 C95	真珠色 C99	17c 中～ 17c 後半	肥前　畳付釉剥ぎ
172		SD008	陶器	碗	(11.0)	―	(4.9)	瓦の鼠茶 C293	カーキー色 C232	17c 末～ 18c 前半	肥前　ハケによる白化粧　口剥げ
173		SD008	陶器	小碗	(11.6)	―	(4.5)	赤茶色 C111	赤香色 C108	17c 末～ 18c 前半	内野山
174		SD008	陶器	―	12.2	―	2.3	棗色 C118	小豆色 C125	18c~19c	福岡　内面３ヶ所穿孔　穿孔に紐を通してつまみに利用　したものか
175		SD008	陶器	皿	(18.0)	5.6	6.0	カーキー色 C76	かもしか色 C106	17c 末～ 18c 前半	内野山　貫入　見込み蛇の目釉剥ぎ
176		SD008	陶器	皿	(13.8)	4.7	3.6	黄金の琉璃瓦色 C84	薄白茶 C103	17c 末～ 18c 前半	内野山　見込み砂目積　腰部～高台内露胎
177		SD008	陶器	小碗	―	4.6	(2.2)	銀灰色 C143	灰色 C144	17c 末～ 18c 前半	内野山　腰部～高台内露胎　蛇の目釉剥ぎ後本焼し蛇の目の部分に釉をかける
178		SD008	陶器	小碗	―	(5.0)	(1.8)	灰緑 C176	真珠色 C99	17c 末～ 18c 前半	内野山　腰部～高台内露胎　蛇の目釉剥ぎ後本焼し蛇の目の部分に釉をかける
179	10	SD008	陶器	碗	9.6	3.8	5.1	煙草色 C112	えび茶色 C121	17c 末～ 18c 前半	内野山　ハケで白化粧
180		SD008	陶器	碗	9.1	3.7	4.9	棗色 C118	ﾐﾝｸの灰色 C244	18c	熊本　砂目積　畳付釉剥ぎ
181		SD008	陶器	碗	8.4	3.8	5.5	褐色 C128	香色（ﾍﾞｰｼﾞｭ）C109	18c 後半～ 19c	熊本　畳付釉剥ぎ
182		SD008	陶器	碗	9.5	4.1	5.4	褐色 C128	皂色 C277	18c 後半～ 19c 前半	熊本　高台脇～高台内露胎　藁灰釉
183		SD008	陶器	碗	(13.4)	5.5	7.5	焦茶色 C134	銀灰色 C143	18c 末　～ 19c 前半	熊本　広東碗　藁灰釉　見込み蛇の目釉剥ぎ　高台脇～高台内露胎
184		SD008	陶器	碗	(9.0)	―	(4.1)	相思鳥の灰色 C294	代赭色 C74	18c~19c	高田焼
185		SD008	陶器	小杯	(10.2)	(6.4)	5.2	褐色 C128	ﾐﾝｸの灰色 C244	18c	福岡　藁灰釉
186		SD008	陶器	皿	10.3	(4.4)	2.6	カーキー色 C76	灰色 C297	18c 後～ 19c 前半	熊本
187		SD008	陶器	鉢	15.2	(6.0)	6.8	皂色 C276	ﾐﾝｸの灰色 C244	17c 末～ 18c 前半	肥前　片口鉢　見込み蛇の目釉剥ぎ　高台内露胎
188		SD008	陶器	猪口	(10.0)	―	(4.1)	カーキー色 C232	栗色 C294	18c	熊本
189		SD008	陶器	碗	―	3.4	(1.7)	灰白 C144	灰白 C144	18c 前半	関西　高台脇～高台内露胎
190		SD008	陶器	碗	―	3.1	(3.3)	ベージュ C218	灰白 C144	18c 前半	関西　高台脇～高台内露胎
191		SD008	陶器	碗	(9.8)	3.7	4.8	カーキー色 C138	胡椒の色 C140	17c 後半	肥前　京焼風　高台内露胎
192		SD008	陶器	碗	9.7	3.5	6.2	鉛の灰色 C211	真珠色 C99	18c 前半	関西　色絵　高台脇～高台内露胎
193		SD008	陶器	碗	(9.7)	5.0	6.1	胡椒の色 C140	淡い肌色 C105	1660 年～1680 年	肥前　京焼風　高台内印文　高台脇～高台内露胎
194		SD008	陶器	小杯	(8.6)	―	(4.9)	薄茶色 C93	薄茶色 C93	17c 末～ 18c 前半	内野山
195		SD008	陶器	皿	(19.0)	11.5	6.0	白茶 C135	白茶 C135	17c 末～ 18c 前半	肥前　京焼風　台付皿　輪花　高台内蛇の目釉剥ぎ
196		SD008	陶器	皿	12.8	4.4	4.1	茶紙の色 C315	薄香色 C104	17c 後半	内野山　見込み蛇の目釉剥ぎ　高台脇～高台内土見せ　釉溜り
197		SD008	陶器	皿	(11.8)	4.8	4.8	ひよこの黄色 C156	薄白茶 C103	17c 末	肥前　京焼風　高台脇～畳付露胎　高台内蛇の目釉剥ぎ
198	7	SD008	陶器	鉢	(29.2)	―	(7.1)	薄茶色 C103	代赭色 C74	17c 末～ 18c 前半	二彩唐津　格子叩き後波状文
199	27	SD008	陶器	灯火具	9.0	3.7	4.0	栗皮色 C133	辰砂 C27	17c 後半～ 18c	肥前　鉄釉　糸切り　外面～底部露胎
203	11	SD009	青白磁	皿	(19.4)	(16.8)	(3.1)	淡い灰緑 C194	雪の灰白 C282	18c 中	肥前　見込み花文
204		SD009	染付	碗	(9.8)	3.9	5.6	藍白 C281	雪の灰白 C282	―	畳付釉剥ぎ
205		SD009	陶器	壺	(6.4)	―	(9.6)	焦茶色 C134	相思鳥の灰色 C294	17c 後半	肥前
206		SD010	陶器	手塩皿	(8.0)	(3.7)	1.8	枯葉色 C126	かもしか色 C106	18c 後半～ 19c	熊本　鉄釉　高台内露胎
207	12	SK001	染付	碗	(10.8)	4.2	6.4	薄い灰緑 C201	雪の灰白 C282	19c	肥前　靖石碗
208		SK001	染付	碗	(9.8)	4.1	5.9	鉛の灰色 C211	雪の灰白 C282	1820 年～1860 年	肥前

Tab.15　出土遺物観察表（写真のみ）－②

遺物番号	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	色調 釉	胎土	時期	備考
209		SK001	染付	碗	8.5	3.4	5.8	雪の灰白 C282	雪の灰白 C282	18c 後半	肥前　畳付釉剥ぎ
210		SK001	染付	小碗	7.4	3.4	5.3	白蠟色 C212	雪の灰白 C282	1820 年～1860 年	肥前　畳付釉剥ぎ
211		SK001	染付	小碗	7.3	3.7	5.1	雪の灰白 C282	雪の灰白 C282	1820 年～1860 年	唐児　畳付釉剥ぎ
212		SK001	染付	小碗	(6.5)	3.0	3.0	雪の灰白 C282	亜鉛華の色 C164	19c 前半	肥前
213		SK001	磁器	皿	(21.1)	11.3	3.9	貝の白 163	灰白 C144	1690 年～ 18c 前半	有田
214		SK001	磁器	皿	(21.8)	12.3	2.7	月の白色 C209	亜鉛華の白 C164	19c	肥前
215		SK001	染付	皿	9.0	5.1	2.1	春蘭の色 C245	貝の白 C163	19c 前半～幕末	志田焼　錆釉　型押し　畳付釉剥ぎ　輪花皿
216		SK001	染付	皿	8.6	5.3	2.1	春蘭の色 C245	貝の色 C163	19c 前半～幕末	志田焼　錆釉　型押し　畳付釉剥ぎ　輪花皿
217		SK001	染付	皿	10.4	5.5	2.4	春蘭の色 C245	貝の白 C163	19c 前半～幕末	志田焼　錆釉　型押し　畳付釉剥ぎ　輪花皿
218		SK001	染付	皿	10.4	6.0	2.4	春蘭の色 C245	貝の白 C163	19c 前半～幕末	志田焼　錆釉　型押し　畳付釉剥ぎ　輪花皿
219		SK001	染付	手塩皿	9.8	4.2	2.4	鉛の灰色 C211	薄白茶 C103	18c	肥前　見込み蛇の目釉剥ぎ 重ね積み焼成後上絵付けで加飾
220		SK001	染付	皿	(16.6)	9.8	3.0	春蘭の色 C245	ミンクの灰色 C244	19c 前半	肥前　白化粧
221		SK001	染付	小瓶	―	3.6	(8.1)	藍白 C281	雪の灰白 C282	―	肥前
222		Sk001	磁器	八角鉢	(11.6)	―	(2.6)	仕事着の青 C264	灰白 C144	19c ～	有田
223	12	SK001	陶器	蓋	(11.0)		2.1	褐色 C128	赤茶色 C111	―	肥前　土瓶の蓋
224		SK001	陶器	蓋	(10.5)	―	2.2	焦茶色 C134	ﾁｮｺﾚｰﾄ色 C113	18c 後半～ 19c 前半	肥前　土瓶の蓋
225		SK001	陶器	小碗	7.1	3.4	5.3	胡椒色 C140	淡いｸﾘｰﾑ色 C110	18c~19c 前半	肥前　畳付釉剥ぎ
226		SK001	陶器	小杯	(5.8)	2.8	5.0	雪の灰白 C282	白ろう色 C212	19c	関西系　高台～高台内露胎　高台内即文
227		SK001	陶器	小杯	(3.4)	―	(3.7)	焦茶色 C228	―	19c	熊本　高台脇～畳付露胎
228		SK001	陶器	小杯	―	3.2	(6.2)	ﾍﾞｰｼﾞｭ C218	灰白 C144	19c	在地　畳付釉剥ぎ　鉄分が吹き出している
229		SK001	陶器	鉢	―	(7.4)	(4.6)	―	ねずみ色	17c 末～ 18c 前半	肥前　白化粧　ハケで波状文
230		SK001	陶器	鉢	―	7.4	(7.4)	―	栗色 C127	18c 後半	肥前　砂目積　白化粧　見込み蛇の目釉剥ぎ
231		SK001	陶器	鉢	(16.0)	(5.8)	6.8	焦茶色 C228	ミンクの灰色 C244	17c 末～ 18c 前半	肥前　ハケによる白化粧　高台脇～高台内露胎
232		SK001	陶器	そば猪口	―	4.8	(3.1)	焦茶色 C134	白茶 C135	18c 後半～ 19c	熊本　高台～高台内露胎
233		SK001	陶器	徳利	―	9.0	(15.2)	大理石の色 C215	相思鳥の灰色 C294	18c 後半～ 19c	肥前　畳付釉剥ぎ
234		SK001	陶器	徳利	―	―	(4.2)	ｺｰﾋｰ色 C110	白茶 C107	18c	肥前
235		SK001	陶器	仏飯器	―	4.4	(1.4)	瑪瑙色 C71	栗皮色 C133	―	肥前　仏飯器の足　糸切り
236		SK001	陶器	土瓶	(8.6)	―	(2.2)	褐色 C128	赤香色 C108	18c 後半～ 19c 前半	肥前
237		SK001	陶器	―	―	―	(1.8)	白茶 C141	砂漠の駱駝色 C78	―	薩摩
238		SK001	陶器	蓋	11.7	―	3.2	ｶｰｷｰ色 C232	栗色 C127	18c 後半～ 19c 中	肥前　天井部重ね焼き痕
239		SK001	陶器	蓋	10.0	―	3.3	煙草色 C112	代赭色 C74	18c 後半 ~19c 前半	薩摩　灰釉
240		SK001	陶器	徳利	―	―	(13.9)	―	辰砂 C27	17c 末～ 18c 前半	武雄系　白化粧
241		SK001	陶器	甕	―	―	(11.4)	真珠色 C99	辰砂 C27	18c	肥前　鉄釉　白化粧　釉剥ぎ
242		SK001	陶器	土瓶	(7.8)	―	(6.5)	―	辰砂 C27	18c 後半～ 19c	
243	13	SK001	陶器	土瓶	(8.8)	―	(9.1)	ｶｰｷｰ色 C232	辰砂 C27	18c 後半～ 19c	肥前　下半部煤付着　円錐状の脚剥離　ヘラ掘り沈線
244		SK001	陶器	土瓶	11.1	―	(12.1)	―	煉瓦色 C120	18c 後半～ 19c 前半	薩摩　灰釉
245		SK001	陶器	土瓶	10.0	―	(10.3)	ｶｰｷｰ色 C232	ｺｰﾋｰ色 C110	18c 後半～ 19c	肥前　上半部銅緑釉　口縁釉剥ぎ　円錐状の脚 3 ヶ所
246		SK001	陶器	擂鉢	―	12.8	(5.9)	栗色 C127	辰砂 C27	18c 後半～ 19c 前半	肥前　鉄釉　重ね焼き　ヘラ切り　畳付釉剥ぎ 貼り付け高台
249		SK002	白磁	碗	10.8	4.1	5.8	雪の灰白 C282	薄白茶 C103	18c 後半	肥前　蓋付き碗
250		SK002	青白磁	皿	11.2	4.0	4.5	薄青磁色 C206	薄白茶 C103	19c 前半	肥前　高台～高台内釉剥ぎ　見込み蛇の目釉剥ぎ
251		SK002	染付	碗	9.9	5.2	5.2	雪の灰白 C282	灰白 C144	18c ～ 19c	肥前　見込みコンニャク版
252		SK002	染付	碗	11.4	4.2	4.9	薄青磁色 C206	鉛の灰色 C211	18c 後半～ 19c 初頭	波佐見　見込み蛇の目釉剥ぎ　畳付釉剥ぎ
253		SK002	染付	碗	―	6.0	(5.3)	雪の灰白 C282	灰白 C144	18c 末～ 19c 前半	肥前　広東碗　見込みコンニャク版「寿」
254		SK002	染付	碗	―	4.2	(3.5)	雪の灰白 C282	鉛の灰色 C211	18c 後半	波佐見
255		SK002	染付	碗	(8.0)	(4.5)	4.3	雪の灰白 C282	灰白 C144	18c 後半～	肥前　筒型碗
256		SK002	染付	碗	―	3.7	(1.5)	月の白色 C209	亜鉛華の白 C164	18c 後半	肥前　畳付釉剥ぎ
257	15	SK002	染付	小碗	8.4	4.1	4.2	あひるの卵の薄青 C204	亜鉛華の白 C164	19c 前半	肥前　畳付釉剥ぎ
258		SK002	染付	皿	12.8	6.8	2.8	雪の灰白 C282	灰白 C144	19c 前半	有田焼　輪花　畳付釉剥ぎ
259		SK002	染付	皿	(18.8)	―	(4.4)	あひるの卵の薄青 C204	灰白 C144	18c 中～18c 後半	波佐見
260		SK002	染付	皿	13.1	6.2	3.0	雪の灰白 C282	鉛の灰色 C211	18c 後半	波佐見　見込み蛇の目釉剥ぎ　畳付釉剥ぎ
261		SK002	染付	蓋	(9.8)	―	2.9	ﾄﾙｺ石の青 C196	灰色 C144	18c 末～ 19c 前半	肥前　蓋付椀　内面蛇の目釉剥ぎ　つまみ端部釉剥ぎ
262		SK002	染付	鉢	14.8	―	(5.2)	雪の灰白 C282	灰白 C144	19c	肥前　輪花
263		SK002	染付	碗	7.0	(3.6)	5.4	雪の灰白 C282	灰白 C144	18c 後半～ 19c 初頭	肥前　筒型碗　畳付釉剥ぎ　成形が悪い
264		SK002	染付	段重	―	(10.8)	(4.0)	月の白色 C209	亜鉛華の白 C164	―	肥前　畳付釉剥ぎ　高台砂粒付着　下段
265		SK002	陶器	甕	14.2	―	(9.2)	煙草色 C112	栗色 C127	18c	肥前　鉄釉
266	16	SK002	陶器	擂鉢	―	―	(8.6)	焦茶色 C129	辰砂 C27	18c 後半～ 19c 前半	
267		SK002	陶器	土瓶	12.0	―	(9.8)	枯葉色 C126	代赭色 C74	18c 後半～ 19c 前半	在地　口縁上面釉剥ぎ　煤付着　下半部露胎

Tab. 16　出土遺物観察表（写真のみ）－③

遺物番号	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	色調 釉	胎土	時期	備考
268	16	SK002	陶器	土瓶	(10.0)	7.4	12.1	枯葉色 C126	辰砂 C27	18c 後半～ 19c 前半	肥前　下半部カキメ調整　円錐状の脚３ヶ所
269		SK002	陶器	土瓶	(10.3)	―	(12.2)	焦茶色 C134	えび茶色 C121	18c 後半～ 19c	薩摩　底部露胎　煤付着
270		SK002	陶器	土瓶	(12.0)	―	(11.2)	ｵﾘｰﾌﾞ色 C179	代赭色 C74	18c 後半～ 19c 前半	在地　煤付着
271		SK002	陶器	土瓶	(10.8)	―	(9.4)	枯葉色 C126	代赭色 C74	―	在地　煤付着
272		SK002	陶器	土瓶	6.6	5.9	7.7	消炭の色 C103	くすんだｸﾘｰﾑ色 C147	19c	関西
273		SK002	染付	蓋	7.2	―	(1.3)	ひよこの黄色 C156	薄白茶 C103	明治	関西
274		SK002	陶器	蓋	(10.1)	―	3．5	鉛の白 C163	白蠟色 C212	1750 年～ 1780 年	肥前　内外面雷文　蓋付もうりょう碗
275		SK002	陶器	碗	(4.2)	―	(4.8)	薄白茶 C103	淡いクリーム色 C100	18c 末	関西　色絵
276		SK002	陶器	碗	12.3	5.3	6.8	鵲の羽色 C236	白茶 C135	―	熊本　高台～高台内露胎　藁灰釉
277		SK002	陶器	碗	(9.8)	―	(5.3)	栗色 C127	紺鼠 C290	18c 末～ 19c 前半	熊本　藁灰釉
278		SK002	陶器	瓶	―	9.6	(8.5)	代赭色 C74	肉桂色 C81	18c 後半～ 19c	肥前　鉄釉
279		SK002	陶器	瓶	―	―	(7.7)	桧皮色 C131	えび茶色 C121	18c 後半～ 19c	肥前　白化粧
280		SK002	陶器	擂鉢	(33.8)	11.9	15.1	ﾁｮｺﾚｰﾄ色 C113	辰砂 C27	18c	肥前　鉄絵　重ね焼き痕　ハケによる白化粧　砂床
281	17	Sk003	陶器	擂鉢	―	(13.6)	10.5	―	辰砂 C27	18c 後半～ 19c 前半	肥前　内底面重ね焼痕　貼り付高台
282		SK003	陶器	擂鉢	(32.4)	―	(9.9)	―	辰砂 C27	18c 後半～ 19c 前半	肥前　外面叩き後横ナデ
283		SK003	陶器	土瓶	10.9	―	(9.1)	ｶｰｷｰ色 C232	辰砂 C27	18c 後半～ 19c	肥前　下半部煤付着
284		SK003	陶器	土瓶	―	6.6	―	焦茶色 C134	代赭色 C74	18c 後半～ 19c	肥前　上半部銅緑釉　下半部露胎　煤付着　円錐状の脚３ヶ所
285	18	SK004	陶器	擂鉢	―	(12.9)	(14.6)	褐色 C128	辰砂 C27		二彩唐津　白化粧　重ね焼き痕　砂床
286		SK029	染付	小碗	7.4	3.5	5.7	浅葱鼠 C319	薄白茶 C103	19c 前半	肥前　畳付釉剥ぎ
287		SK029	染付	手塩皿	(9.4)	4.9	1.9	雪灰 C282	亜鉛華の白 C164	18c 末～ 19c 前半	肥前　畳付釉剥ぎ　貼り付け高台
288		SK031	陶器	天目茶碗	(11.0)	―	5.3	枯葉色 C126	蒲の茶 C77	16c	瀬戸　鉄釉　腰から底部にかけ土見せ
289	19	SK055	青磁	火入れ	(6.4)	4.8	8.2	すずかけの樹の色 C216	胡椒の色 C140	17c 後半	肥前　内面の高台内は露胎　貫入
290		SK055	青白磁	皿	―	4.8	(2.3)	鉛の灰色 C211	雪の灰色 C282	17c 後半	肥前　畳付～高台内露胎
291		SK055	青白磁	瓶	―	―	(9.7)	薄い灰緑 C201	黄灰 C319	17c 後半	肥前
292		SK055	染付	碗	―	(3.9)	(4.1)	雪の灰白 C282	亜鉛華の白 C164	1670 年～ 1700 年	肥前　高台内文字
293		SK055	染付	皿	(13.6)	(7.6)	3.3	鉛の灰白 C211	亜鉛華の白 C164	17c 末～ 18c 前半	肥前　見込み５弁花（ｺﾝﾆｬｸ版）　見込み蛇の目釉剥ぎ
294		SK055	陶胎染付	碗	(9.9)	3.9	5.4	藍白 C281	雪の灰白 C282	17c 後半	波佐見
295		SK055	陶胎染付	小鉢	―	―	(4.9)	ﾐﾝｸの灰色 C244	鼠色 C292	17c 末～ 18c 前半	肥前　畳付釉剥ぎ
296		SK055	陶器	碗	9.7	―	(4.1)	胡椒の色 C140	薄白茶 C103	―	肥前
297		SK055	陶器	碗	9.6	3.7	4.3	鹿皮の色 C96	真珠色 C99	―	肥前　京焼風　高台脇～高台内露胎
298	20	調査区	染付	碗	―	―	(2.8)	鉛の灰色 C211	灰白 C144	1650 年～ 1660 年	肥前　赤絵
299		調査区	陶器	皿	―	6.6	(2.3)	白茶 C135	亜鉛華の色 C164	17c 前半	内野山　貫入　見込み砂目積　畳付釉剥ぎ
300	22	調査区	陶器	鉢	(12.6)	―	(5.0)	蒲の茶 C77	鹿皮色 C95	1690 年～ 1740 年	肥前　外面ハケによる花模様
301		調査区	陶器	香炉の火入れ	(6.0)	(6.2)	4.2	焦茶色 C129	ﾐﾝｸの灰色 C244	17c 末～ 18c 前半	肥前　高台付
302	29	調査区	陶器	甕	―	―	(6.1)	桧皮色 C131	素鼠 C317	14c ～ 15c	備前　貼り付け口縁

Tab.17　出土遺物観察表（輸入陶磁器 写真のみ）－④

遺物番号	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	色調 釉	胎土	時期	備考
303	23	SD008	白磁	碗	―	6.6	(1.7)	灰白 C144	亜鉛華の白 C164	12c ～ 13c	中国　高台脇～高台内露胎
304	24	SD008	染付	碗	―	4.2	(2.1)	黄灰 C319	亜鉛華の白 C164	16c	中国　貫入　畳付釉剥ぎ
305	23	SD009	青磁	碗	―	(5.9)	(1.6)	すずかけの樹の色 C216	真珠色 C99	14c ～ 15c	中国　見込み露胎　高台内露胎
306	24	SD009	染付	皿	(11.4)	(5.6)	2.4	雪の灰白 C282	雪の灰白 C282	16c	中国　景徳鎮系染付　畳付～高台内荒い砂粒付着
307	23	SD011	白磁	皿	―	8.4	(2.7)	亜鉛華の白 C164	亜鉛華の白 C164	15c 末～ 16c	中国　胎土目
308	25	SD012	白磁	皿	(12.4)	7.0	3.0	亜鉛華の白 C164	亜鉛華の白 C164	16c	中国　畳釉剥ぎ
309	23	SD013	青磁	碗	(12.7)	―	(3.2)	すずかけの樹の色 C216	ﾐｼｸの灰色 C244	13c ～ 14c	中国　縞連弁文
310		SD014	白磁	皿	(8.7)	―	(1.4)	薄白茶 C103	貝の白 C163	15c 末～ 16c	中国　底部にかけて蛇の目釉剥ぎ
311		SD014	青白磁	皿	(10.8)	―	(3.0)	大理石の色 C215	あひるの卵の薄青 C204	15c 末	見込み蛇の目釉剥ぎ　腰から高台内露胎
312		SD014	青磁	皿	(9.2)	―	(1.8)	すずかけの樹の色 C216	ﾐｼｸの灰色 C244	15c 末	中国　輪花
313	24	SK030	染付	皿	―	―	(0.5)	雪の灰白 C282	亜鉛華の白 C164	16c	中国　景徳鎮系染付
314	23	SK031	白磁	碗	(13.4)	―	(2.4)	銀灰色 C143	灰白 C144	12c	中国　玉縁
315	25	SK033	白磁	皿	―	(6.6)	(2.2)	亜鉛華の白 C164	亜鉛華の白 C164	16c	中国　畳釉剥ぎ
316		SK035	白磁	碗	(8.8)	―	(2.4)	銀灰色 C143	灰白 C144	16c	中国　口剥げ
317	24	SK036	染付	皿	(14.5)	7.2	3.3	雪の灰色 C282	黄灰 C319	15c 末～ 16c 前半	中国　高台脇～高台内露胎　荒い砂粒付着
318	23	Sk038	白磁	碗	(12.2)	―	(2.4)	鉛の灰色 C211	亜鉛華の白 C164	16c	中国　貫入
319	25	SK039	染付	猪口	8.9	2.8	4.2	(外) 濃藍 C262 (内) 黄灰 C319	雪の灰白	16c 後半～ 17 初	中国　るり釉　畳付釉剥ぎ
320		SK040	染付	碗	(11.0)	―	(2.2)	深銀灰 C143	乳灰 C141	16c	中国　漳州窯
321	24	SK041	染付	碗	(12.9)	―	(2.1)	鉛の灰色 C211	藍白 C281	16c 後半	中国
322		SK042	陶器	壺	(21.8)	―	(5.3)	褐色 C128	白茶 C135	15c ～ 16c	中国　胴部に重ね焼き痕
323		SK042	陶器	瓶	―	―	(11.6)	栗皮色 C133	代赭色 C73	15c ～ 16c	中国
324		SK043	染付	碗	―	―	(2.1)	鉛の灰色 C211	藍白 C281	16c	中国
325	23	SK045	青磁	皿	(11.3)	―	(2.0)	ﾄﾙｺ石の灰緑 C219	雲の灰色 C241	16c 前半	中国　貫入
326	24	SK045	染付	皿	(10.4)	2.6	2.5	鉛の灰色 C211	雪の灰白 C282	15c 末～ 16c 前半	中国　碁笥底　底部蛇の目釉剥ぎ
327	25	SK045	染付	皿	―	3.5	(2.4)	雲の灰色 C241	藍白 C281	16c 前半	中国　碁笥底　見込み . 底部蛇の目釉剥ぎ
328		SK046	白磁	皿	(11.6)	―	(2.6)	亜鉛華の白 C164	亜鉛華の白 C164	15c ～ 16c	中国
329	24	SK046	染付	皿	(9.6)	(5.2)	2.7	鉛の灰色 C211	薄茶色 C93	16c	中国　見込み蛇の目釉剥ぎ　高台～高台内露胎
330	25	SK046	染付	小鉢	(11.3)	―	(2.2)	黄灰 C319	灰白 C144	16c 末～ 17c 初頭	中国　漳州窯　貫入
331		SK046	染付	碗	(13.6)	―	(13.4)	ﾐｼｸの灰色 C244	灰白 C144	16c 末～ 17c 初頭	中国　漳州窯　貫入
332	24	SK047	染付	碗	―	5.0	(1.6)	灰白 C144	かもしか色 C106	15c 末～ 16c 前半	中国　高台脇～高台内露胎
333		SK048	陶器	―	―	(8.6)	(5.5)	ｵﾘｰﾌﾞ色 C179	ﾁｮｺﾚｰﾄ色 C113	15c ～ 16c	中国　胴部一部露胎
334		SK049	染付	皿	―	5.3	(7.3)	辛子色 C136	乳灰 C141	16c 前半	中国　畳付～高台内露胎
335	25	SK049	染付	皿	(11.4)	3.3	3.2	ﾐｼｸの灰色 C244	藍白 C281	16c 前半	中国　碁笥底　高台脇釉剥ぎ　貫入
336	23	Sk050	青磁	皿	(11.3)	―	(2.1)	ﾍﾞｰｼﾞｭ C218	乳灰 C141	16c 後半 ~17c 前半	中国
337		SK051	白磁	皿	(12.3)	5.2	3.7	銀灰色 C143	白茶 C135	中世	中国　畳付～高台内露胎
338	24	Sk051	染付	碗	(12.4)	―	(4.1)	白茶 C141	胡椒色 C140	16c 前半	中国
339		SK051	染付	碗	(12.5)	―	(4.6)	鉛の灰色 C211	灰白 C144	16c 前半	中国
340		SK052	染付	皿	9.8	3.1	2.8	鉛の灰色 C211	雪の灰白 C282	16c 前半	中国　碁笥底　高台内砂目積　高台内露胎
341	23	SK053	白磁	皿	(12.3)	(7.0)	3.1	灰白 C144	灰白 C144	16c	中国　畳付釉剥ぎ
342	25	SK053	染付	皿	(11.4)	(4.0)	3.2	すずかけの樹の色 C216	鉛の灰色 C211	16c 前半	中国　碁笥底　高台内露胎　貫入
343		SK053	染付	皿	(11.0)	4.2	3.0	銀灰色 C143	灰白 C144	16c 前半	中国　碁笥底　貫入
344	24	SK054	染付	碗	―	―	(1.2)	鉛の灰色 C211	雪の灰白 C282	16c 前半	中国　景徳鎮系染付
345		SK056	染付	碗	―	(4.7)	(2.8)	雪の灰白 C282	亜鉛華の白 C164	16c	中国
346		SK056	染付	碗	9.1	―	(3.6)	雪の灰白 C282	亜鉛華の白 C164	16c	中国　景徳鎮系染付
347		SK056	染付	碗	(8.7)	―	(3.1)	灰色 C297	灰白 C144	16c	中国　景徳鎮系染付
348		SK056	染付	碗	(11.4)	―	(2.1)	雪の灰白 C282	灰白 C144	16c	中国　景徳鎮系染付
349	25	SK056	陶器	―	―	―	(2.5)	濃い空色 C253	雪の灰白 C282	16c	中国　ひすい釉 (珍品)　袋物
350	23	SK058	白磁	碗	(13.8)	5.0	5.6	亜鉛華の白 C164	亜鉛華の白 C164	16c	中国
351	25	SK059	染付	皿	―	(14.0)	(2.7)	黄灰 C319	鉛の灰色 C211	16c 末～ 17c 初	中国　漳州窯　畳付砂目積
352	24	SK059	陶器	甕	―	(48.4)	(4.2)	焦茶色 C129	弁柄色 C130	15c ～ 16c	中国
353		SK060	染付	碗	―	―	(3.6)	藍白 C281	亜鉛華の白 C164	16c	中国　景徳鎮系染付
354	23	SK104	青磁	碗	―	(8.2)	(2.2)	銀灰色 C143	乳灰 C141	14c ～ 15c	中国　腰部～高台内露胎
355		SK105	青磁	皿	―	6.2	(2.2)	大理石の色 C215	藍白 C281	14c ～ 15c	中国　畳付～高台内露胎　竹の節高台 見込み菊花文
356		SK109	青磁	碗	(12.6)	―	(5.5)	すずかけの樹の色 C216	ﾐｼｸの灰色 C244	14c 中	中国　雷文帯
357		SK110	白磁	皿	―	3.6	(1.3)	貝の白 C163	貝の白 C163	15c	中国　高台脇～高台内露胎
358		調査区	白磁	皿	―	(8.6)	(1.9)	亜鉛華の白 C164	亜鉛華の白 C164	16c	中国　砂目積
359		調査区	白磁	皿	(11.6)	7.4	2.8	灰白 C144	亜鉛華の白 C164	16c	中国　畳付釉剥ぎ
360		調査区	青磁	碗	―	5.8	(1.7)	焦茶色 C228	ﾐｼｸの灰色 C244	14c ～ 15c	中国　高台内蛇の目釉剥ぎ
361		調査区	青磁	碗	―	―	(2.4)	すずかけの樹の色 C216	灰白 C144	15c	中国　雷文

Tab.18　出土遺物観察表（輸入陶磁器　写真のみ）－⑤

遺物番号	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	色調 釉	胎土	時期	備考
362	23	調査区	青磁	碗	(13.8)	―	(4.0)	海老の殻の灰緑 C217	銀鼠 C295	14c ～ 15c	中国
363		調査区	青磁	碗	―	―	(6.4)	飛天の羽衣の色 C225	鉛の灰色 C211	14c ～ 15c	中国　蓮弁文
364	24	調査区	染付	碗	(12.1)	―	(3.9)	鉛の灰色 C211	藍白 C281	16c	中国
365		調査区	染付	碗	―	―	(3.5)	雪の灰白 C282	亜鉛華の白 C164	16c 後半～ 17c 初	中国
366		調査区	染付	碗	―	―	(3.5)	銀灰色 C143	胡椒色 C140	16c 前半	中国
367		調査区	須恵	甕	―	―	(3.6)	鉄紺 C278	石板色 C299	―	朝鮮　羽状叩き (沖縄に多い)

Tab.19　出土遺物観察表（写真のみ）－⑥

遺物番号	PL No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	色調 内	外	調整 外器面	内器面	外底面	内底面	備考
200	27	SD008	土師器	小皿	8.0	4.6	1.6	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	(灯明皿) 油煙
201		SD008	土師器	小皿	9.1	5.2	1.8	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	横ナデ . ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ . ナデ	(灯明皿) 油煙付着
202		SD008	土師器	小皿	7.6	3.8	1.5	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	横ナデ . ナデ	横ナデ . ナデ	糸切り	ナデ	(灯明皿) 口縁部油煙顕著
247		SK001	瓦質土器	火鉢	―	(23.4)	(13.1)	浅黄橙 10YR8/4	褐灰 10YR4/1	横ナデ . ナデ	横ナデ . ナデ	ナデ	ナデ	脚部貼り付け外器面華紋
248		SK001	瓦質土器	壺	(13.2)	(15.8)	15.2	黒 10YR2/1	黒 10YR2/1	横ナデ . 回転ヘラ削り	横ナデ . ナデ . 指頭圧痕	ナデ	ナデ	口縁部肥圧する
368	14	SK001	土師器	不明	―	―	(0.5)	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	ナデ	ナデ	―	―	墨書

Tab.20　出土遺物観察表（坩堝　写真のみ）－⑦

遺物番号	PL No. .	遺構	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	備考
369	22	SK056	石	坩堝	器高 1.3	―	―	14	内面に古銭付着
370		調査区	石	坩堝	器高 3.6	口径 (7.8 ㎝)	―	20	

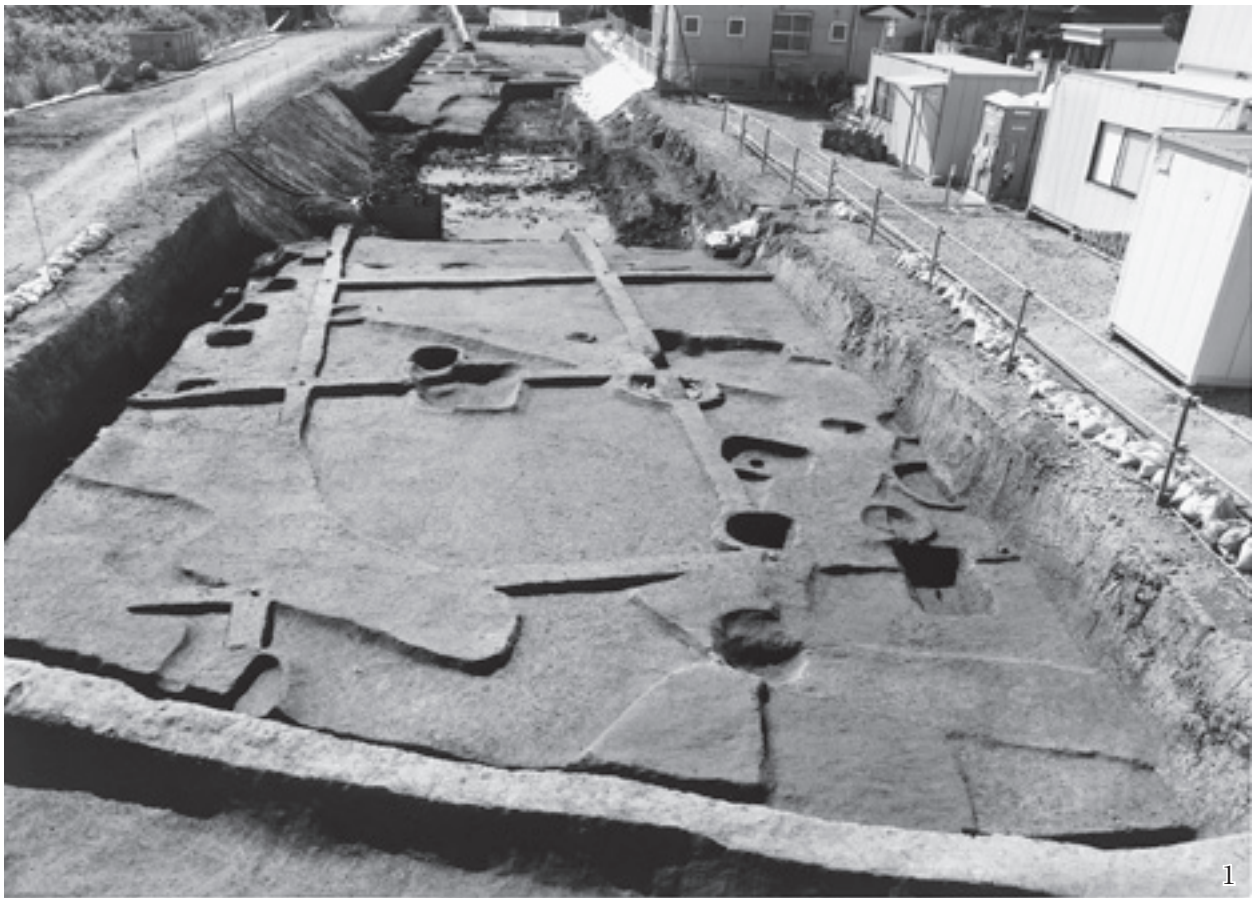
Tab.21　出土遺物観察表（銅製品　写真のみ）－⑧

遺物番号	PL No.	遺構	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	備考
371	30	2 区 SD008	―	―	4.1	1.1	0.4	41	青銅
372		調査区	―	―	3.2	2.1	0.5	5.4	青銅
373		調査区	―	―	2.8	2.0	1.0	3.9	青銅
374		調査区	―	―	2.8	1.2	0.4	1.57	装飾品

Tab.22　出土遺物観察表（土製品　写真のみ）－⑨

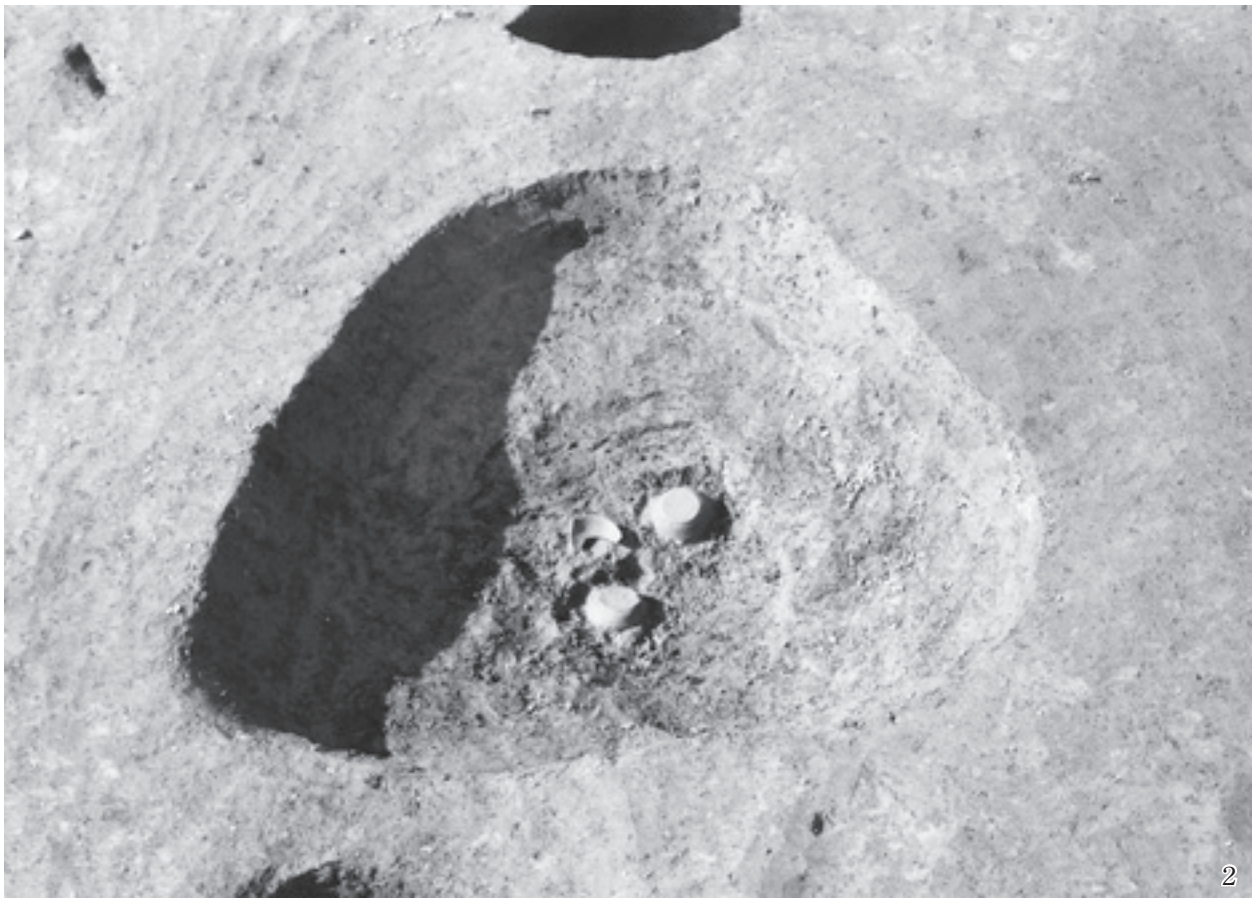
遺物番号	PL No.	遺構番号	種別	器種	最大幅	最大厚	器高	色調	胎土	調整	備考
375	26	SD008	須恵	土人形	4.3	2.1	(3.7)	浅黄橙 10YR8/3	雲母 . 赤色酸化粒	ナデ . ヘラ削り	
376		SD008	須恵	土人形	3.6	3.8	4.1	灰白 2.5Y8/2	雲母 . 砂粒	ナデ	
377		SD008	土師	土鈴	1.8	1.1	2.7	浅黄橙 10YR8/3	雲母 . 赤色酸化粒	ナデ	
378		SK001	土師器	土人形	6.6	1.9	(8.7)	にぶい黄橙 10YR7/4	長石 . 石英 赤色酸化粒	ハケ目 . ナデ . 指頭圧痕ヘラ工具による調整	俵
379		SK001	土師器	土人形	7.1	3.9	(2.8)	橙 7.5YR7/6	雲母 . 砂粒 赤色酸化粒	ナデ . 指頭圧痕	公家
380		SK001	土師器	土人形	3.7	2.7	4.1	浅黄橙 7.5YR8/4	雲母 . 赤色酸化粒	ナデ . 指頭圧痕	福助
381		SK001	土師器	土人形	5.2	1.8	(4.7)	にぶい橙 7.5YR7/4	砂粒 . 赤色酸化粒	指頭圧痕 . ナデ . ヘラ削り	
382		SK001	土師器	土人形	4.8	1.8	(4.4)	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色酸化粒	ナデ	公家
383		SK001	土師器	土人形	4.2	3.1	(5.0)	にぶい橙 7.5YR7/4	石英 . 雲母 赤色酸化粒	ナデ	
384		SK004	土師器	泥メンコ	2.5	0.5	2.8	橙 7.5YR7/6	長石 . 赤色酸化粒	ナデ	うちわ
385		調査区	土師器	土人形	3.4	1.9	(4.6)	浅黄橙 7.5YR8/4	雲母 . 長石 赤色酸化粒	ナデ . ヘラ削り	
386		調査区	土師器	土人形	2.3	3.5	(5.0)	浅黄橙 7.5YR8/4	雲母 . 砂粒 赤色酸化粒	ナデ . ヘラ削り	
387		調査区	土師器	土人形	5.0	2.9	(4.4)	浅黄橙 10YR8/4	雲母 . 砂粒	ナデ . ハケ目 . ヘラ削り	
388		調査区	土師器	土人形	4.2	2.2	(5.5)	浅橙 5YR8/4	雲母 . 赤色酸化粒	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	
389		調査区	土師器	土人形	2.4	1.6	3.8	浅黄橙 7.5YR8/4	石英 . 赤色酸化粒		大黒様
390		調査区	土師器	土人形	3.3	1.2	(4.17)	浅黄橙 7.5YR8/4	雲母 . 長石 赤色酸化粒	ナデ . 指頭圧痕	恵比寿
391		調査区	土師器	土人形	3.0	1.8	6.5	にぶい橙 7.5YR6/3	雲母 . 石英 赤色酸化粒	ナデ . ヘラ削り	猿
392		調査区	土師器	土人形	1.9	0.8	2.2	にぶい黄橙 10YR7/4	長石 . 石英	ナデ . 指頭圧痕	女児
393		調査区	土師	土鈴	1.0	1.8	(2.7)	浅黄橙 10YR8/4	赤色酸化粒	ナデ . 指頭圧痕	
394		調査区	土師	土鈴	3.7	3.3	(3.6)	灰白 2.5Y8/2	石英 . 砂粒	ナデ	

写　真 PLATE

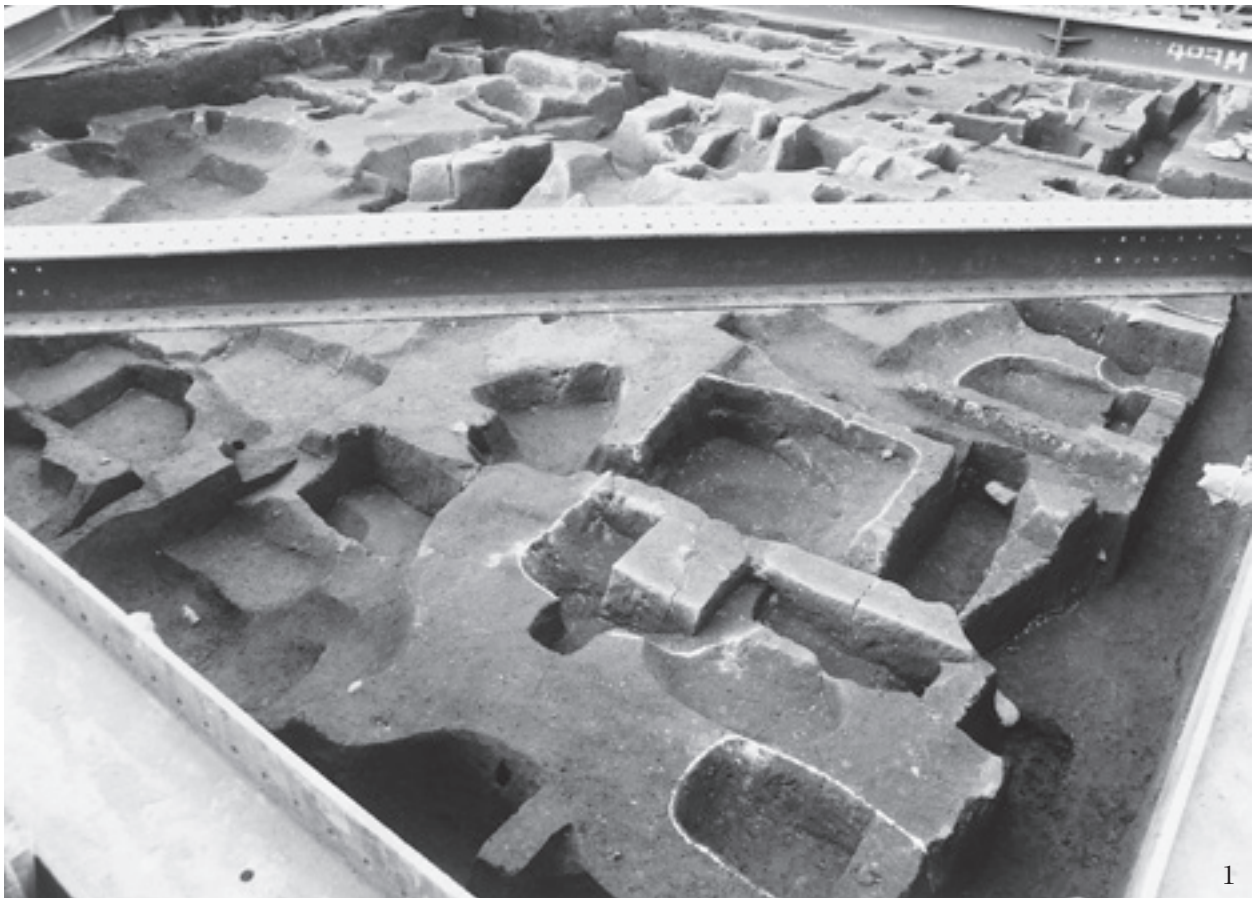


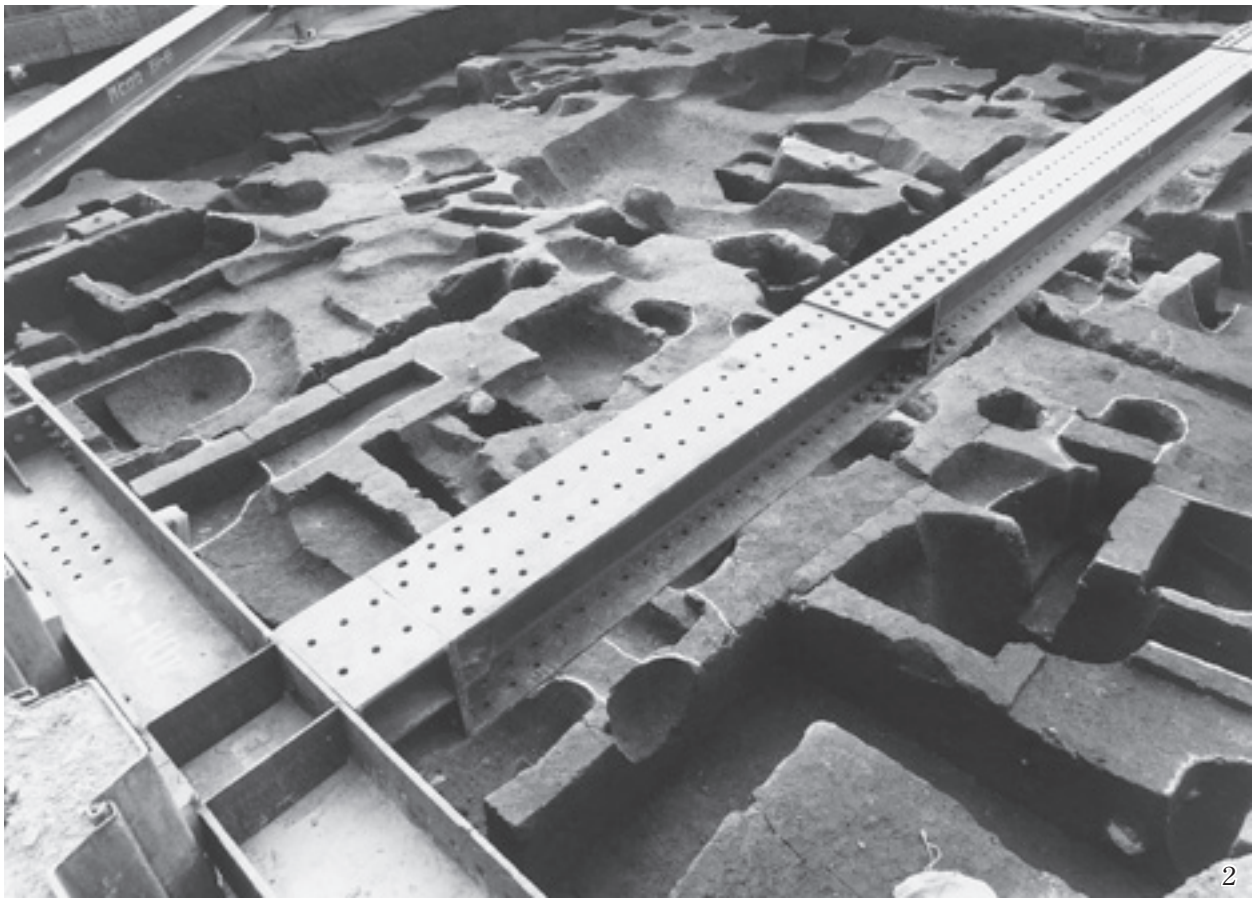
1．1区４層完掘状況　北より
2．1区６層完掘状況　北より

1．1区土坑 SK001 遺物出土状況
2．1区土坑 SK002 遺物出土状況

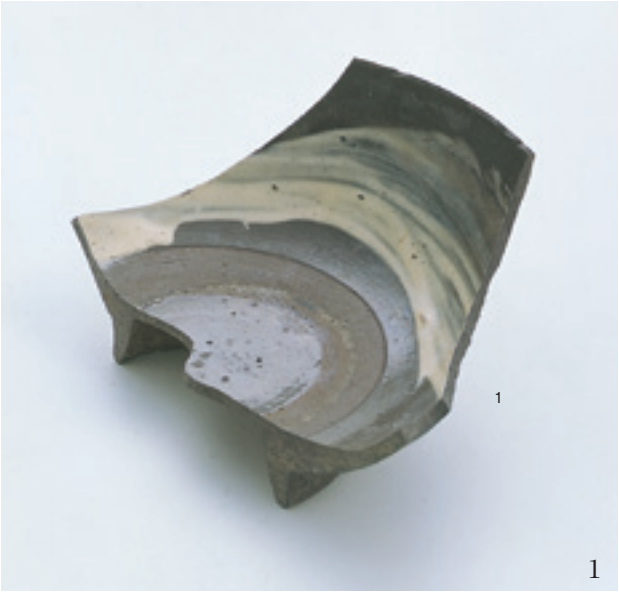


1．1区土坑 SK003 遺物出土状況
2．1区墓 ST001 遺物出土状況





1．2区4層完掘状況
2．2区5層完掘状況



1．溝 SD001 出土遺物
2．溝 SD003 出土遺物
3．溝 SD008（11）・（写真のみ）出土遺物
4．溝 SD008 出土遺物（写真のみ）
5．溝 SD008 出土遺物

1．溝 SD008（3～6）・（写真のみ）出土遺物
2．溝 SD008 出土遺物（写真のみ）

1．溝 SD008 出土遺物
2．溝 SD008 出土遺物（写真のみ）

1．溝 SD008（8）・（写真のみ）出土遺物
2．溝 SD008（7）・（写真のみ）出土遺物

1．溝 SD009 出土遺物（写真のみ）　2．溝 SD010（14・15）・（写真のみ）出土遺物
3．土坑 SK001 出土遺物

1．土坑 SK001 出土遺物（写真のみ）
2．土坑 SK001（28）・（写真のみ）出土遺物

1．土坑 SK001 出土遺物（写真のみ）
2．土坑 SK001 出土遺物

1．土坑 SK001（29）・（写真のみ）出土遺物　　2．3．4．土坑 SK002 出土遺物

1．土坑 SK002 出土遺物（写真のみ）

2．3．土坑 SK002 出土遺物

1．2．土坑 SK002 出土遺物（写真のみ）

1．土坑 SK003 出土遺物　　2．3．土坑 SK003 出土遺物（写真のみ）

1．土坑 SK004 出土遺物（写真のみ）
3．土坑 SK029 出土遺物

2．土坑 SK029 出土遺物（写真のみ）
4．土坑 SK031 出土遺物（写真のみ）

1．土坑 SK032 出土遺物　　2．土坑 SK034 出土遺物
3．土坑 SK055 出土遺物（写真のみ）

1．土坑 SK055 出土遺物
5．調査区内出土遺物（写真のみ）

2．3．4．調査区内出土遺物

1．2．調査区内出土遺物

1．調査区内出土遺物
3．溝 SD008 出土遺物

2．調査区内（82・83）・（写真のみ）出土遺物
4．坩堝

1．輸入陶磁器白磁・青白磁出土遺物（写真のみ）
2．輸入陶磁器青磁出土遺物（写真のみ）

1．2．輸入陶磁器染付出土遺物（写真のみ）　　3．輸入陶器出土遺物（写真のみ）

1．調査区内染付出土遺物（写真のみ）
3．中国白磁出土遺物（写真のみ）

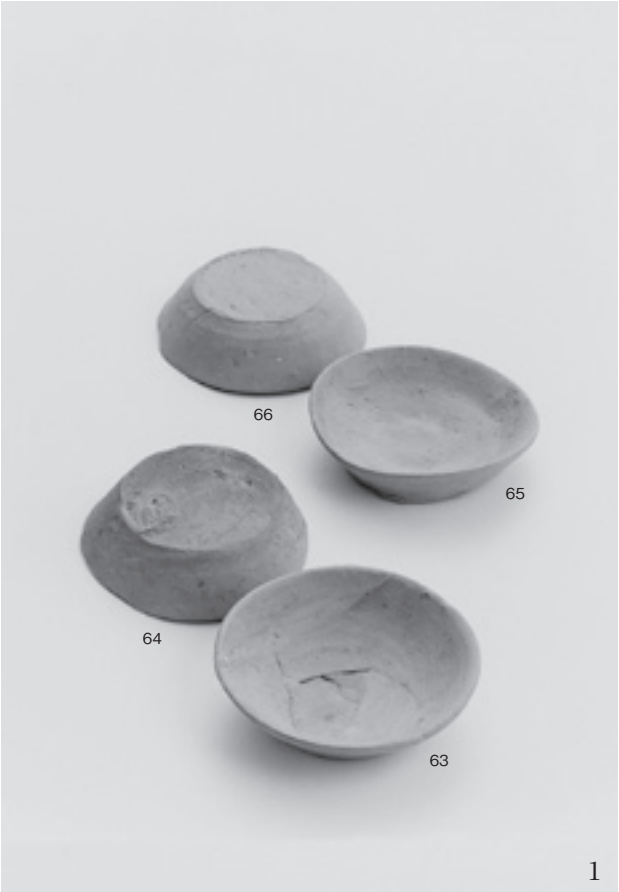
2．瑠璃釉・翡翠釉出土遺物（写真のみ）
4．染付（吉祥文字）出土遺物（写真のみ）

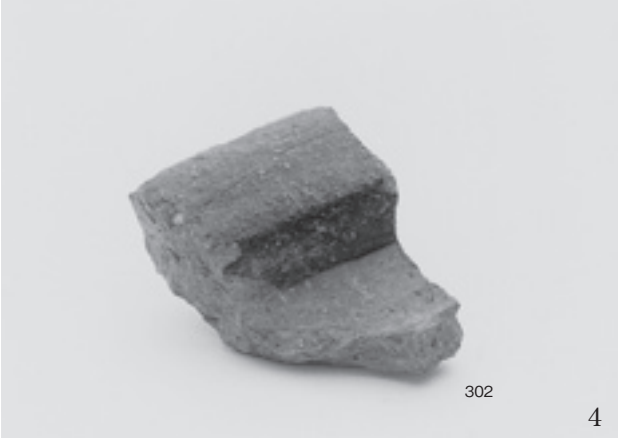
1．土人形（写真のみ）
2．古銭

1．溝 SD008 出土遺物（写真のみ）
2．溝 SD008 出土遺物
3．溝 SD013 出土遺物

4.5．土坑 SK001 出土遺物（写真のみ）

1．土坑 SK055 出土遺物
2．土坑 SK111 出土遺物
3．土坑 SK106 出土遺物
4．土坑 SK105 出土遺物



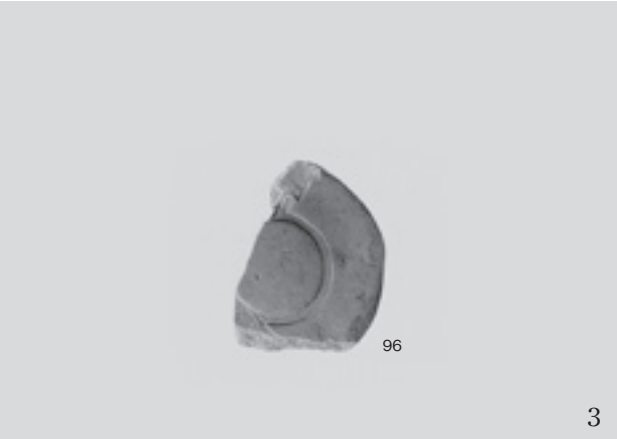


1．墓 ST001 出土遺物
2．墓 ST002 出土遺物

3．調査区内出土遺物
4．調査区内出土遺物（写真のみ）
5．6．調査区内出土遺物

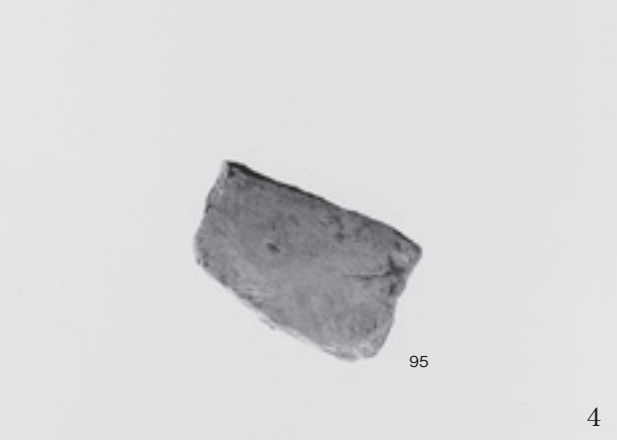
1．溝 SD016 出土遺物
3．銅製品

2．土坑 SK110 出土遺物
4．石製品



1.2.3.4. 軒丸瓦
5. 軒目板（桟瓦）

6.7. 滴水瓦



1．2．3．軒平瓦

4．平瓦
5．鬼瓦

五輪塔

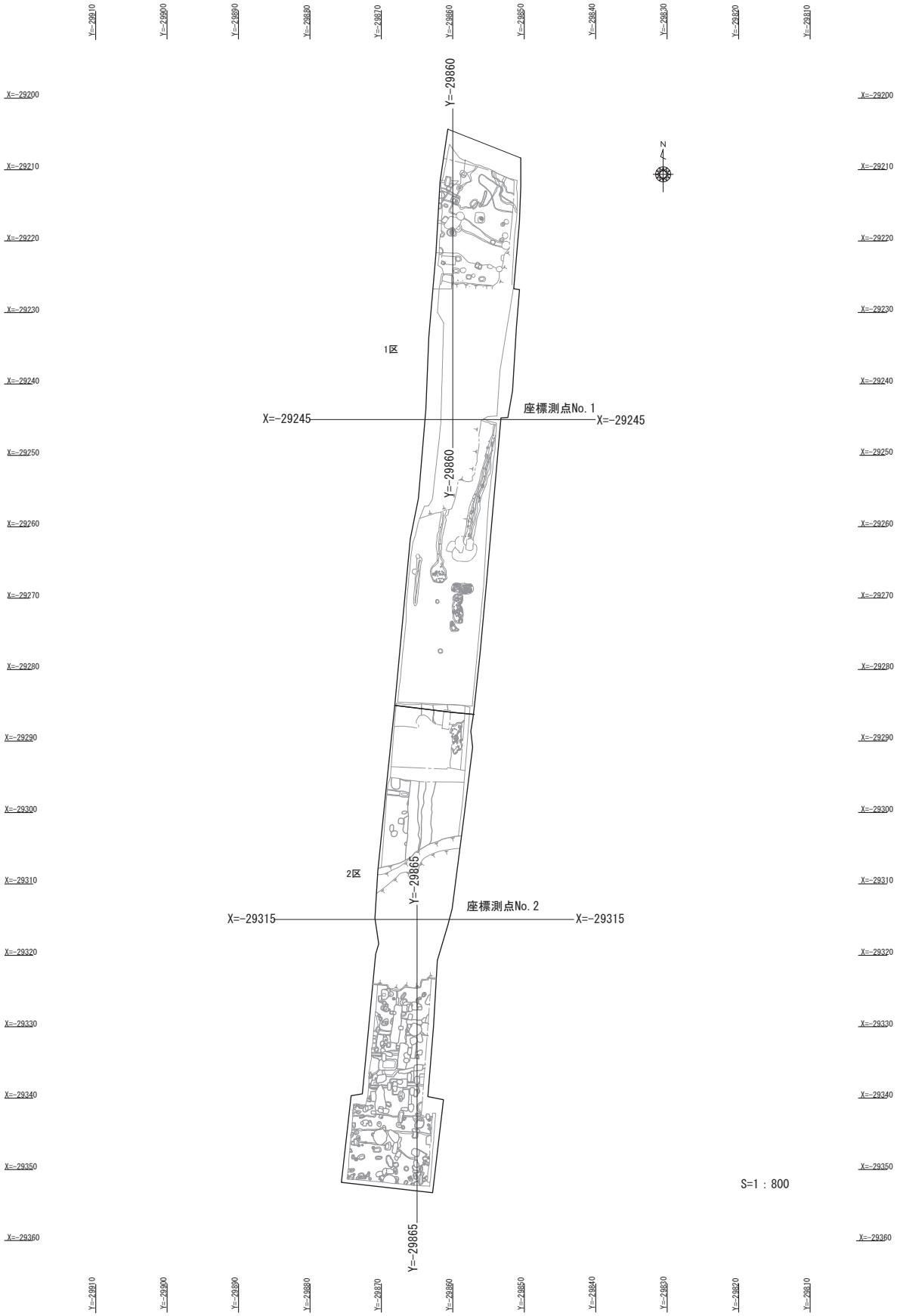

Y=-29910
Y=-29900
Y=-29890
Y=-29880
Y=-29870
Y=-29860
Y=-29850
Y=-29840
Y=-29830
Y=-29820
Y=-29810
X=-29200
X=-29210
X=-29220
X=-29230
X=-29240
X=-29250
X=-29260
X=-29270
X=-29280
X=-29290
X=-29300
X=-29310
X=-29320
X=-29330
X=-29340
X=-29350
X=-29360
N
1区
座標測点No. 1
X=-29245
X=-29245
Y=-29860
2区
Y=-29865
座標測点No. 2
X=-29315
X=-29315
Y=-29865
S=1 : 800

Fig.28　座標測地点

報告書抄録

ふりがな	かわしりとじょうまちいせき
書名	川尻外城町遺跡
副書名	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第 279 集
編著者名	長谷部善一
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒 862-8609　熊本県熊本市中央区水前寺６丁目 18 番１号　TEL．096-333-2706
発行年月日	2013 年３月 31 日
資料の保管場所	熊本県文化財資料室　〒 861-4215　熊本市南区城南町沈目 1677　TEL．0964-28-4933

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かわしりとじょうまちいせき 川尻外城町遺跡	熊本市南区 川尻町３丁目 831	43 熊本県 104 熊本市南区	400	№１北緯 324421.18236	№１東経 1304044.49420	2006.9.20 ～ 2007.3.30	1756.91 ㎡	九州新幹線 建設工事
				№２北緯 324418.90934	№２東経 1304044.31028			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川尻外城町遺跡	散布地	中世・近世	土坑・溝	青磁、白磁、染付、土師器、陶器、磁器、瓦、石製品、青銅器、鉄製品、土製品、古銭	

要　約	現在、加勢川流域に位置する川尻は、近世には緑川の河口に位置していた。鎌倉初期、河尻荘の地頭に任命された河尻実明が河尻城（川尻外城）を築き、また河尻の津を天然の良港として整備して発展させたのが始まりと言われている。また、江戸時代には細川藩の主要港として栄え、船着場を中心として町屋が発達し繁栄した。今回調査実施した地点は、川尻外城の濠の一部を後世に小規模な運河として利用したが、当時の面影を残してはいなかった。また調査区内からは近世土坑群が検出され町屋の広がりが背後地にまで広がっているのを確認した。

本書の仕様

●判型　A4 判
●頁数　92 頁
●組版　13 級　MS 明朝体基本
　　adobe In DesignCS5.5（for Windows）
●印刷　オフセット印刷
●製版　本誌のモノクロ及びカラー写真はすべてスクリーン線数 200 線で製版
●用紙　表　　紙　アートポスト菊判 139 kg
　　本　　文　マットコート菊判 62.5 kg
　　写真図版　特アート SA 金藤 4/6 判 135 kg
●製本　糸かがり綴じ
●表紙加工　PP 貼り

2013 年 3 月 25 日　印刷
2013 年 3 月 31 日　発行

熊本県文化財調査報告第 279 集
川尻外城町遺跡

著作権所有　熊本県熊本市中央区水前寺町 6 丁目 18 番 1 号
発　行　者　熊本県教育委員会
印　刷　者　株式会社トライ
熊本県熊本市北区植木町味取 373-1 番地

発　行　者：熊　本　県
所　　属：教育庁文化課
発行年度　：平成 24 年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 279 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 川尻外城町遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/